

平成14・15・16年度

埋蔵文化財調査年報

2009年3月

太子町教育委員会

平成14・15・16年度

埋蔵文化財調査年報

－ 町単費事業及び受託事業対象分 －

2009年3月

太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成14・15・16年度に実施した発掘調査のうち、町単費事業及び受託事業として実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課海野浩幸が担当した。
3. 本書の示す標高はT.Pを基準とし、方位は磁北を示す。
4. 本書で用いた経緯度は、世界測地系を基準とした。
5. 本書の執筆・編集は、海野が行った。
6. 遺物実測図の断面は、縄紋土器・弥生土器・土師器は黒抜で、須恵器・瓦は白抜、磁器はドットで石製品は斜線で示した。
7. 本報告書に使用した図面・写真は、太子町教育委員会が保管している。



図1 太子町位置図

目 次

例 言

I 平成14年度調査概要	1
平成14年度調査概要	
鵜石田遺跡	3
東南遺跡（第15次調査）	5
鵜遺跡（第18次調査）	8
鵜遺跡（第19次調査）	11
鵜遺跡（第20次調査）	13
蓮常寺東遺跡	15
糸井字前田	17
鵜遺跡（第21次調査）	19
南柳遺跡（第8次調査）	21
蓮常寺北遺跡（第4次調査）	25
II 平成15年度調査概要	29
平成15年度調査概要	
蓮常北遺跡（第5次調査）	31
立岡笹山遺跡	38
田中遺跡	39
東保遺跡	41
楯岩城跡	44
山田大山8号墳（聖古墳）	46
川島遺跡（第14次調査）	48
筑紫大道跡	50
竹広遺跡（第2次調査）	52
立岡南遺跡（第2次調査）	54
矢田部南遺跡	56
福井大池	58
III 平成16年度調査概要	60
平成16年度調査概要	
東保高田遺跡	62
斑鳩寺南遺跡	65
城山遺跡	75
田中遺跡	76
立岡東遺跡	77
IV 報告書抄録	86

挿 図 目 次

図1 太子町位置図	図33 調査区全景（東より）	19
図2 平成14年度調査位置図	図34 遺構平面図・土層断面図	20
鶯石田遺跡	南柳遺跡（第8次調査）	
図3 トレンチ配置図	図35 トレンチ配置図	21
図4 遺構平面図	図36 2トレンチ全景（西より）	22
図5 1トレンチ（南より）	図37 4トレンチ全景（西より）	22
図6 4トレンチ（東より）	図38 5トレンチ全景（西より）	22
東南遺跡（第15次調査）	図39 6トレンチ全景（南より）	22
図7 調査区配置図	図40 7トレンチ全景（西より）	22
図8 調査区全景（南より）	図41 10トレンチ全景（南より）	22
図9 南端部第2遺構面（北より）	図42 遺構平面図・土層断面図（1）	23
図10 土層断面図	図43 遺構平面図・土層断面図（2）	24
図11 遺構平面図	図44 出土遺物	24
図12 出土遺物	蓮常寺北遺跡（第4次調査）	
鶯遺跡（第18次調査）	図45 トレンチ配置図	25
図13 トレンチ配置図	図46 4トレンチ全景（南より）	26
図14 遺構平面図	図47 8トレンチ全景（西より）	26
図15 1トレンチ全景（西より）	図48 遺構平面図・土層断面図（1）	26
図16 2トレンチ全景（西より）	図49 遺構平面図・土層断面図（2）	27
図17 出土遺物	図50 出土遺物（1）	27
鶯遺跡（第19次調査）	図51 出土遺物（2）	28
図18 トレンチ配置図	図52 平成15年度調査位置図	30
図19 出土遺物	蓮常寺北遺跡（第5次調査）	
図20 遺構平面図・土層断面図	図53 トレンチ配置図	31
鶯遺跡（第20次調査）	図54 遺構配置図	32
図21 トレンチ配置図	図55 出土遺物（1）	33
図22 トレンチ全景（北より）	図56 出土遺物（2）	34
図23 溝土層断面	図57 出土遺物（3）	35
図24 溝土層断面図	図58 出土遺物（4）	36
図25 遺構平面図	図59 1トレンチ全景（西より）	37
図26 出土遺物	図60 2トレンチ全景（西より）	37
蓮常寺東遺跡	図61 3トレンチ全景（東より）	37
図27 試掘坪配置図	図62 4トレンチ全景（北より）	37
図28 土層断面図	図63 5トレンチ全景（南より）	37
図29 4坪出土遺物	図64 4トレンチ大溝土層（南西より）	37
糸井字前田	立岡笹山遺跡	
図30 試掘坪配置図	図65 試掘坪配置図	38
図31 平面図・土層断面図	図66 土層断面図	38
鶯遺跡（第21次調査）	図67 1坪出土遺物	38
図32 調査配置図		19

田中遺跡		福井大池	
図68 試掘坪配置図	39	図99 トレンチ配置図	58
図69 土層断面図	40	図100 土層断面図	59
東保遺跡		図101 堤断面(南から)	59
図70 試掘坪配置図	41	図102 平成16年度調査位置図	61
図71 土層断面図(1)	42	東保高田遺跡	
図72 土層断面図(2)	43	図103 調査区配置図	62
図73 出土遺物	43	図104 遺構平面図・土層断面図	63
楯岩城跡		図105 出土遺物	64
図74 調査区配置図	44	図106 調査区1全景(西より)	64
図75 調査区西半(南東より)	44	図107 調査区2全景(北より)	64
図76 遺構平面図・土層断面図	45	斑鳩寺南遺跡	
図77 出土遺物	45	図108 トレンチ配置図	65
山田大山8号墳(聖古墳)		図109 遺構平面図(1)	67
図78 トレンチ配置図	46	図110 遺構平面図(2)	68
図79 1トレンチ全景(北東より)	46	図111 出土遺物(1)	69
図80 2トレンチ全景(南東より)	46	図112 出土遺物(2)	70
図81 土層断面図	47	図113 出土遺物(3)	71
川島遺跡(第14次調査)		図114 出土遺物(4)	72
図82 試掘坪配置図	48	図115 出土遺物(5)	73
図83 1坪出土遺物	48	図116 3トレンチ全景(東より)	74
図84 土層断面図	49	図117 4トレンチ全景(北より)	74
図85 1坪	49	図118 5トレンチ全景(南より)	74
図86 3坪	49	図119 8トレンチ全景(西より)	74
図87 6坪	49	図120 9トレンチ全景(西より)	74
筑紫大道跡		図121 13トレンチ全景(北より)	74
図88 試掘坪配置図	50	図122 14トレンチ南端(北より)	74
図89 3坪出土遺物	50	城山遺跡	
図90 土層断面図	51	図123 試掘坪配置図	75
竹広遺跡(第2次調査)		図124 土層断面図	75
図91 試掘坪配置図	52	田中遺跡	
図92 3坪全景(西より)	52	図125 試掘坪配置図	76
図93 遺構平面図・土層断面図	53	図126 土層断面図	76
立岡南遺跡(第2次調査)		図127 1坪出土遺物	76
図94 試掘坪配置図	54	立岡東遺跡	
図95 遺構平面図・土層断面図	55	図128 トレンチ配置図	77
矢田部南遺跡		図129 5トレンチ全景(北より)	77
図96 トレンチ配置図	56	図130 5トレンチ出土遺物	77
図97 2トレンチ(西より)	56	図131 5トレンチ平面図・土層断面図	78
図98 遺構平面図・土層断面図	57		

表目次

表1	平成14年度調査一覧表	1
表2	平成15年度調査一覧表	29
表3	平成16年度調査一覧表	60
表4	遺物観察表	79



調査風景

I 平成14年度調査概要

平成14年度では、12件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が5件、公共事業に伴う確認調査が5件、公共事業に伴う本発掘調査が1件、学術調査が1件である。

そのうち、学術調査1件を国庫補助事業として実施した。

表1 平成14年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	鵜石田遺跡	鵜字石田	店舗建設	1251.97	70	平成14年4月22日 ～4月23日	本書掲載
2	東南遺跡 (第15次調査)	鵜字構ノ内	下水道埋設	L=100m	150.8	平成14年7月8日 ～8月2日	公共事業 本書掲載
3	鵜遺跡 (第18次調査)	東保字高田	駐車場整備	486.72	36.5	平成14年9月26日 ～10月4日	公共事業 本書掲載
4	鵜遺跡 (第19次調査)	東保字高田	交番庁舎建設	173.85	19	平成14年9月30日 ～10月3日	公共事業 本書掲載
5	鵜遺跡 (第20次調査)	鵜字小栗田	宅地造成	1731.72	76.5	平成14年9月30日 ～10月11日	本書掲載
6	蓮常寺東遺跡	蓮常寺字大道	宅地造成	1700	48	平成14年10月22日	本書掲載
7	糸井字前田	糸井字前田	共同住宅建設	1663.14	48	平成14年10月30日 ～10月31日	本書掲載
8	鵜遺跡 (第21次調査)	東保字高田	交番庁舎建設	173.85	44	平成14年11月5日 ～11月12日	本調査 公共事業 本書掲載
9	斑鳩寺遺跡 (第9次調査)	鵜字斑鳩寺	学術調査 国庫補助事業	53.5	53.5	平成14年11月7日 ～11月28日	文化財資料 第68集
10	斑鳩小学校遺跡 (第2次調査)	鵜字柳ノ内	防火水槽埋設	25.2	16	平成14年12月22日 ～12月24日	公共事業 文化財資料 第72集
11	南柳遺跡 (第8次調査)	佐用岡字南柳 他	駐車場整備	1200	65.8	平成15年1月16日 ～1月20日	公共事業 本書掲載
12	蓮常寺北遺跡 (第4次調査)	蓮常寺字一ノ宮	店舗建設	2599.99	80.34	平成15年3月17日 ～3月19日	本書掲載



図2 平成14年度調査位置図

鵜石田遺跡（第3次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鵜字石田1401 - 1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年4月22日～4月23日

5. 調査面積

70㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、トレンチ配置図（1/100）

写真記録（デジタルカメラ撮影）

北緯（34度49分50秒）、東経（134度34分7秒）

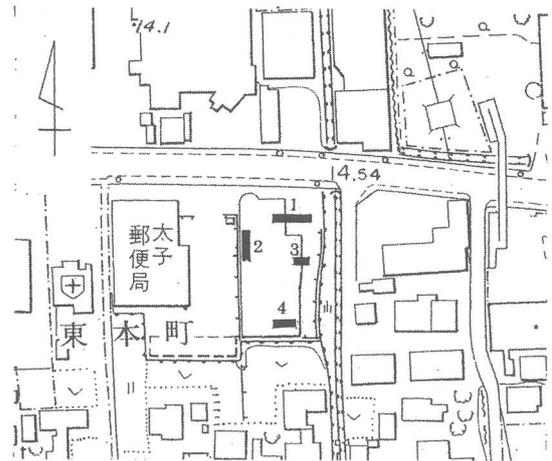


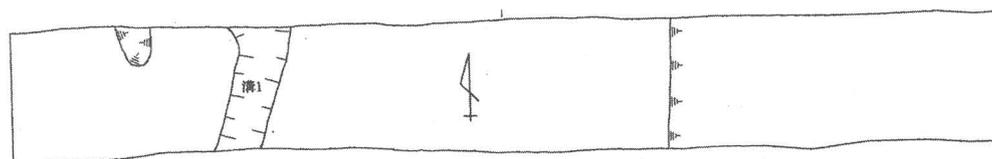
図3 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

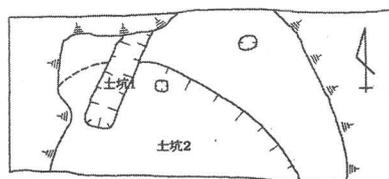
太子町鵜字石田1401-1において営業所改築工事が計画され、工事予定地は周知の埋蔵文化財である鵜石田遺跡の包蔵地内であるため、工事に先立ち、遺跡の広がり及び遺構の保存状況を確認する目的で確認調査を実施した。

8. 調査の概要

調査は、幅2.5m前後、長さ4～12mのトレンチを計4箇所設定し、遺構・遺物包含層の検出にあたった。調査地の基本土層は、上層から盛土、耕土で淡暗茶褐色砂質土・地山となる。盛土は平均1.6m前後であるが、2トレンチでは1.9mで遺構面になる。検出された遺構は、1トレンチから南西方向に延びる幅56cmを測る溝、4トレンチから柱穴、土坑である。各トレンチは、瓦用粘土採掘と先の建築による掘り方による攪乱を受けている。



1トレンチ



4トレンチ

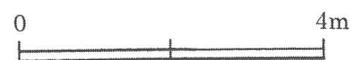


図4 遺構平面図

9. まとめ

今回の調査地区は、鵜石田遺跡の中央東部にあたるが、調査面積に対して確認された遺構は乏しかった。また、瓦用粘土採掘及び建築工事による攪乱が著しいことが確認された。今後、調査地東側で予定されている県道改良工事による県教育委員会の発掘調査によって、当遺跡の実態が解明されることを期待したい。

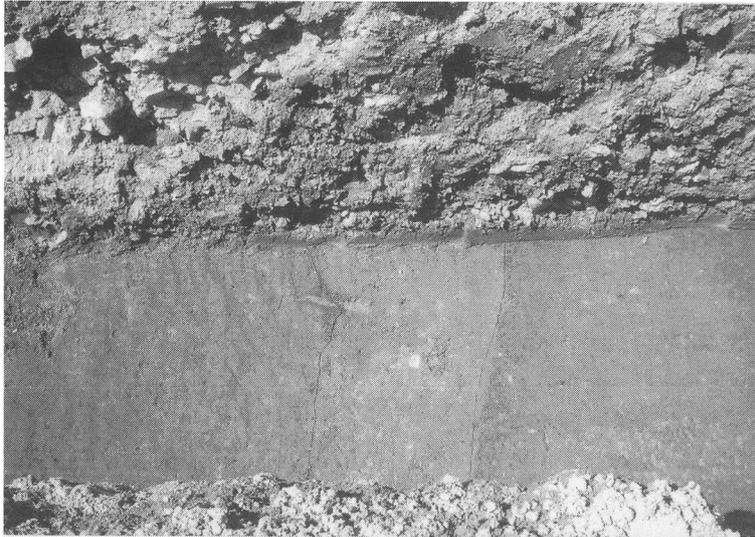


図5 1トレンチ（南より）

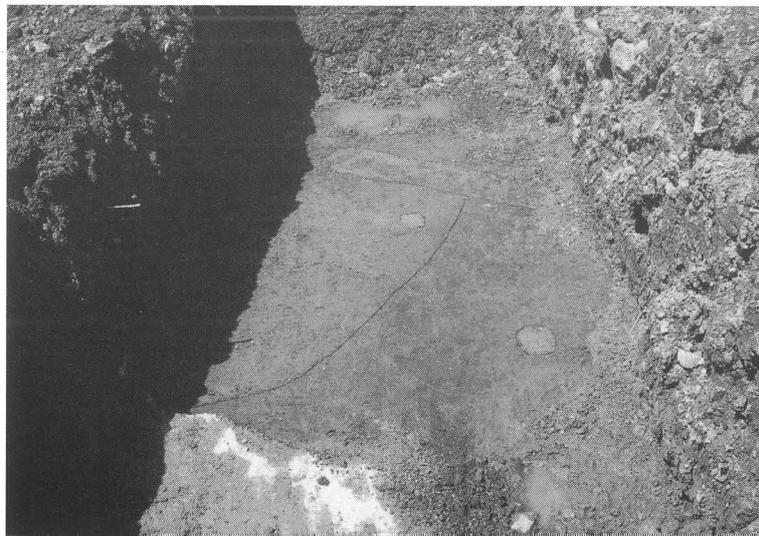


図6 4トレンチ（東より）

東南遺跡（第15次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鷗字構ノ内 3番地他

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年7月8日～8月2日

5. 調査面積

150.8㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、調査区配置図（1/500）

写真記録（カラー35mmネガ/リバーサル、カラー120mmリバーサル6×7版）

北緯（34度49分48秒）、東経（134度35分00秒）



図7 調査区配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町鷗字構ノ内 3番地他において平成13年度に引き続き、（主）太子御津線[街路龍野線]の東側歩道部分への公共下水道の埋設工事が実施されることになった。工事予定箇所は、周知の埋蔵文化財である東南遺跡の包蔵地内にあたることから、発掘調査を実施した。調査箇所は、関西電力鷗変電所の東方で、兵庫県教育委員会が平成13年度に発掘調査を実施したⅡ～Ⅲ区地点の東側歩道部分に位置する。調査地は標高13.10m前後を測り、現況は道路用地である。

8. 調査の概要

調査は、幅1.5mで南北約100mについて実施した。調査の結果、調査地の大半は近・現代の粘土採掘土坑による攪乱を受けており、遺構は南端部と北端部で検出されただけである。

南端部では、中世と縄紋時代後期の2面の遺構面を確認した。第1遺構面は中世の遺構面で、耕土直下の暗茶褐色粘質土面で明褐色砂質土を埋土とする溝1条とピット2基を検出した。溝は幅約1m、深さ15cmを測り、北西から南東方向に走る。第2遺構面は縄紋後期の遺構面で、黄褐色粘質土・地山面で土坑1基、ピット6基を検出した。土坑は、幅約1.2m、深さ20cmを測り、埋土中には焼土粒、炭片を包含している。土坑底面で焼土面が検出された。

地山面までには、第1遺構面である暗茶褐色粘質土の下層で暗黄色土の間層をはさんで堆積する淡褐色土・包含層を経て黄褐色粘質土・地山面にいたる。

北端部では、耕土直下の黄褐色粘質土・地山面でピット5基を検出するにとどまった。

遺物は、粘土採掘土坑から弥生式土器・須恵器・近世陶磁器と、南端部で検出された縄紋遺物包含層から縄紋式土器と少量のサヌカイト片が出土した。出土遺物は、いずれも細片で実測図化できたものはわずかである。

9. まとめ

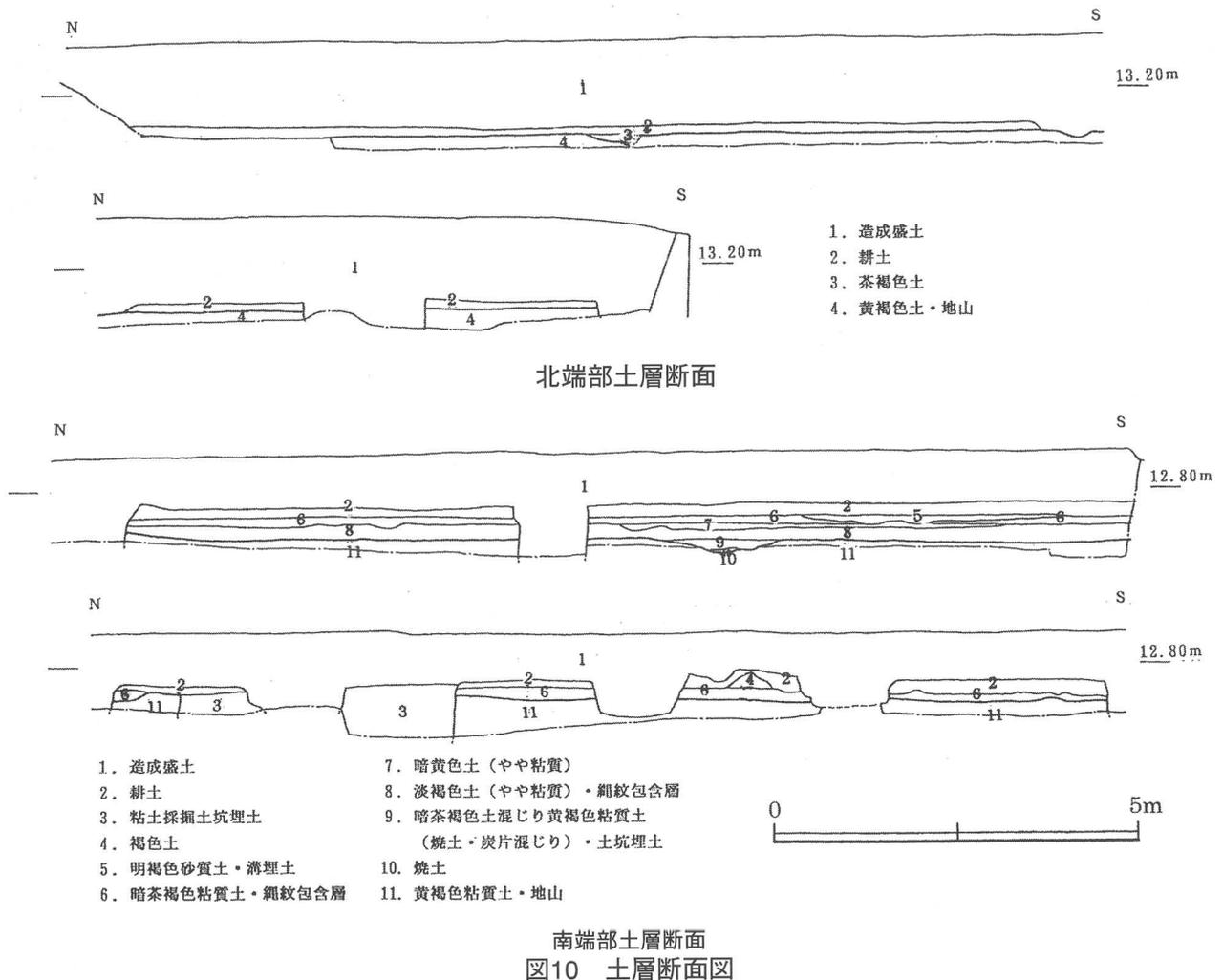
今回の調査地点では、南端部で縄紋時代後期と中世の遺構が検出されたが、中央部以北では攪乱が著しく、数基のピットを検出するにとどまった。遺構の分布状況から東南遺跡の北端にあたると考えられる。この結果は、隣接する県教育委員会の調査地区の成果とも整合するものである。

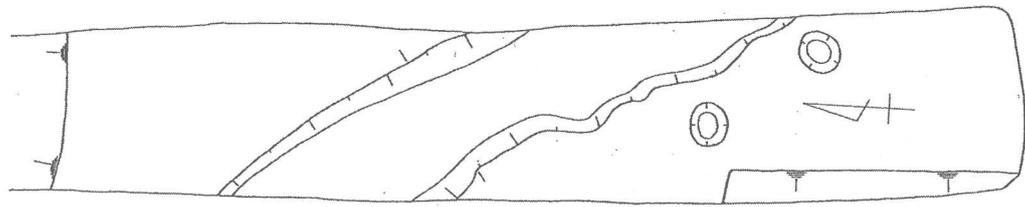
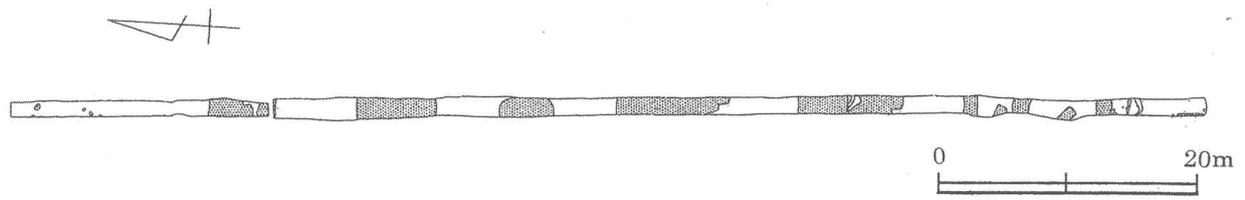


図8 調査区全景（南より）

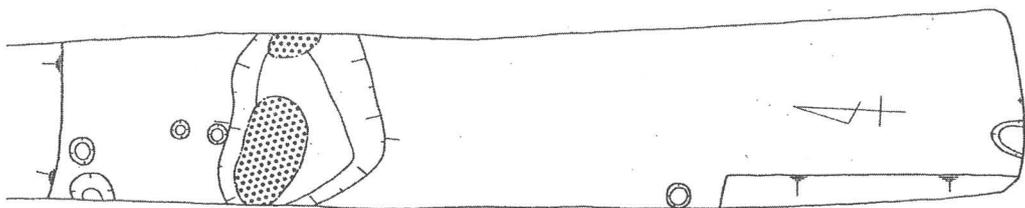


図9 南端部第2遺構面（北より）





南端部第1遺構面



■ = 烧土

南端部第2遺構面

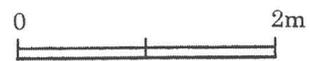
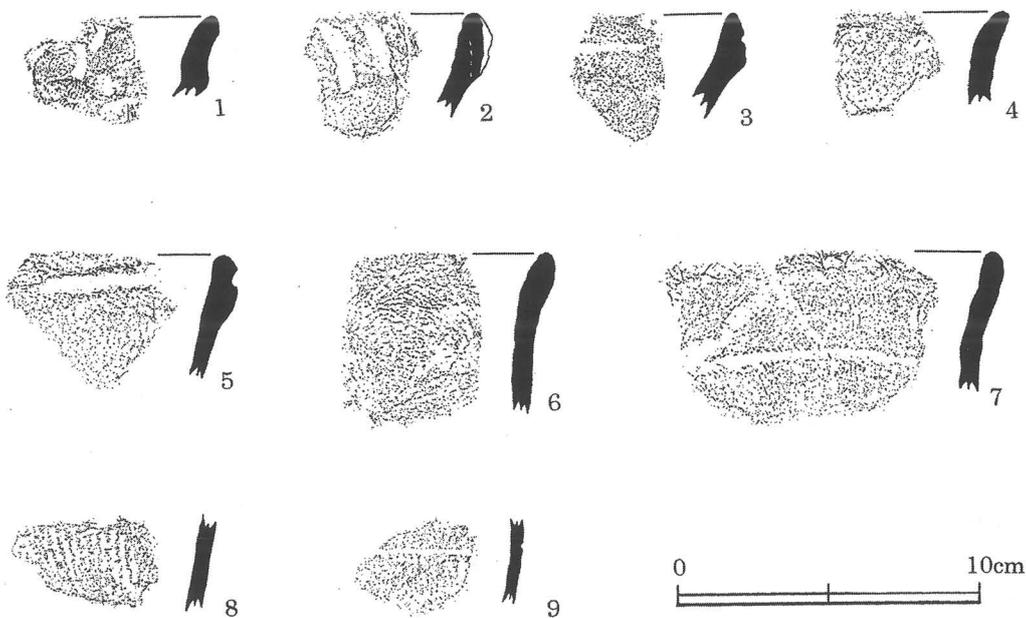


图11 遺構平面図



暗茶褐色粘質土(1・2)、淡褐色土(3~9)

图12 出土遺物

鵜遺跡（第18次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東保字高田59

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年9月26日～10月4日

5. 調査面積

36,5㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/10・1/20）、土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、トレンチ配置図（1/300）、
写真記録（カラーネガ/リバーサル35mm、カラーネガ 120mm 6×7版、デジタルカメラ撮影）
北緯（34度49分56秒）、東経（134度35分4秒）

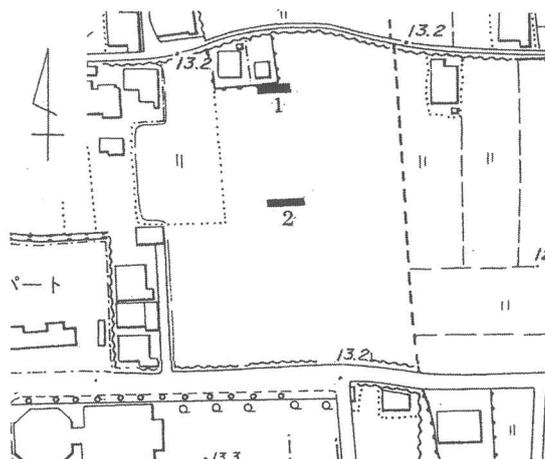


図13 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東保字高田59において太子町立文化会館北側駐車場の北東部の拡張が計画され、工事予定地は、周知の埋蔵文化財である鵜遺跡の包蔵地内にあたるため、遺構に影響の及ぶ擁壁施行部分について発掘調査を実施した。調査地の現況は、標高13,00m前後を測る畑である。

8. 調査の概要

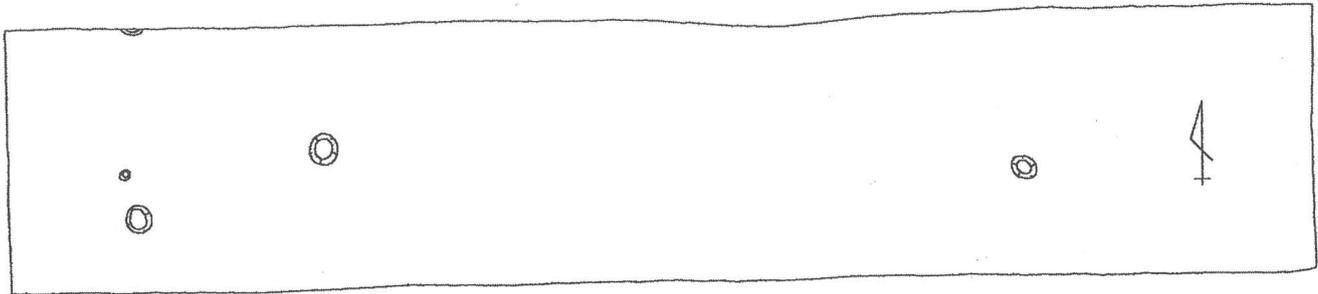
調査は、北側擁壁部分に2×10m、南側擁壁部分に1,5×11mのトレンチを設定して実施した。

1 トレンチ 北側擁壁部分に設定したトレンチで、土層は上層から耕土（約20cm）、灰黄色粘質土（約18cm）、弥生式土器細片を包含した淡黄褐色砂質土（約20cm）で淡黄褐色粘質土の地山となっている。遺構は、ピット5基を検出しただけである。いずれも耕土直下から掘り込まれており、径10～20cm、深さ17～43cmを測る。埋土は明黄色細砂土をブロック状に含んだ灰白色細砂である。中世以降のピットと考えられる。遺物は、灰黄色粘質土からサヌカイト製石鏃片1点を含む弥生式土器片・土師器片・須恵器片と、淡黄褐色砂質土から弥生式土器片が出土した。

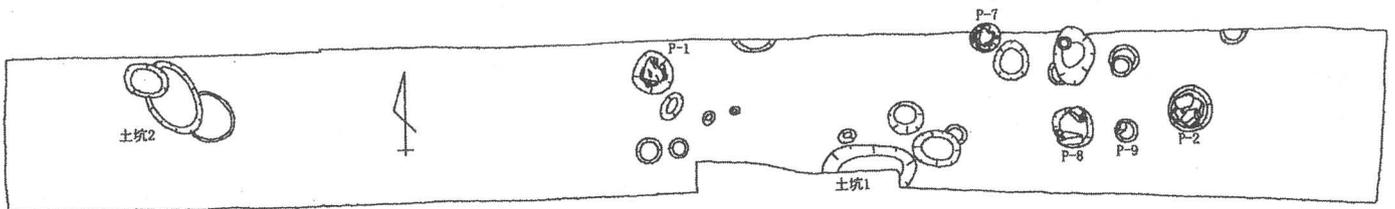
2 トレンチ 南側擁壁部分に設定したトレンチで、土層は上層から耕土（約20cm）直下で黄褐色砂質土の地山となっている。遺構は、土坑2基、ピット23基が検出された。土坑は、それぞれ長径60～70cm、短径約40cmの楕円形を呈し、深さ10～13cmを測る。ピットは、限られた調査区のため建物とし復元できるものは認められなかったが、径8～40cm、深さ15～50cmを測り、弥生時代中期の壺片を埋納したもの（P-1）、根石状に河原石を内蔵したもの（P-2・7・8・9）がある。なお、P-7からは上層から台付鉢が出土している。遺物は、遺構面上から弥生式土器片・須恵器片、遺構内から弥生式土器片が出土した。

9. まとめ

調査の結果、南トレンチで弥生時代の土坑・ピットが検出されたが、北トレンチでは中世以降と考えられるピットがわずかに検出されただけで、南トレンチと北トレンチとでは遺構の密度に極端な差があることが認められた。また、北トレンチでの土層観察によると、南トレンチ以北は流路あるいは低湿地状の地形に移行していくものとみられ、今回の調査地点は、鵜遺跡が立地する微高地の縁辺部に位置するものと考えられる。



1トレンチ



2トレンチ

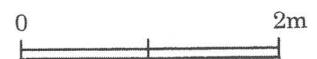


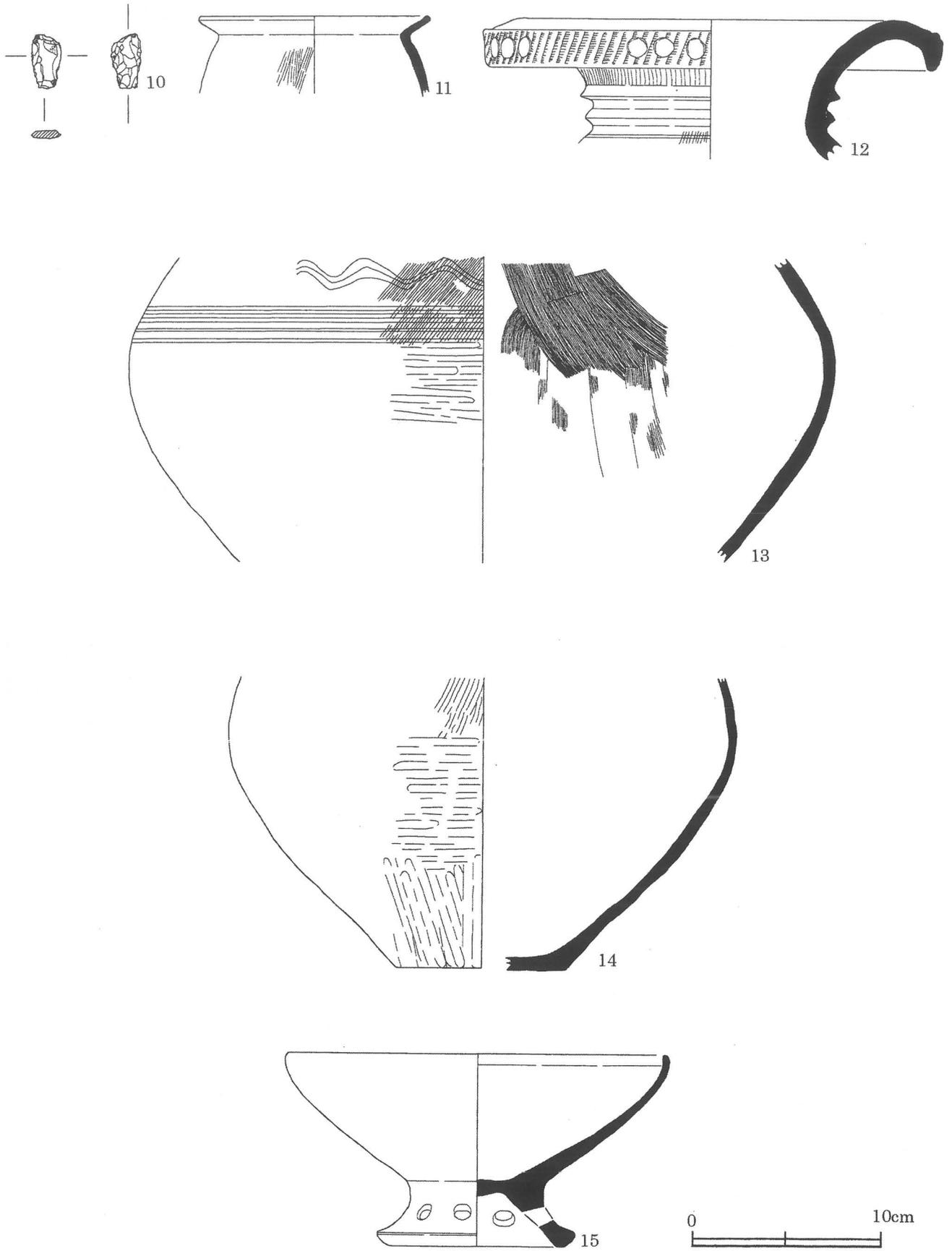
図14 遺構平面図



図15 1トレンチ全景 (西より)



図16 2トレンチ全景 (西より)



1トレンチ灰黄色粘質土(10)、2トレンチ遺構面(11)、2トレンチP1(12~14)、2トレンチP7(15)

図17 出土遺物

鶯遺跡（第19次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東保字高田54-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年9月30日～10月3日

5. 調査面積

19㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/80）、土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、トレンチ配置図（1/250）

写真記録（カラーネガ/リバーサル 35mm・デジタルカメラ撮影）

北緯（34度49分54秒）、東経（134度35分4秒）

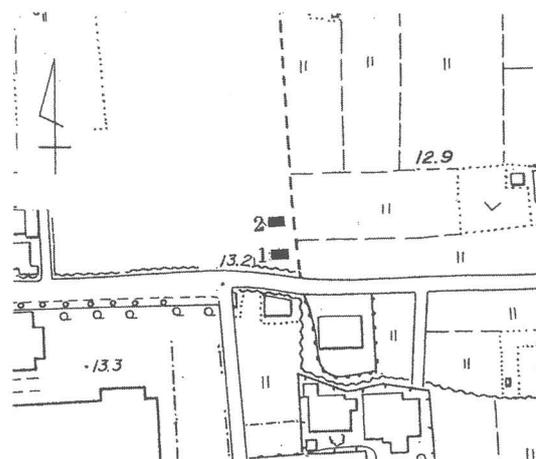


図18 トレンチ配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町東保字高田54-1において龍野警察署斑鳩交番庁舎の新築工事が計画され、建築予定地は、周知の埋蔵文化財である鶯遺跡の包蔵地内にあたるため、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は太子町の中央部、大字東保地区の西部で鶯地区との境に位置している。また、町立文化会館北側駐車場南東端部に位置する。

8. 調査の概要

調査は、幅2m、長さ5mのトレンチを2箇所設定し、遺構・遺物包含層の検出にあたった。

調査地の基本土層は、上層から盛土（約50cm）、耕土（約20cm）、白灰色砂質土・床土（2～14cm）で黄色粘質土・地山となり、地山面が遺構面となる。遺構面の標高は、12.80m前後を測る。

検出された遺構は、1～2トレンチで南北方向の溝1条を検出した。溝は、幅2.8m前後を測り、上層の鈍い明黄褐色粘砂質土から磨耗した土師器片が数点出土した。遺物は、溝上層からのものの他に、1トレンチから砥石片が出土した。

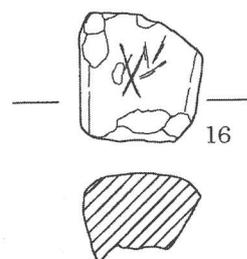


図19 1トレンチ出土遺物

9. まとめ

今回の調査地区は鵜遺跡の東端部にあたると考えられ、検出された遺構は集落の東端を流れる溝と考えられ、弥生時代後期末から古墳時代前期の時期のものである。

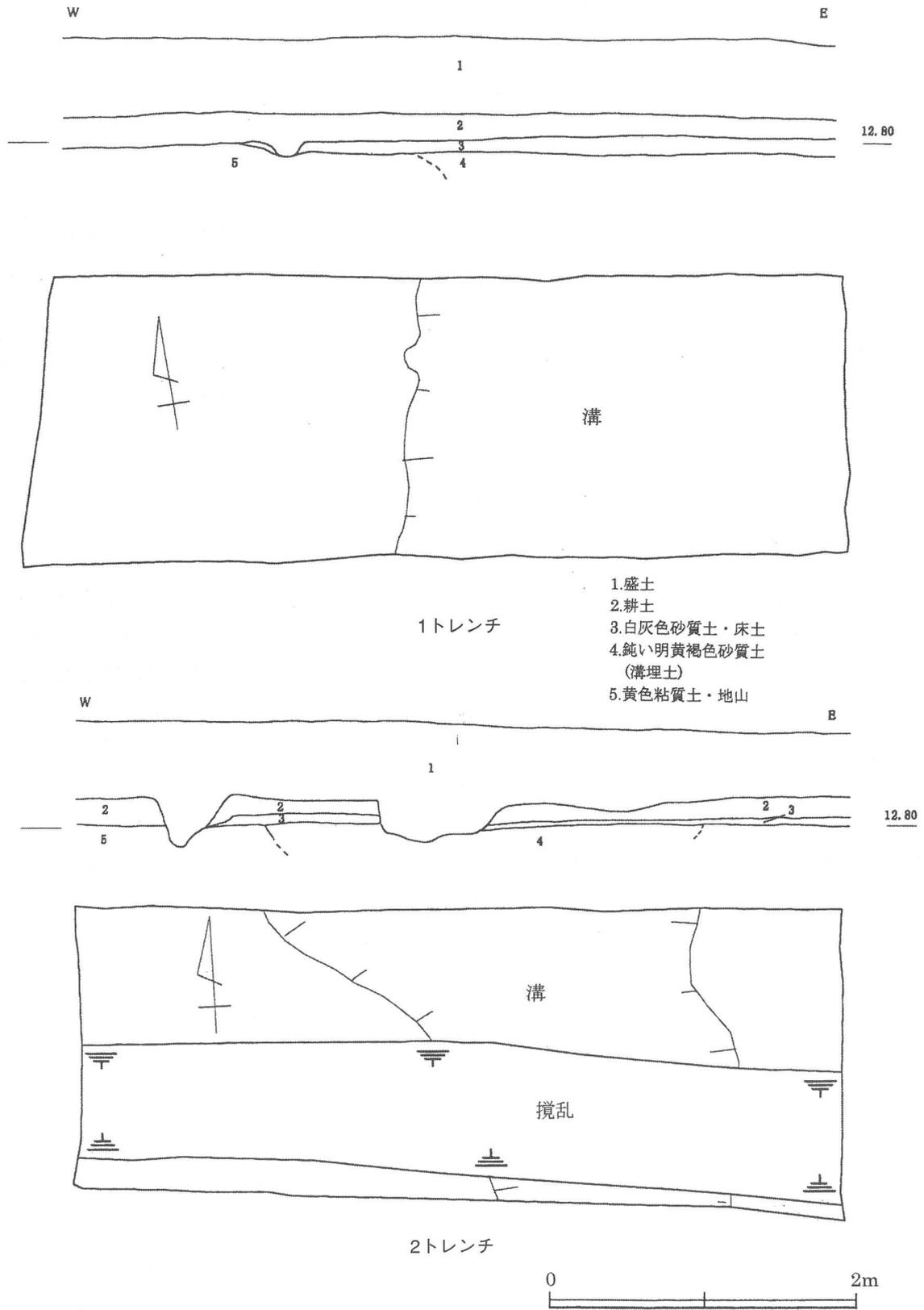


図20 遺構平面図・土層断面図

鵜遺跡（第20次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鵜字小栗田1304-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年9月30日～10月11日

5. 調査面積

37.5㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、トレンチ配置図（1/250）

写真記録（カラーネガ/リバーサル 35mm）

北緯（34度49分59秒）、東経（134度35分4秒）

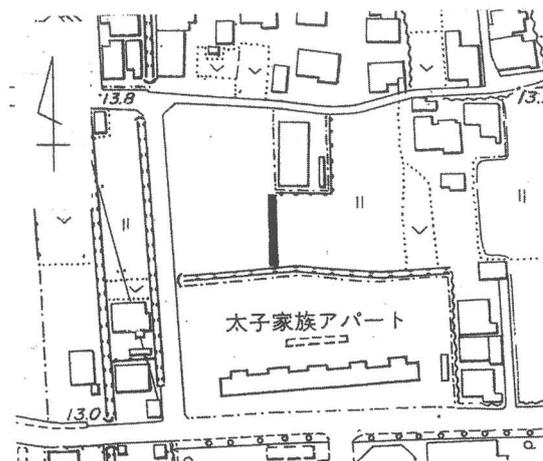


図21 トレンチ配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町字小栗田1304-1において宅地開発の計画があがり、開発予定地は周知の埋蔵文化財である鵜遺跡の包蔵地内であるため、平成13年度にトレンチ5箇所を設定して確認調査を実施したところ、3箇所（1・3・5）のトレンチで溝・土坑の遺構が検出されたため、掘削により遺跡に影響が及ぶ擁壁施行部分について、発掘調査を実施した。調査地の現況は、駐車場として利用されており、標高14m前後を測る。

8. 調査の概要

調査は、東側の擁壁施行部分について、1.5×26mのトレンチを設定して実施した。調査地の土層は、表土（約20cm）直下で黄色粘質土・地山となっており、トレンチ中央部北寄りで南東方向の溝1条を検出した。溝は、幅約5m、深さ50cmを測り、弥生式土器片が少量出土した。なお、今回の調査箇所においても周辺部の調査と同様、近・現代の瓦粘土採掘による攪乱が随所にみられた。



図22 トレンチ全景（北より）



図23 溝土層断面

9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点は鵜遺跡の北西縁辺部に位置すると考えられる。検出された遺構は、出土遺物から弥生時代後期の時期のものと考えられる。

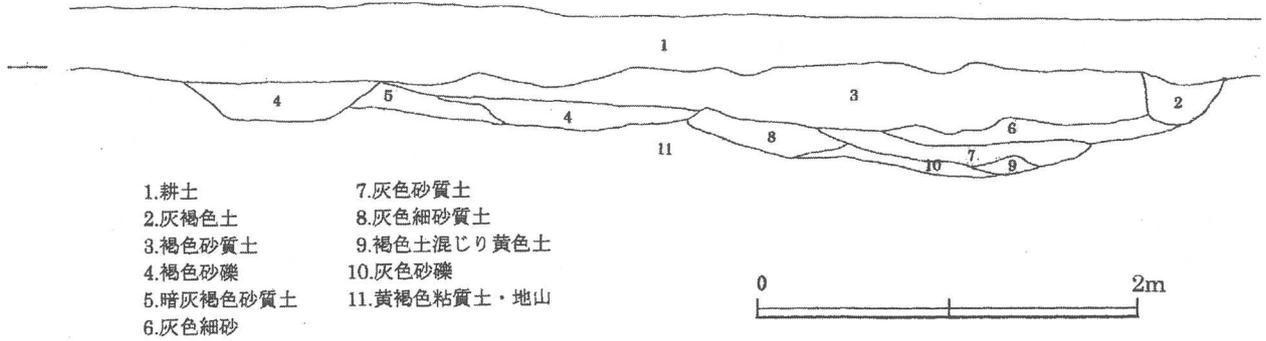


図24 溝土層断面図

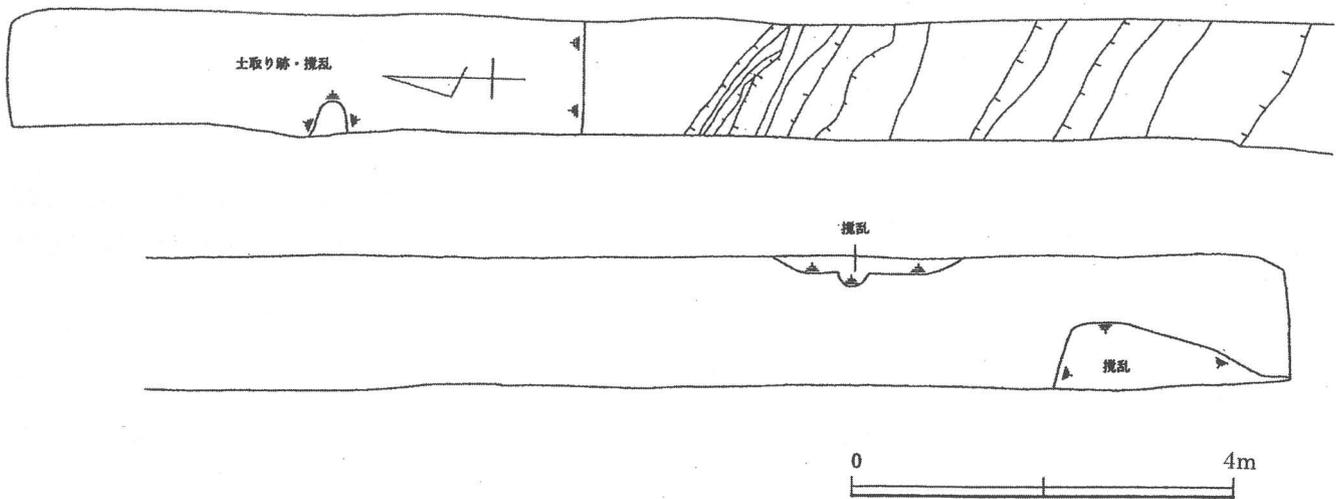


図25 遺構平面図

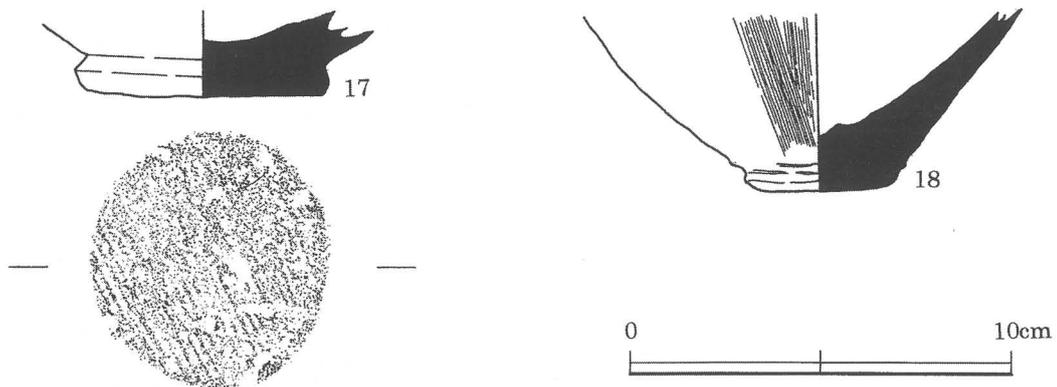


図26 溝出土遺物

蓮常寺東遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町蓮常寺字大道53-6 他2筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年10月22日

5. 調査面積

48㎡

6. 記録作成

土層実測図 (1/20)、遺物実測図 (1/1)、試掘坪配置図 (1/300)

写真記録 (デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度49分18秒)、東経 (134度34分58秒)

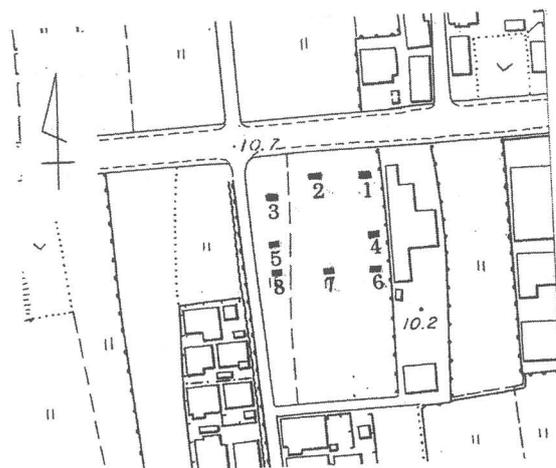


図27 試掘坪配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町蓮常寺字大道53-6他2筆において宅地造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である蓮常寺東遺跡の包蔵地内の北東部に位置することから遺構及び遺物包含層の有無を確認するため、確認調査を実施した。調査地は、標高9.8m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は開発予定地内に3×2mの試掘坪8箇所を設定して実施し、遺構の検出状況に応じて拡張・増設するものとした。

1坪 耕土(約18cm)、黄褐色・床土(約8cm)で小円礫層となる。床土から須恵器片が2点出土しただけである。遺構は検出されなかった。

2坪 耕土(約28cm)、黄褐色・床土(約8cm)で小円礫層となる。床土から土師器・須恵器片が少量出土した。遺構は検出されなかった。

3坪 耕土(約25cm)、灰黄色～黄褐色・床土(約14cm)で小円礫層となる。床土からサヌカイト製石鏃1点と須恵器片2点が出土しただけである。遺構は検出されなかった。

4坪 耕土(約18cm)、淡灰色～黄褐色・床土(約17cm)、暗黄橙色土(約10cm)で小円礫混じり暗灰色土となる。遺物、遺構は検出されなかった。

5坪 耕土(約22cm)、灰黄色・床土(約17cm)、暗灰色粘質土(約17cm)で褐色粘質土混じり灰色砂質土となる。床土から暗灰色粘質土にかけてから土師器・須恵器片が少量出土した。遺構は検出されなかった。

6坪 耕土(約18cm)、淡灰色・床土(約15cm)、暗黄橙色(約10cm)で暗黄灰色粘砂質土となる。遺物、遺構は検出されなかった。

7坪 耕土(約22cm)、淡灰色・床土(約17cm)、暗灰色粘質土(約10cm)で黄色土混じり灰色細

砂となる。暗灰色粘質土から土師器・須恵器片が少量出土した。遺構は検出されなかった。

8坪 耕土（約22cm）、淡灰色・床土（約10cm）、暗黄灰色粘質土（約10cm）、暗灰色粘質土（約12cm）で褐色粘質土混じり灰色細砂となる。床土から暗黄灰色粘質土にかけてから土師器・須恵器片が少量出土した。遺構は検出されなかった。

9. まとめ

調査の結果、古墳時代から中世の遺物が少量出土したが、蓮常寺東遺跡に関連する遺構は検出されなかった。確認した土層の状況から、調査地点は旧河道の縁辺部にあたると考えられ、蓮常寺東遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。

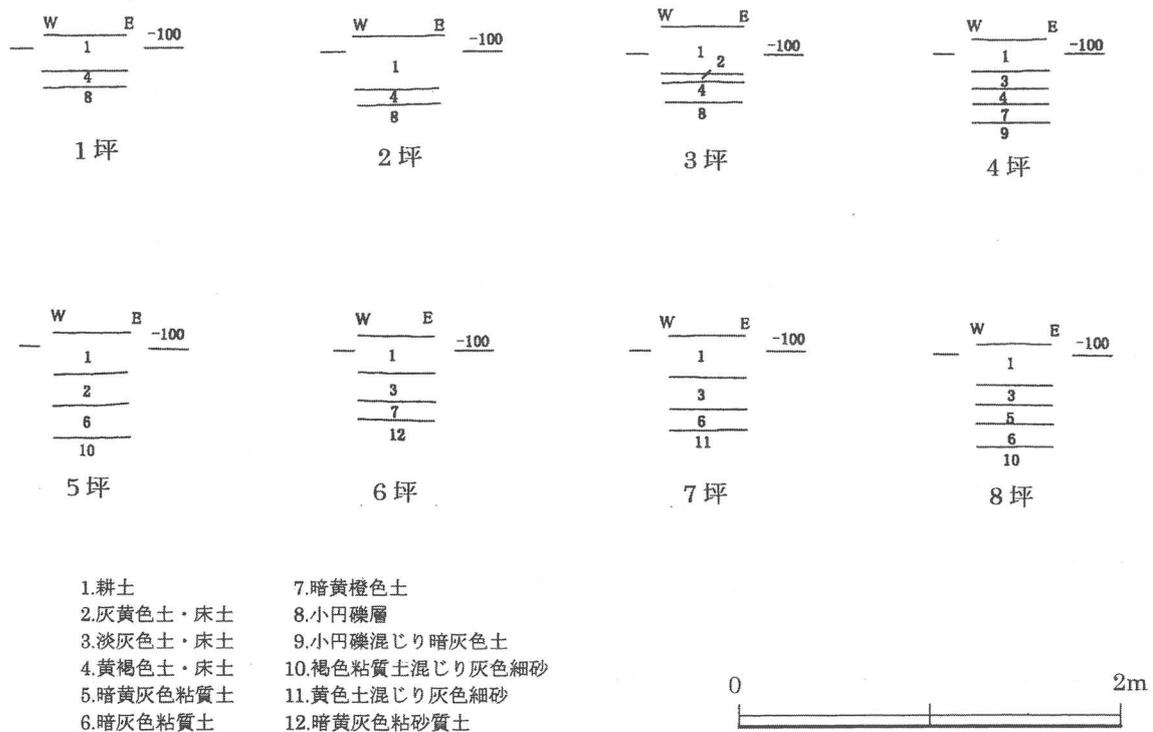


図28 土層断面図

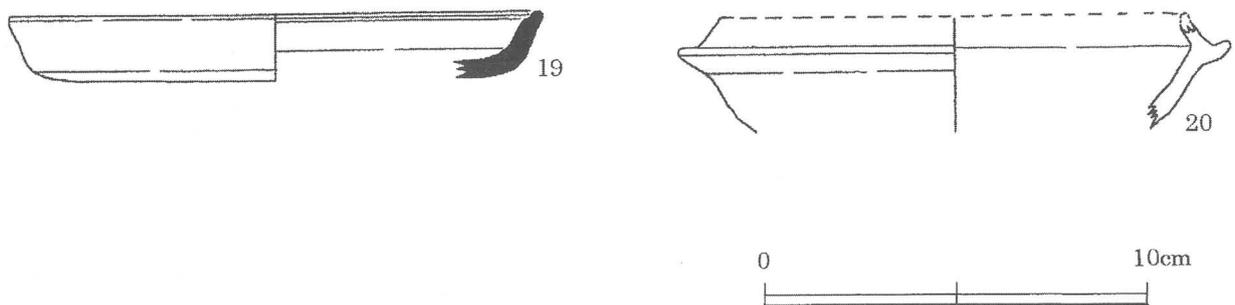


図29 4坪出土遺物

糸井字前田

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町糸井字前田191-20

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年10月30日～10月31日

5. 調査面積

48m²

6. 記録作成

土層実測図 (1/20)、試掘坪配置図 (1/250)

写真記録 (デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度48分55秒)、東経 (134度35分01秒)

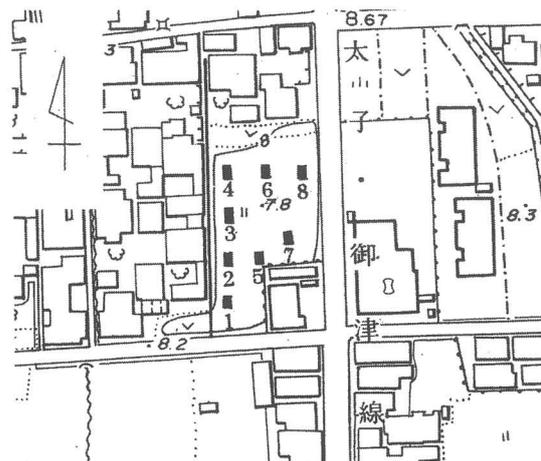


図30 試掘坪配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町糸井字前田191-20において共同住宅の建設が計画され、建設予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、北方には周知の埋蔵文化財である立岡笹山遺跡 (450224)、東方には同じく朝日山北遺跡 (450214) が所在することから、埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。なお、調査地は、標高約7.8mを測る水田であるが、現在は休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、工事予定地内に2×3mの試掘坪8箇所を設定して実施した。

調査地の基本土層は上層から、耕土 (約20cm)、旧耕土 (4～8cm)、黄色～明黄灰色土・床土 (6～15cm)、淡灰褐色土 (4～10cm)、暗褐灰色土 (8～20cm) で淡黄褐色ないし明黄色砂質土の地山となっている。

土層の堆積状況から調査地全体は南西から北東方向へ、調査地東方に所在する糸井池の方向に傾斜していることがわかった。南西端に設定した坪1では深さ約30cmを測る東側への落ち込みと、西側でそれに平行な、深さ約40cmを測る落ち込みを検出した。埋土は、それぞれ白色砂のバンドをはさんだ明灰色砂質土である。遺物は、淡灰褐色土から暗褐灰色土にかけてから古墳時代後期から平安時代にかけての土師器・須恵器片が少量出土しただけである。坪1で検出された落ち込みからの遺物の出土もなかった。いずれも細片で実測図化できるものはなかった。

9. まとめ

調査の結果、立岡笹山遺跡及び朝日山北遺跡に関連する遺構は検出されなかった。今回の調査地点からは少量ではあるが遺物が出土していることから、周辺部に集落跡等の遺跡が存在する可能性が考えられる。

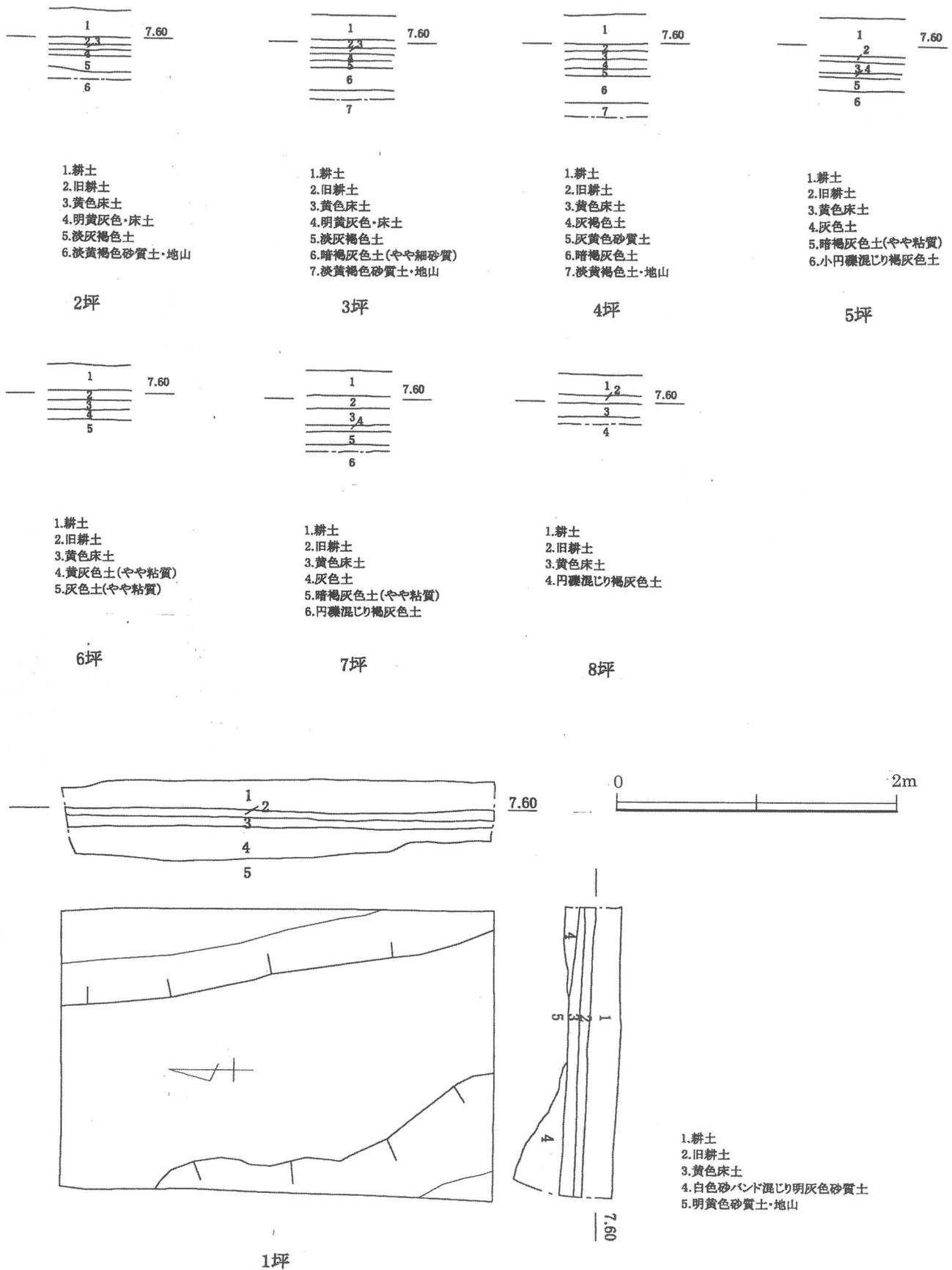


図31 平面・土層断面図

鶯遺跡（第21次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東保字高田54-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成14年11月5日～年11月12日

5. 調査面積

44m²

6. 記録作成

遺構実測図（1/40）、土層実測図（1/20）、トレンチ配置図（1/250）

写真記録（カラーリバーサル 35mm、カラー120mm・6×7判）

北緯（34度49分59秒）、東経（134度35分4秒）

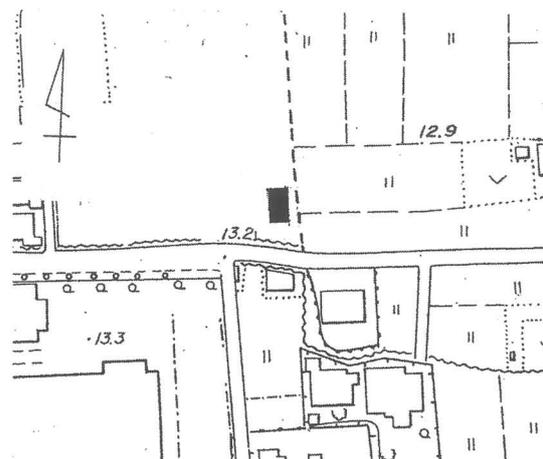


図32 調査区配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町東保字高田54-1における龍野警察署斑鳩交番庁舎新築工事に伴い、平成14年9月30日から10月3日にかけて実施した試掘・確認調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構が確認されたため、遺跡に影響の及ぶ建築物基礎部分の発掘調査を実施した。当該地は、町立文化会館北側駐車場南東端に位置する。

8. 調査の概要

調査は、「日」の字形の建物基礎掘削部分に幅1.6mのトレンチを設定し、遺構・遺物包含層の検出にあたった。

調査地の基本土層は、造成盛土（約50cm）、耕土（約20cm）、黄灰色粘質土・床土（4～8cm）で黄色粘質土・地山となる。地山面の標高は、12.80mを測り、南側に緩やかに傾斜している。遺構はこの地山面で、溝1条・土坑3基が検出された。溝1は、調査区東端で検出され、南北に延びる。

土坑1～3は時期決定資料を欠くが、埋土の観察から弥生時代の遺構と考えられる。土坑2は、平面形と規模から井戸の可能性も考えられる。



図33 調査区全景（東より）

9. まとめ

今回の調査地点は、鵜遺跡の北東端部にあたると考えられる。確認した遺構は、検出のみにとどめたため、その所属時期等は不明であるが、わずかに出土した遺物の様相から弥生時代後期末から古墳時代前期の時期のものと考えられる。

前回の確認調査において1トレンチで検出した溝状遺構は浅い遺物包含層であることが、2トレンチで検出した溝状遺構は土坑1にあたることが判明した。

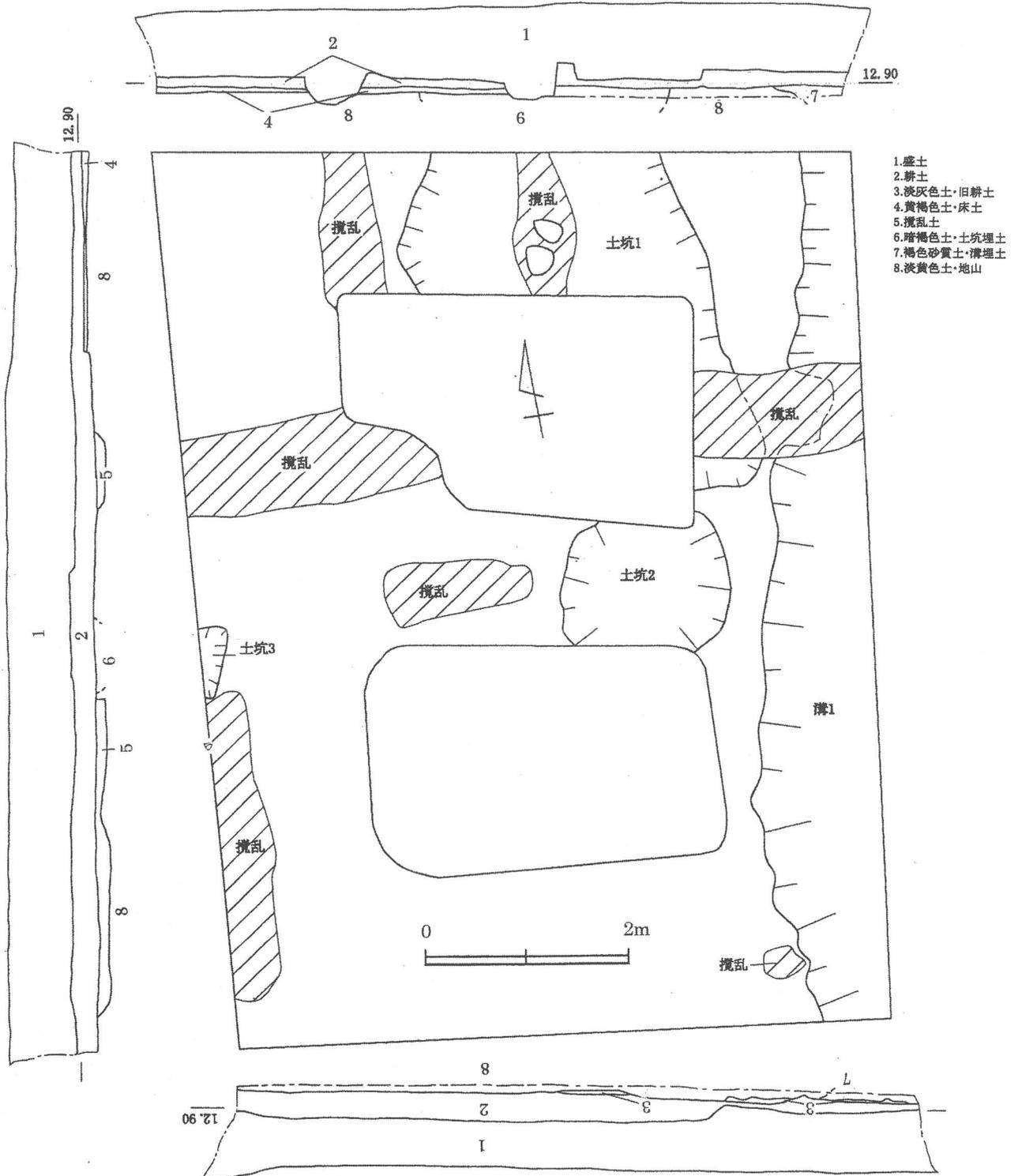


図34 遺構平面図・土層断面図

南柳遺跡（第8次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町佐用岡字南柳34 他2筆
同 字西光寺90

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年1月16日～1月20日

5. 調査面積

65,8㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、トレンチ配置図（1/500）

写真記録（デジタルカメラ撮影）

北緯（34度50分16秒）、東経（134度35分20秒）

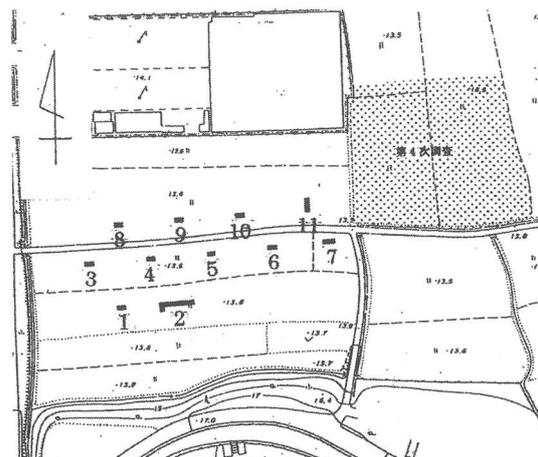


図35 トレンチ配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町佐用岡字南柳34他2筆及び字西光寺90において、町立総合運動公園駐車場整備に伴う盛土造成が同公園南東部に位置する町民グラウンド西側で計画された。造成予定地は、周知の埋蔵文化財である南柳遺跡の包蔵地内にあたり、平成9年度に町民グラウンド建設に伴い発掘調査を実施し、弥生時代後期から中世にかけての遺構が検出された第4次調査地点の西に隣接することから、遺構の遺存状況及び広がり把握するため確認調査を実施した。なお、調査地は標高13.60～80mを測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、1.5×3mのトレンチを11箇所設定して実施し、遺構の確認に努めた。なお、今回の工事は盛土造成のみで掘削は行われなかったため、遺構は平面確認のみに止めた。

調査の結果、調査地の基本土層は上層から耕土（約20cm）、淡褐灰色土（約5～20cm）、淡灰黄色土（約2～8cm）、明灰色土（約3～10cm）、黄色土（約3～6cm）で黄褐色土・地山となっている。7トレンチでは、黄色土の下層で南東方向へ厚く堆積する暗褐色土・包含層（約4～10cm）が確認された。

遺構は、2トレンチで住居跡と考えられるものと、4～7・10トレンチでピット・溝が検出された。また、8トレンチでは、灰褐色土（約4cm）、暗灰褐色土（約6～13cm）、淡灰褐色細砂質土（約20cm）が堆積した北西方向への落ち込みが、9トレンチでは、黄色土ブロック混じり暗褐色土（約10～22cm）が堆積した東北方向への落ち込みが検出された。いずれも遺物は出土せず、自然地形によるものと考えられる。遺物は、各トレンチの淡褐灰色土を中心に出土し、サヌカイト片・弥生式土器・土師器・須恵器・備前焼等がある。7トレンチの包含層からは土師器・須恵器が出土した。しかし、大半が小片で実測図化できたものは少ない。

9. まとめ

今回の調査の結果、遺構は造成予定地内の南側に設定したトレンチに集中して検出され、遺跡が南西方向へも広がることが確認された。検出した各遺構は、平面確認に止めたため時期を特定することは出来なかったが、各トレンチ及び包含層からの出土遺物からこれまでの調査で検出されてきた遺構の時期と大差ないものと考えられる。

今後の公園整備にあたっては今回の調査結果に留意し、調査を実施していく必要がある。



図36 2トレンチ全景（西より）



図37 4トレンチ全景（西より）

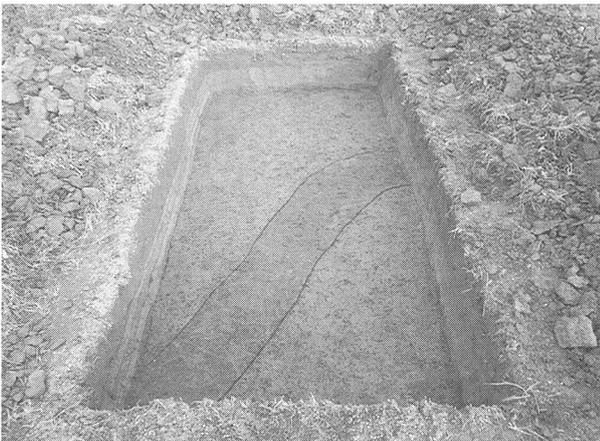


図38 5トレンチ全景（西より）



図39 6トレンチ全景（南より）



図40 7トレンチ全景（西より）



図41 10トレンチ全景（南より）

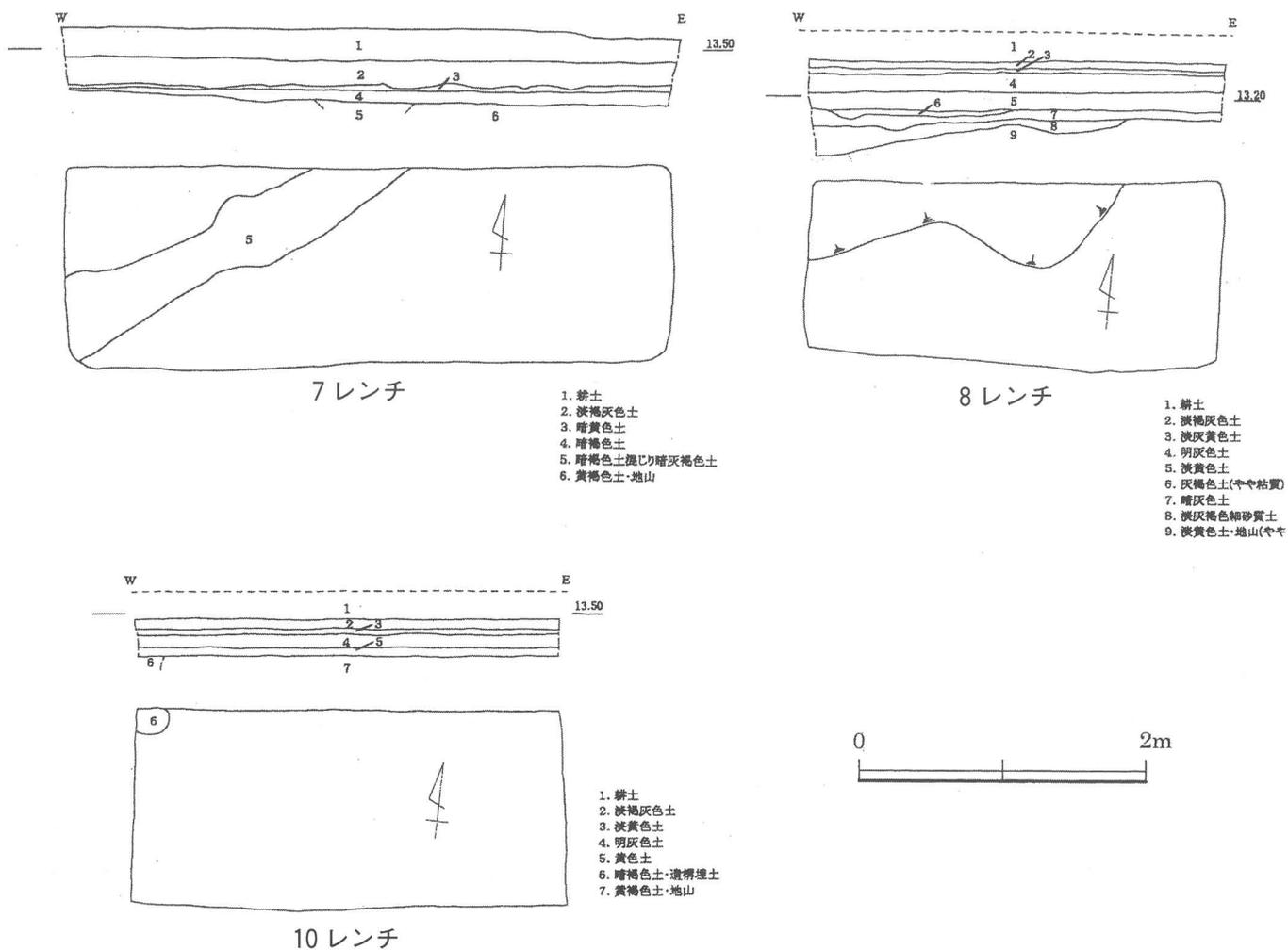
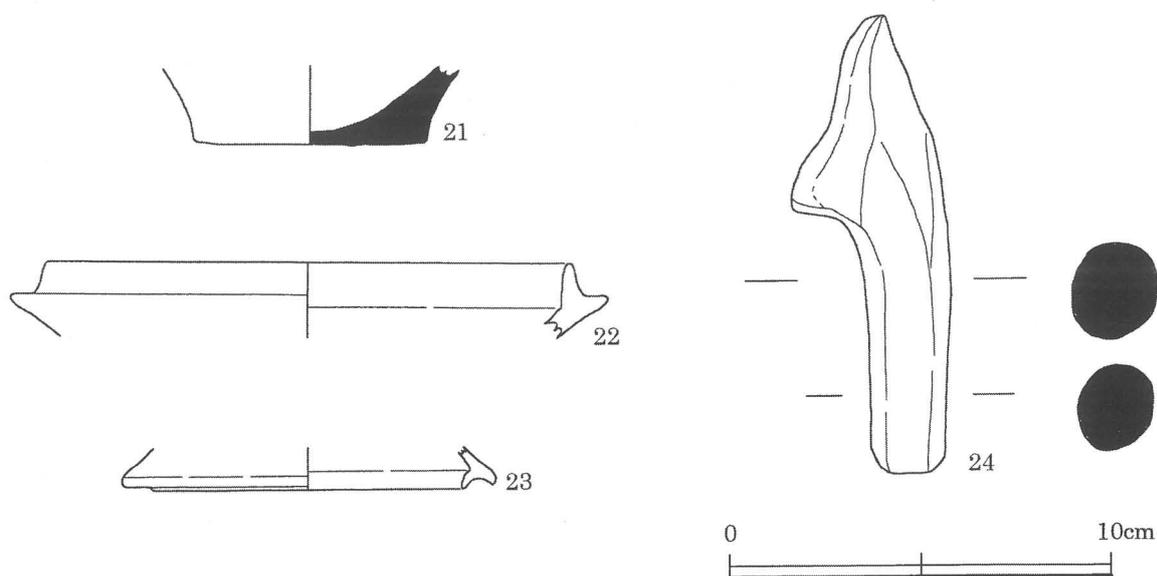


図43 遺構平面図・土層断面図 (2)



2トレンチ (21)、7トレンチ (22)、9トレンチ (23)、10トレンチ (24)
(21. 弥生式時、22・23. 須恵器、24. 土師器)

図44 出土遺物

蓮常寺北遺跡（第4次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町蓮常寺字一ノ宮111-1 他2筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年3月17日～3月19日

5. 調査面積

80.34㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、試掘坪配置図（1/400）

写真記録（デジタルカメラ撮影）

北緯（34度49分18秒）、東経（134度34分38秒）

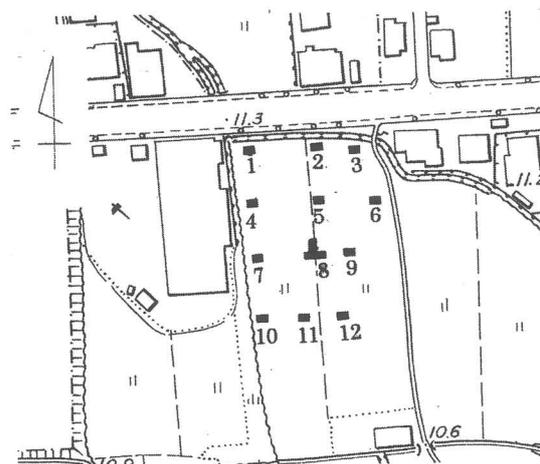


図45 トレンチ配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町蓮常寺111-1他2筆において店舗建設が計画され、建設予定地は周知の埋蔵文化財である蓮常寺北遺跡の包蔵地内の北部に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため、確認調査を実施した。調査地は、標高10.5m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は建設予定地内に1.7×3mのトレンチ12カ所を設定して実施し、遺構の検出状況に応じて拡張するものとした。

調査地の基本土層は、上層から耕土（約20 cm）、黄色土・床土（約4～10cm）で褐色砂礫あるいは暗黄褐色～褐色の砂質土となっており、調査地北側では砂礫が高く、南方へ砂質土へと移行している。また、5トレンチでは、弥生式土器を包含した旧河道状の砂層の堆積が認められ、南東部の9・12トレンチでは、薄い弥生時代後期の遺物包含層が認められた。遺構は、4トレンチで土坑2基、ピット1基、8トレンチで土坑1基、11トレンチで土坑1基が検出された。遺物は、各試掘坪から出土しており、弥生式土器を中心に土師器・須恵器等がある。

9. まとめ

調査の結果、弥生時代後期の遺物包含層と、3箇所のトレンチで同時期の遺構が検出されたことにより、今回の調査地点まで、蓮常寺北遺跡における当該期の遺構が広がる事が確認された。



図46 4トレンチ全景 (南より)

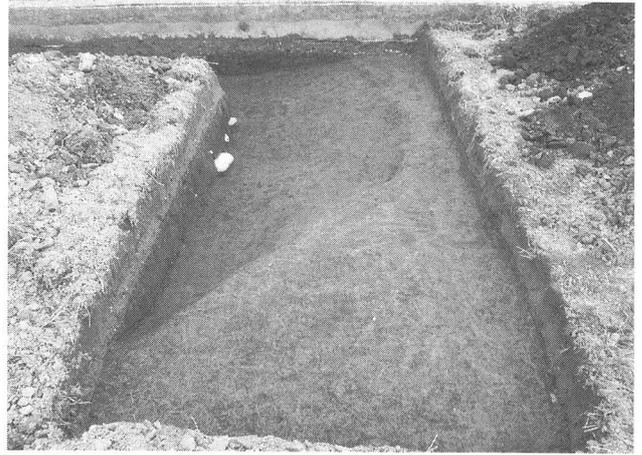
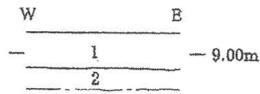
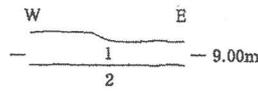


図47 8トレンチ全景 (西より)



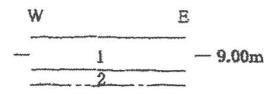
- 1 耕土
- 2 褐色砂・円礫混じり

1 トレンチ



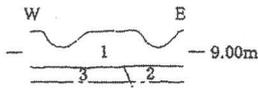
- 1 耕土
- 2 褐色砂礫
上層マンガン鉄分集積

2 トレンチ

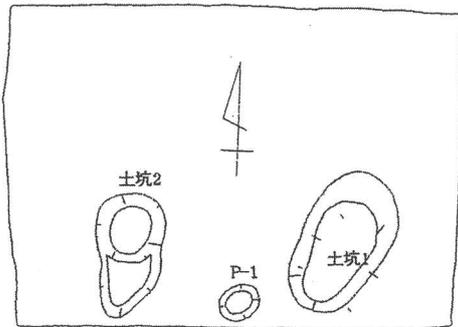


- 1 耕土
- 2 褐色砂礫
上層マンガン鉄分集積

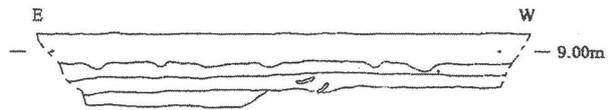
3 トレンチ



- 1 耕土
- 2 暗褐色砂質土(遺構埋土)
- 3 暗黄褐色砂質土

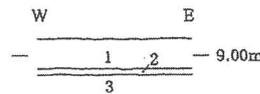


4 トレンチ



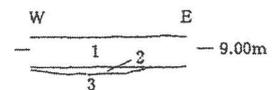
- 1 耕土
- 2 黄色床土
- 3 灰褐色砂・小円礫混じり
弥生式土器包含
- 4 暗黄褐色砂質土混じり
灰褐色砂
- 5 暗黄褐色砂質土
- 6 灰色礫

5 トレンチ



- 1 耕土
- 2 黄色床土
- 3 褐色砂礫

6 トレンチ

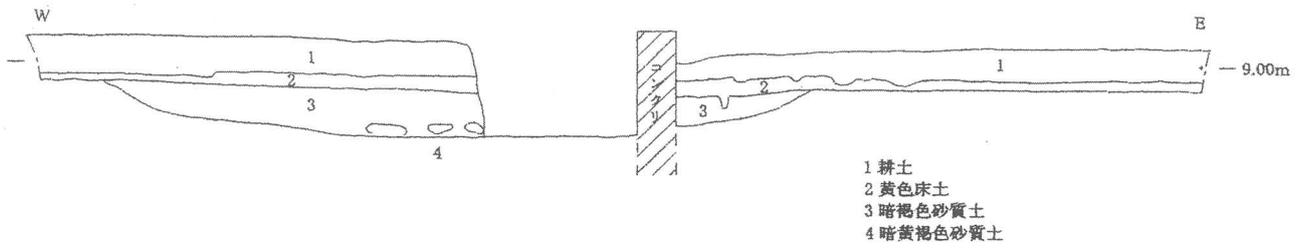


- 1 耕土
- 2 黄色床土
- 3 暗黄褐色砂質土

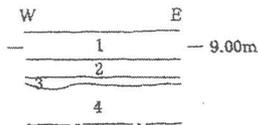
7 トレンチ



図48 遺構平面図・土層断面図 (1)

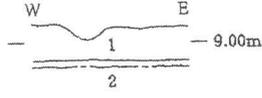


8トレンチ



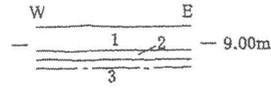
- 1 耕土
- 2 黄色床土
- 3 灰褐色砂質土
弥生式土器細片包含
- 4 暗黄褐色砂質土

9トレンチ

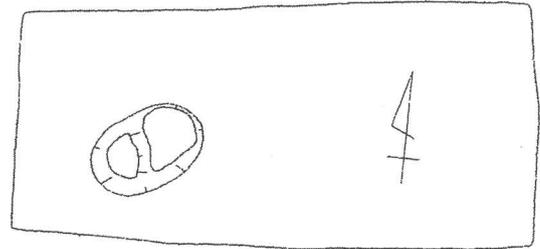


- 1 耕土
- 2 褐色砂質土

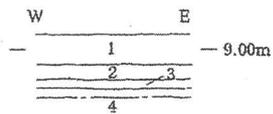
10トレンチ



- 1 耕土
- 2 黄色床土
- 3 暗黄褐色砂質土



11トレンチ



- 1 耕土
- 2 黄色床土
- 3 褐色砂質土・土器細片少量包含
上層マンガン集積
- 4 暗黄褐色砂質土

12トレンチ

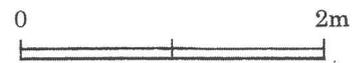
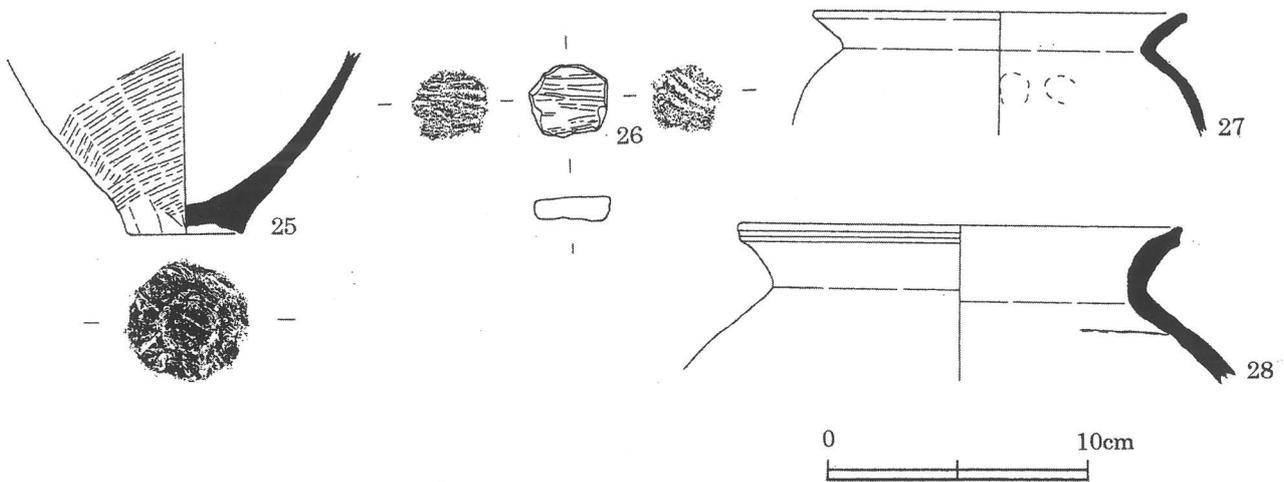
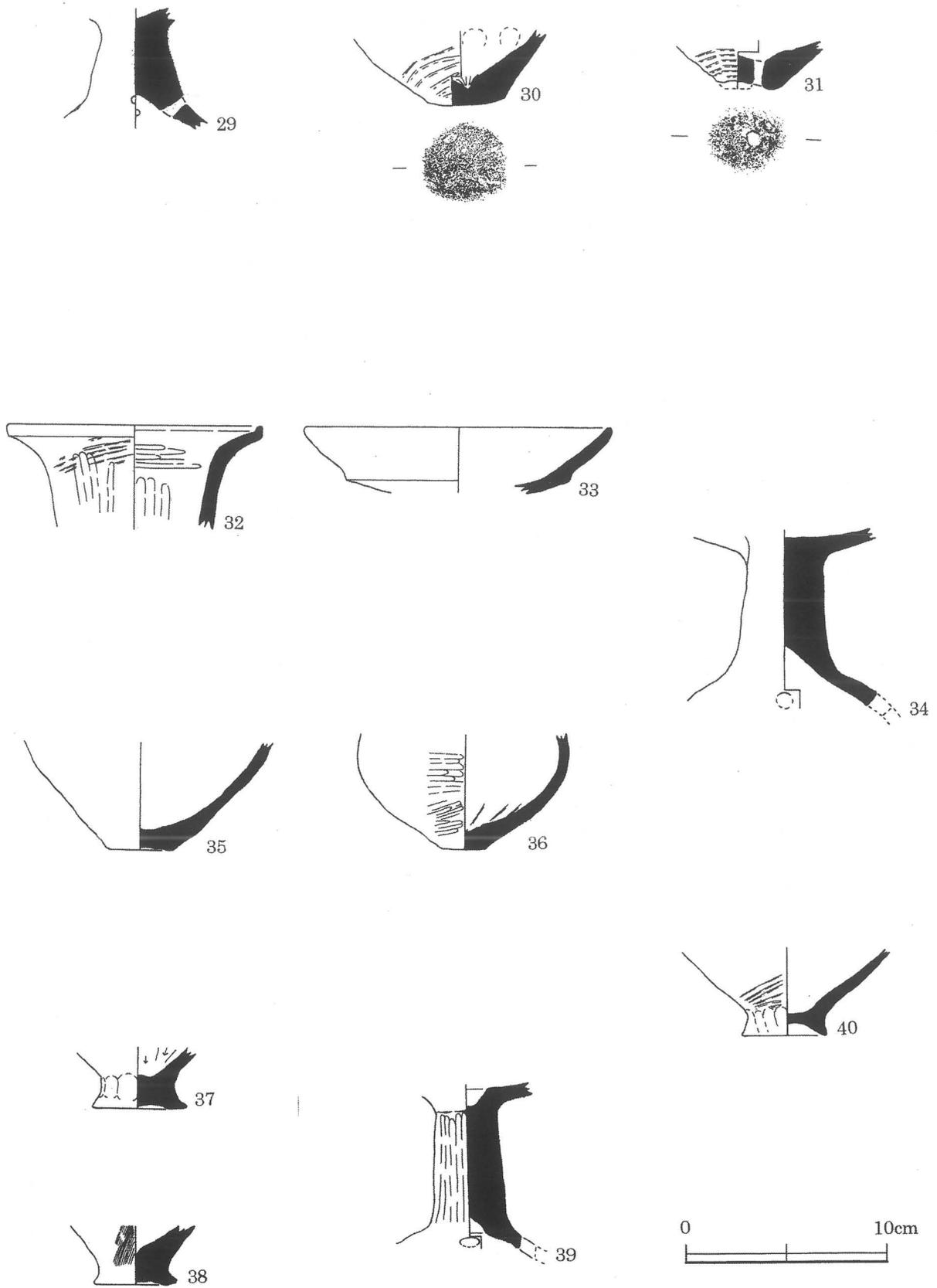


図49 遺構平面・土層断面図 (2)



4トレンチ (25・26)、5トレンチ (27・28)
(26. 須恵器転用面子)

図50 出土遺物 (1)



5トレンチ (29~31)、8トレンチ (32~38)、9トレンチ (39)、12トレンチ (40)

図51 出土遺物 (2)

II 平成15年度調査概要

平成15年度では、18件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が14件、公共事業に伴う確認調査が3件、民間の開発事業に伴う本発掘調査が1件である。

表2 平成15年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	蓮常寺北遺跡 (第5次調査)	蓮常寺字一ノ宮	店舗建設	25599.99	289	平成15年4月7日 ～5月25日	本調査 受託事業 本書掲載
2	笹山遺跡	立岡字笹山	個人住宅建設	229.59	12	平成15年5月27日	本書掲載
3	田中遺跡	太田字ヨフカ	宅地造成	1742.75	16	平成15年5月30日	本書掲載
4	東保遺跡	東保字中ノ壺・木森	宅地造成	4879	72.2	平成15年9月30日 ～10月3日	本書掲載
5	楯岩城跡	山田字大山	情報基盤整備	30	30	平成15年9月30日 ～10月11日	公共事業 本書掲載
6	山田大山8号墳 (聖古墳)	山田字大山	無線基地局建設	325.07	34	平成15年10月22日	本書掲載
7	川島遺跡	太田字山ノ下	宅地造成	2926.94	36.9	平成15年10月30日 ～10月31日	本書掲載
8	筑紫大道遺跡	佐用岡字櫻ヶ坪	集会所建設	1019.86	29.7	平成15年11月5日 ～11月12日	本書掲載
9	竹広遺跡 (第1次調査)	竹広字長金	防火水槽埋設	32	32	平成15年11月7日 ～11月28日	公共事業 文化財資料 第72集
10	竹広遺跡 (第2次調査)	竹広字長金	公会堂建設	210	19	平成15年12月22日 ～12月24日	本書掲載
11	立岡南遺跡 (第2次調査)	立岡字山崎	宅地造成	3200.6	44.8	平15年1月16日 ～1月20日	本書掲載
12	矢田部南遺跡	矢田部字書写田	宅地造成	2985.38	80.6	平成15年3月17日 ～3月19日	本書掲載
13	斑鳩寺西遺跡	鵜字榎ノ本	集合住宅建設 国庫補助事業	2000	41.7	平成15年12月15日 ～3月19日	文化財資料 第73集
14	福井大池	原字福井大池	堤防改修	3600	180	平成15年3月17日 ～12月24日	公共事業 本書掲載
15	船塚遺跡 (第2次調査)	鵜字船塚	公会堂建設 国庫補助事業	284.67	13.6	平成16年2月9日 ～2月12日	文化財資料 第73集
16	東南遺跡 (第20次調査)	鵜字須門坊	宅地造成 国庫補助事業	3446.24	174.8	平成16年2月18日 ～2月27日	文化財資料 第73集
17	東保遺跡	東保字木森	宅地造成 国庫補助事業	5515.93	48.9	平成16年3月1日 ～3月3日	文化財資料 第73集
18	東南遺跡 (第21次調査)	鵜字下川原	宅地造成 国庫補助事業	2067.99	188.7	平成16年3月15日 ～3月16日	文化財資料 第73集

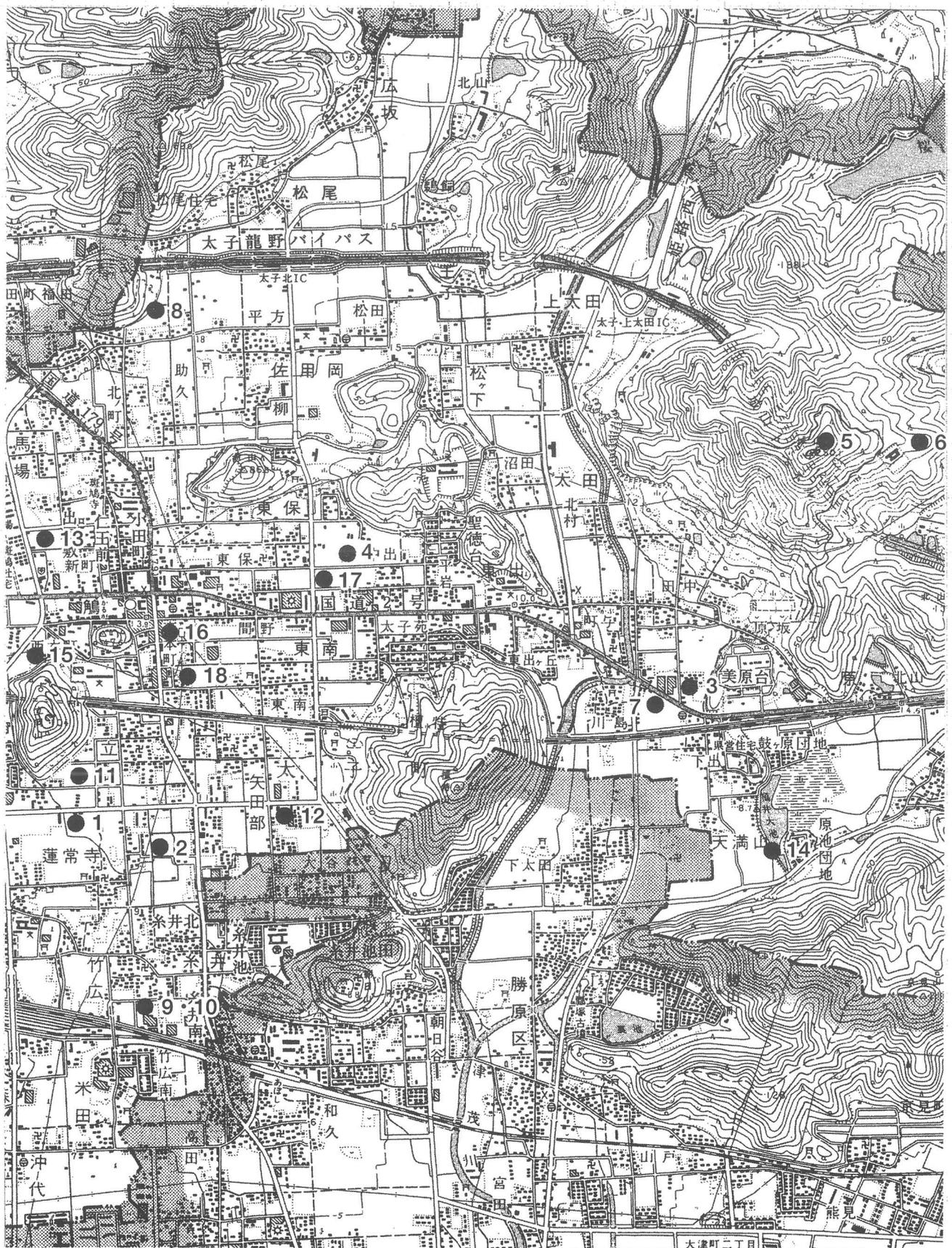


図52 平成15年度調査位置図

蓮常寺北遺跡（第5次調査）

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町蓮常寺111-1 他2筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年4月7日～5月2日

5. 調査面積

289m²

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、調査区配置図（1/400）

写真記録（カラーネガ/リバーサル35mm、カラーリバーサル120mm 6×7版、デジタルカメラ撮影）、
北緯（34度49分18秒）、東経（134度34分38秒）

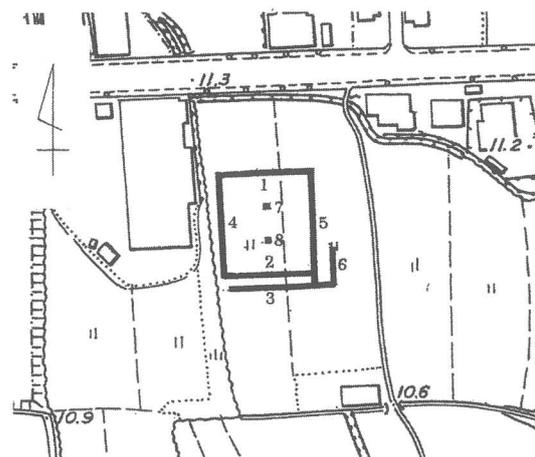


図53 トレンチ配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

周知の埋蔵文化財である蓮常寺北遺跡の包蔵地内北西端付近に位置する太子町蓮常寺111-1他2筆において、店舗建設に伴う造成工事が計画されたため、平成14年度に工事予定地の確認調査を実施したところ、弥生時代後期の土坑・ピット及び旧河道を検出した。このため、遺構面に影響の及ぶ建物基礎部分について発掘調査を実施した。

8. 調査の概要

調査は基礎部分と、一部擁壁部分にトレンチ計8ヵ所を設定して実施した。

調査の結果、弥生時代後期の住居址3棟・土坑15基・溝2条・ピット、弥生時代後期から古墳時代初頭の大溝1条、古墳時代後期の住居址1棟・溝2条、中世の土坑1基・溝2条・ピットと、確認調査で検出された旧河道の続きが検出された。

住居址は、調査区の制約から全体規模を明らかにすることは出来なかったが、古墳時代後期のものは北辺中央部に造り付けの竈を有するものである。弥生時代の土坑の内2基（5トレンチ土坑1・4）は土坑墓の可能性が考えられる。大溝は、北西から南東方向へ流れており、旧河道の流れの方向と一致する。旧河道からは、北西肩部分で多量の弥生式土器片が出土した。

9. まとめ

今回の調査の結果、弥生時代後期を中心とした遺構・遺物を検出する事が出来た。旧河道からは多量の弥生時代後期の土器片が北西側に偏して出土し、北西方向に当該期の集落が広がることが推測される。また、古墳時代後期の遺構が検出されたことにより当該期の集落が存在することも判明した。

建物基礎部分という限られた範囲での調査であったが、蓮常寺北遺跡の貴重な資料を得ることが出来た。

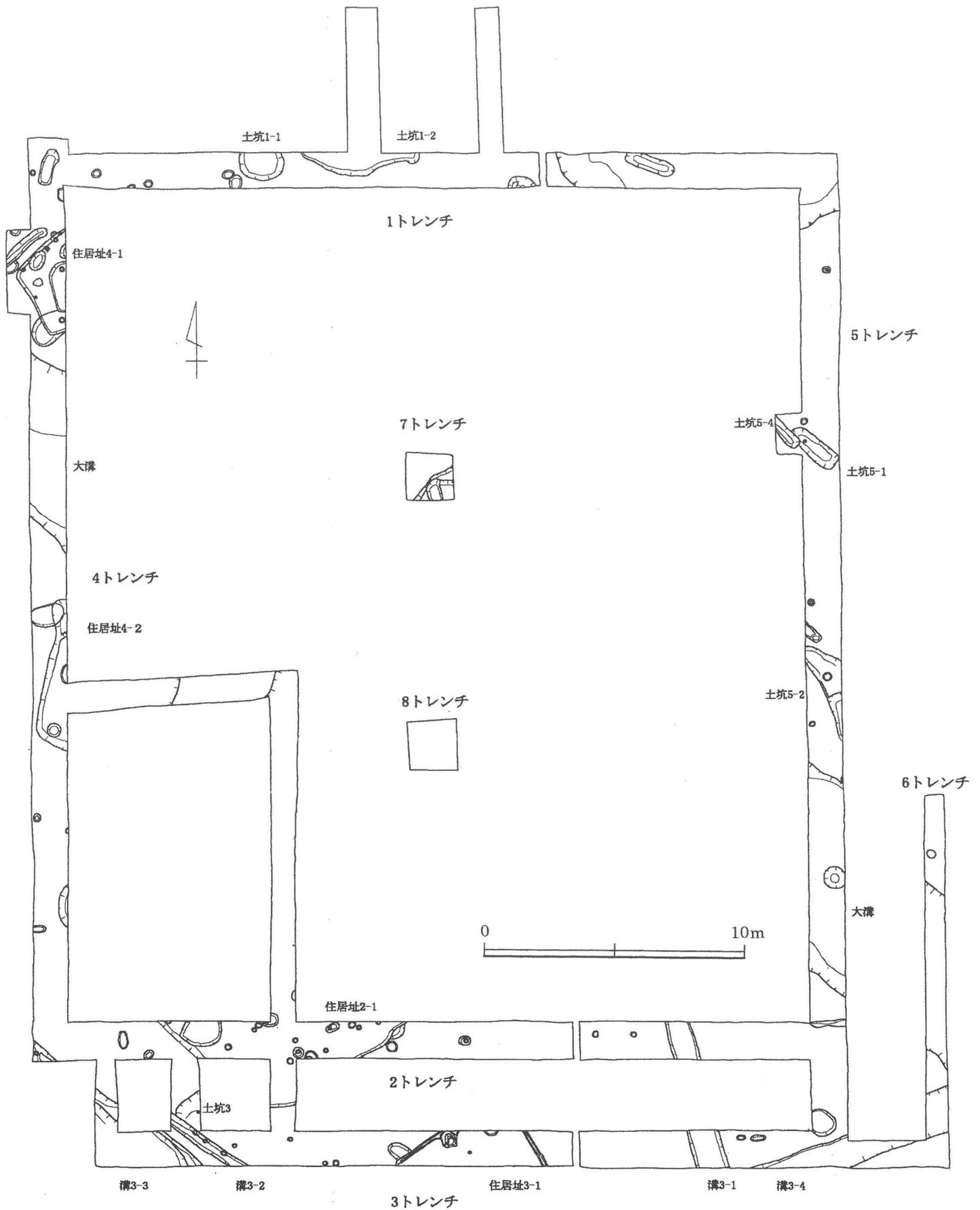
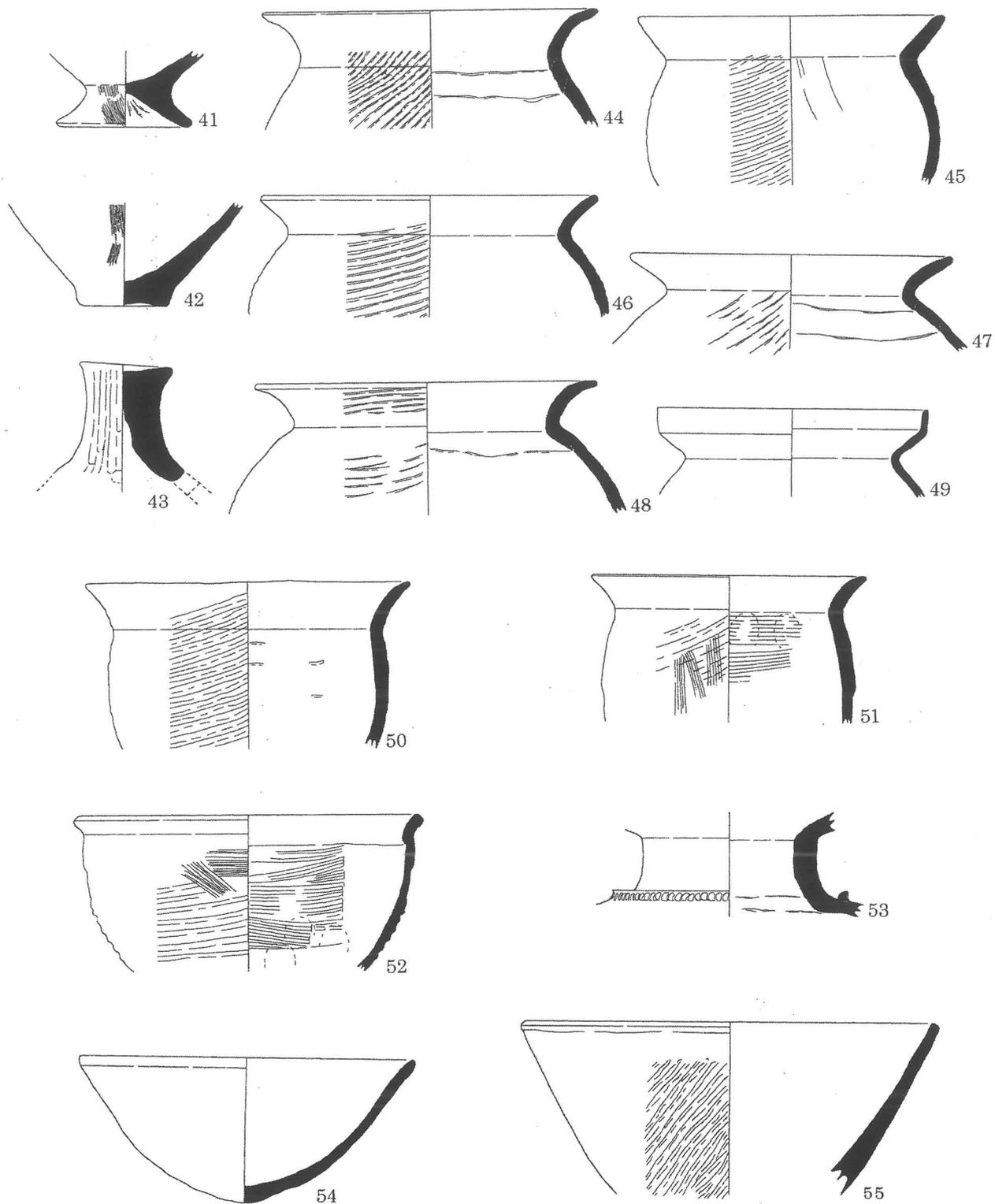
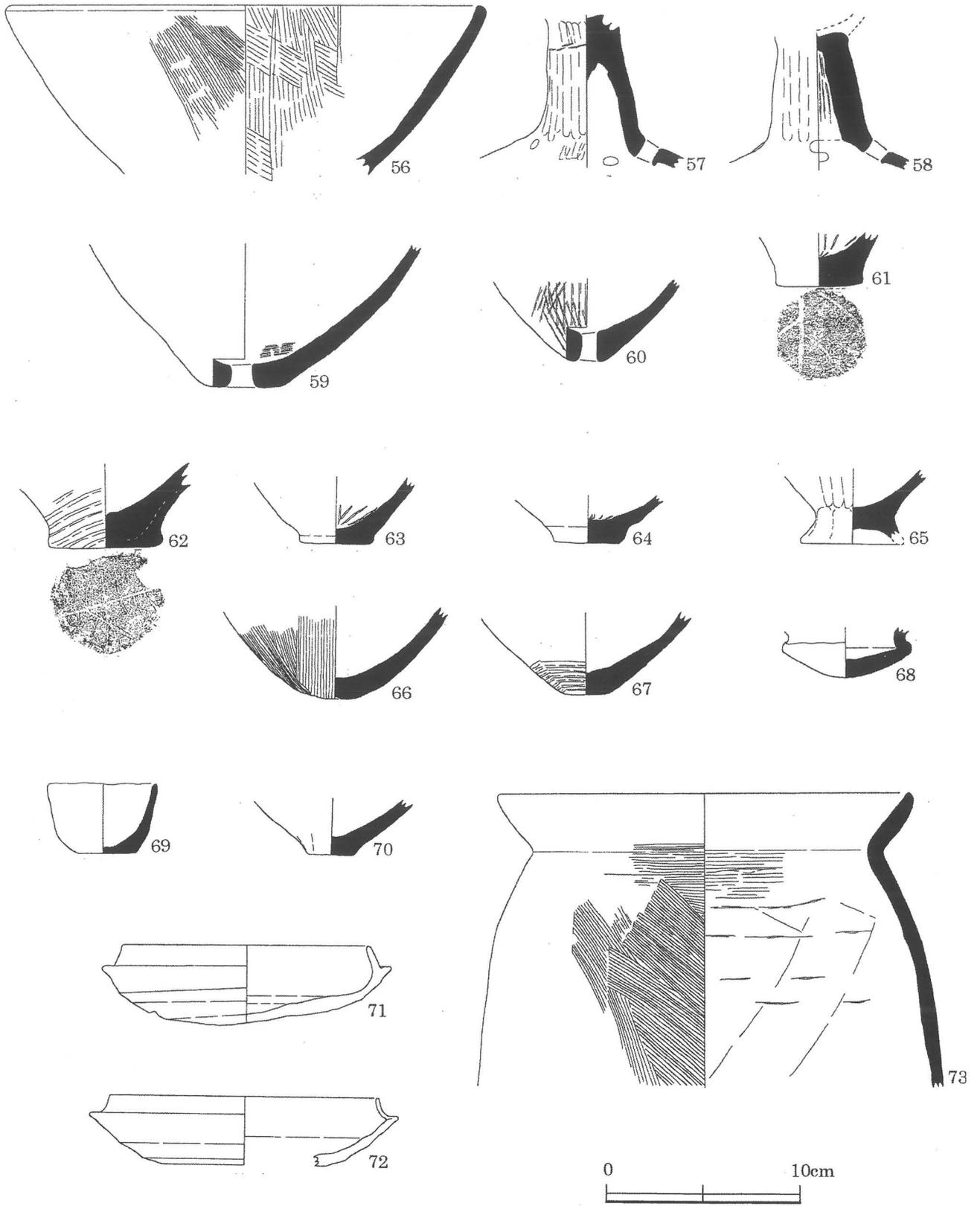


図54 遺構配置図



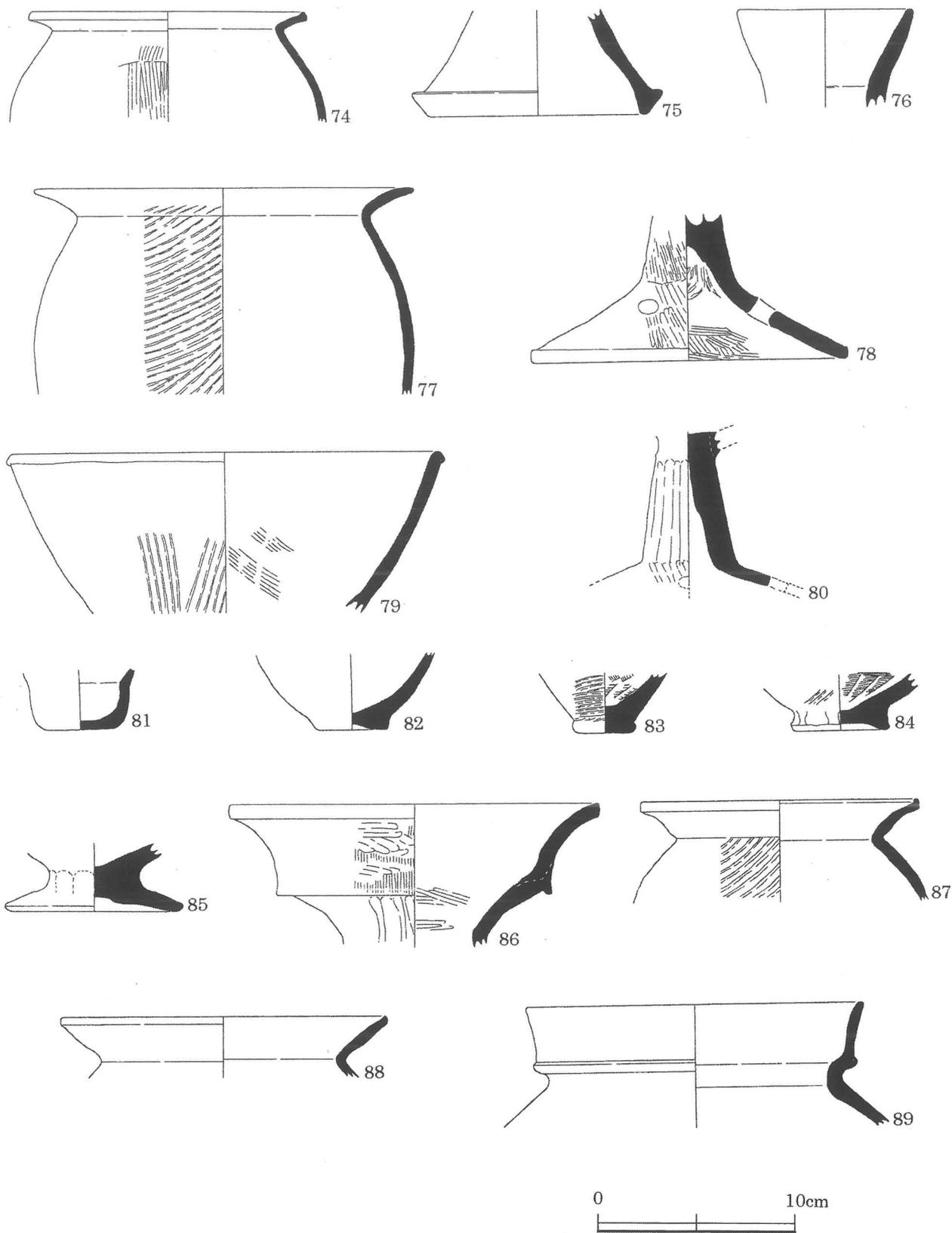
1トレンチ土坑2 (41)、1トレンチ土坑4 (42)、1トレンチ遺構面 (43)、1トレンチ暗褐色土 (44~55)

図55 出土遺物(1)



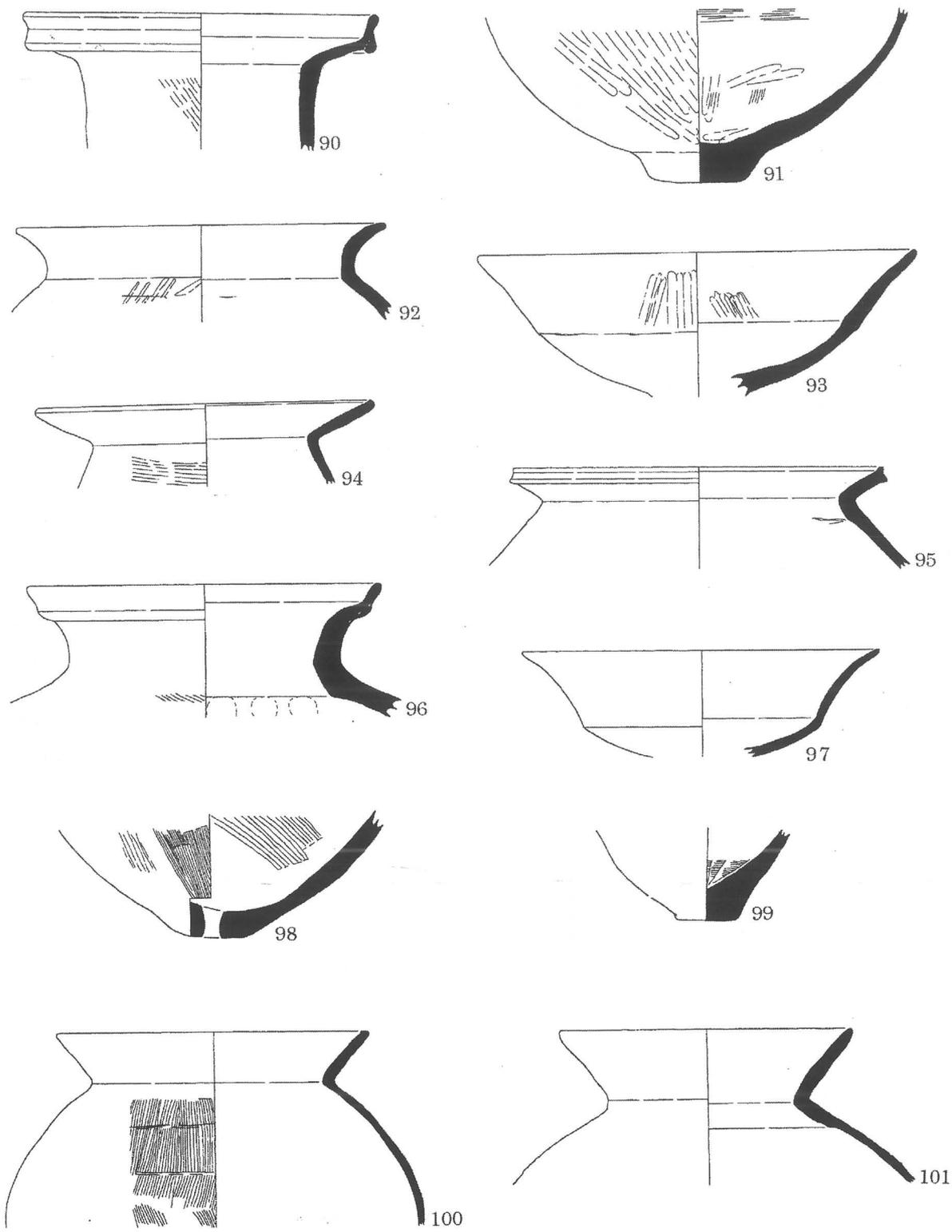
1トレンチ暗褐色土 (56~68)、2トレンチ住居址 (69・70)、3トレンチ住居址 (71~73)
 (71・72. 須恵器、73. 土師器)

図56 出土遺物(2)



3トレンチ土坑1 (74)、3トレンチ土坑2 (75・76)、3トレンチ溝4 (77・78)、3トレンチ遺構面 (79)
 4トレンチ住居址 (80・81)、4トレンチ淡褐色砂質土 (82~84)、5トレンチ土坑2 (85)、5トレンチ土坑4 (86)
 5トレンチ土坑5 (87)、5トレンチ大溝 (88・89)

図57 出土遺物 (3)



5トレンチ大構 (90・91)、7トレンチ土坑 (92・93)、8トレンチ暗褐色土 (94～99)、8トレンチ灰褐色砂質土 (100・101)

図58 出土遺物 (4)

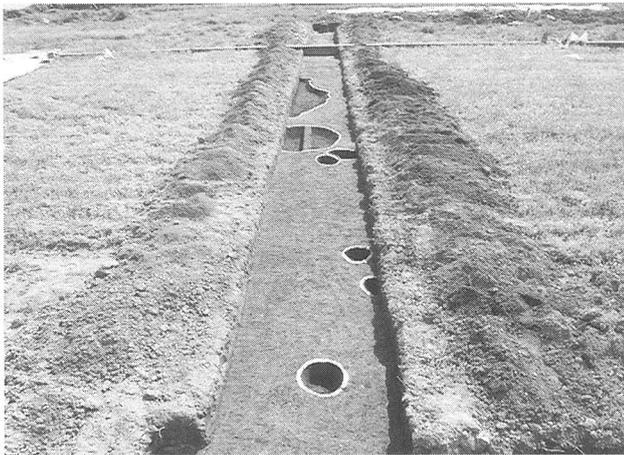


図59 1トレンチ全景（西より）

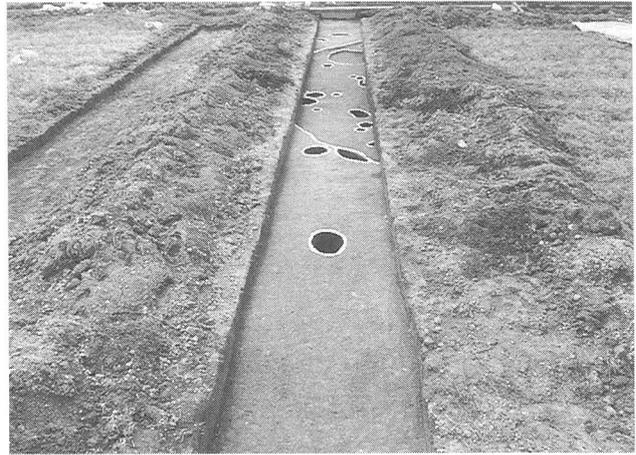


図60 2トレンチ全景（東より）

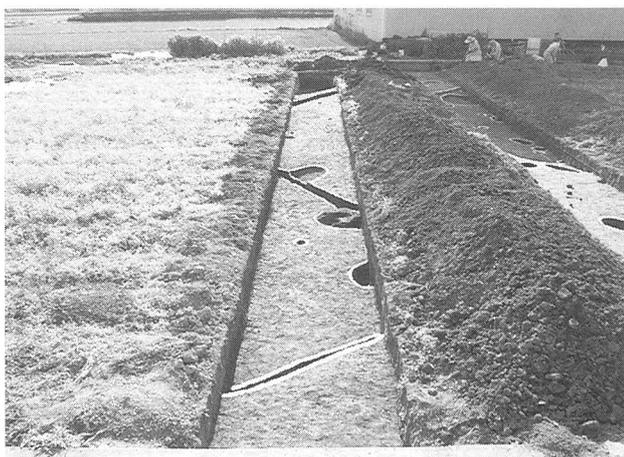


図61 3トレンチ全景（東より）



図62 4トレンチ全景（北より）



図63 5トレンチ全景（南より）



図64 4トレンチ大溝土層（南西より）

立岡笹山遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町立岡字笹山95-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年5月27日

5. 調査面積

12m²

6. 記録作成

遺物実測図(1/1)、土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/300)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34度49分18秒)、東経(134度34分58秒)

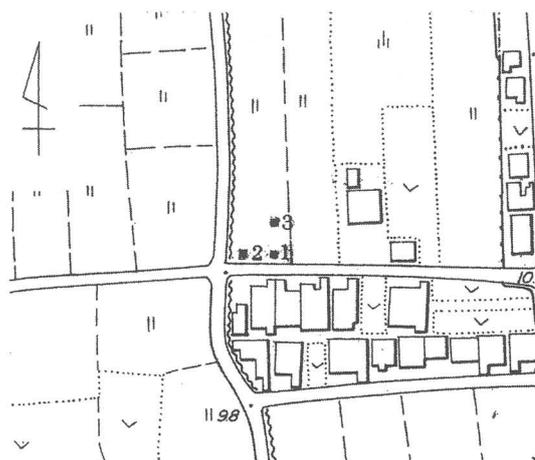


図65 試掘坪配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町立岡字笹山95-1において個人住宅の建築が計画され、建築予定地は周知の埋蔵文化財である立岡笹山遺跡の南に隣接し、また、南西方には蓮常寺東遺跡も近接することから、遺構及び遺物包含層の広がりを確認するため試掘調査を実施した。調査地の現況は、標高9m前後を測る水田である。

なお、調査地周辺は昭和51年のカドミウム汚染に伴う土壌改良が実施されている。

8. 調査の概要

調査は2×2mの試掘坪3箇所を設定して実施した。

耕土を取り除いた所、直下で灰色粘質土・茶褐色土・黄褐色土の混ざった土壌改良土層が表れた。

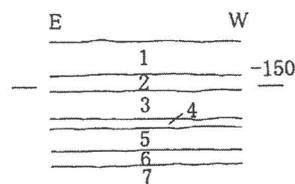
土層の断ち割りでは、各坪とも改良土(10~15cm)の下で明黄灰色粘質土(8~14cm)、黄色土(4cm)、灰色粘質土(8~10cm)、黄色粘質土(8~10cm)で淡褐色~淡黄色の細砂質土・地山となっている。

遺物は、No.1坪の明黄灰色粘質土上面から須恵器の小片2点が出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、蓮常寺東遺跡及び立岡笹山遺跡に関連する

遺構・遺物包含層は検出されなかった。



1. 耕土
2. 公害田入れ替え土
3. 明黄灰色粘質土
4. 黄色粘質土
5. 灰色粘質土
6. 淡褐色砂質土混じり黄色粘質土
7. 淡褐色細砂質土・地山

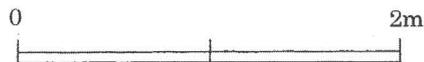


図66 土層断面図

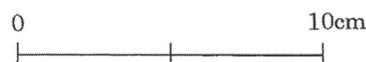


図67 1坪出土遺物

田中遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町太田字ヨフカ 1524-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年5月30日

5. 調査面積

16㎡

6. 記録作成

土層実測図 (1/20)、試掘坪配置図 (1/250)

写真記録 (デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度49分31秒)、東経 (134度36分29秒)

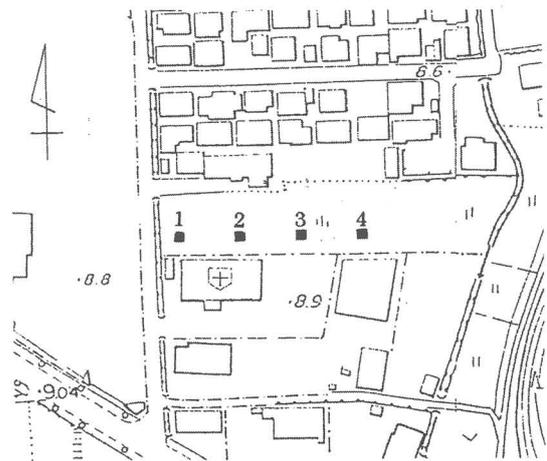


図68 試掘坪配置図 (1:2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字ヨフカ1524-1において分譲宅地開発が計画され、開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である田中遺跡(450107)の南方に位置し、包蔵地の範囲外ではあるが、東方約130mのところには周知の埋蔵文化財である黒岡山墳丘墓(450105)が所在し、また、南西方には川島遺跡(450092)も所在することから、遺跡の存在が考えられるため、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を実施した。なお、周辺部は宅地化が進み、調査地もすでに盛土造成が実施されているが、西側は標高8m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、2×2mの試掘坪4ヵ所を設定して実施した。

1坪 造成盛土(90cm)、耕土(14cm)、黄灰色土・床土(10cm)、明灰色粘質土(20cm)で黄色粘質土・地山となる。遺構・遺物は検出されなかった。

2坪 造成盛土(100cm)、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(10cm)、明灰色粘質土(20cm)、灰色粘質土(6~12cm)で黄色粘質土・地山となる。遺構・遺物は検出されなかった。

3坪 造成盛土(100cm)、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(8cm)、明灰色粘質土(32cm)、暗灰色粘質土(28cm)、灰色粘質土混じり灰黄色粘質土(32cm)、青灰色粘質土と続く。遺構・遺物は検出されなかった。

4坪 造成盛土(100cm)、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(8cm)、明灰色粘質土(48cm)、灰黄色粘質土(12cm)、暗灰色粘質土(30cm)、青灰色粘質土と続く。遺構・遺物は検出されなかった。

9. まとめ

調査の結果、調査地点では遺構・遺物包含層等は検出されなかった。土層の観察から、西側を南流する大津茂川の氾濫の影響を受けた低湿地であったと考えられる。

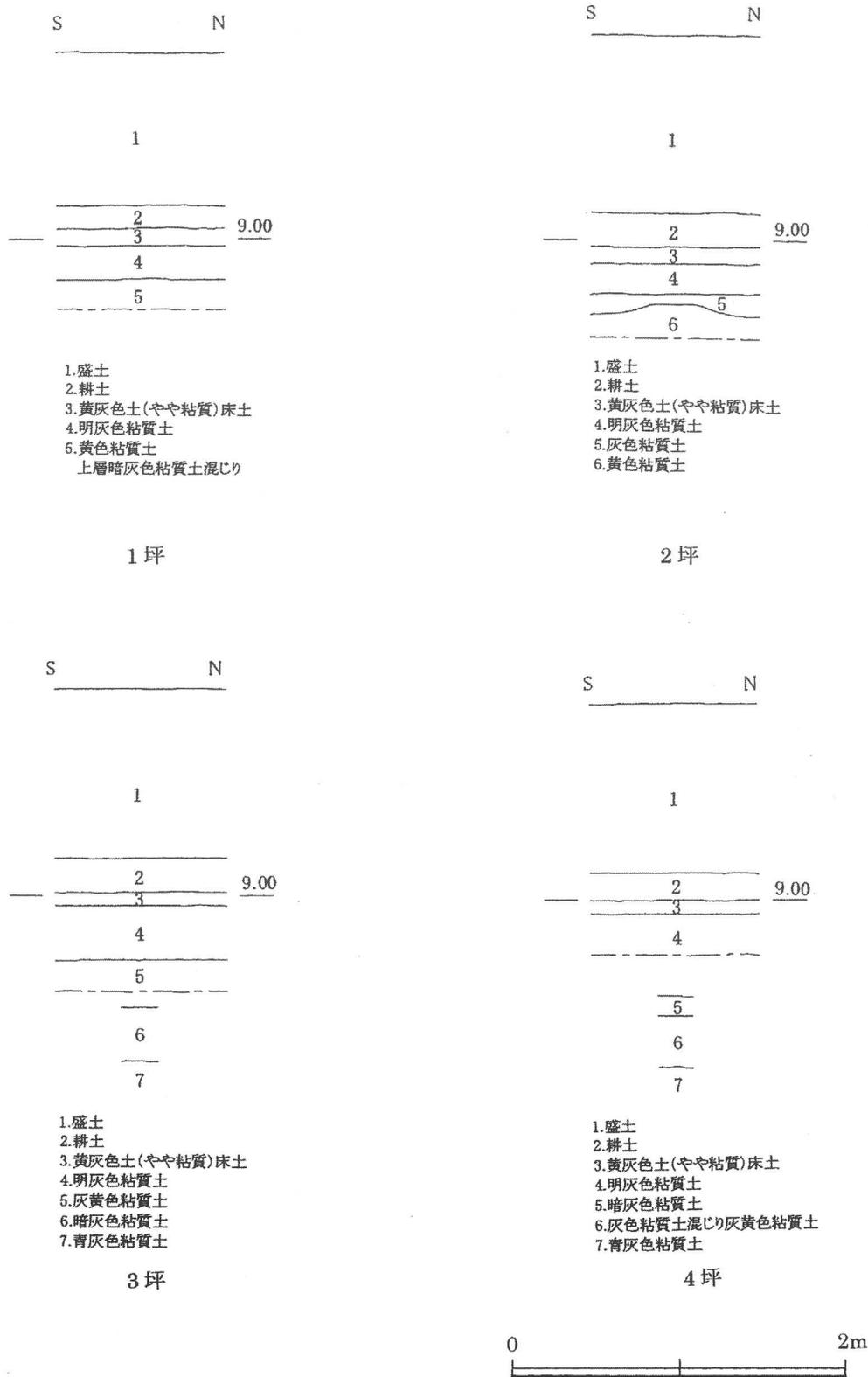


図69 土層断面図

東保遺跡

1. 所在地

揖保郡太子町東保字中ノ壺448-1 他4筆
同 字木森392-1

2. 調査機関

兵庫県揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年7月17日～25日

5. 調査面積

72.2㎡

6. 記録作成

土層実測図 (1/20)、遺物実測図 (1/1)、試掘坪配置図 (1/500)

写真記録 (デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度49分55秒)、東経 (134度35分32秒)

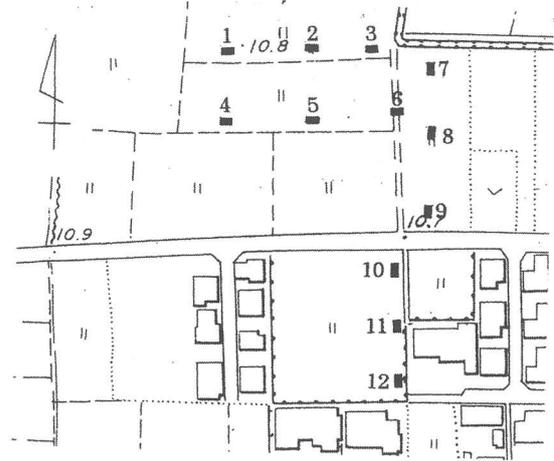


図70 試掘坪配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東保字中ノ壺448-1他4筆及び、字木森392-1において宅地造成の計画があがり、造成予定地は、周知の埋蔵文化財である東保遺跡の包蔵地内であるため、遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。ちなみに調査地は揖保郡条里19条10の範囲内に位置する。調査地の現況は標高10.8～11.4mを測る水田であるが、大部分は休耕地となっている。

8. 調査の概要

調査は町道を境に北側の字中ノ壺を北地区、南側の字木森を南地区とし、それぞれの造成地街路予定部分に2×3mの試掘坪を合計12カ所設定して実施した。

調査地の基本土層は、北地区の1～9坪では上層から耕土 (14～24cm)、灰黄色土・床土 (6～10cm)、明灰色粘質土 (16～34cm)、黒灰色粘質土 (20～40cm) で淡黄色粘質土地山となり、南地区の10～12坪では上層から耕土 (12～18cm)、灰黄色土・床土 (4～8cm)、明灰色粘質土 (12～20cm)、灰色粘質土 (8～20cm)、暗灰色粘質土 (12～15cm) で淡黄色粘質土・地山となっている。

北地区では条里遺構の確認のため、南北の畦畔を断ち割る様に6坪を設定して調査を実施したが、他の試掘坪と同様の土層の堆積状況を示しており、条理に関連する遺構は検出されなかった。

遺物は明灰色粘質土層から弥生式土器、土師器、須恵器、輸入青磁片が出土している。いずれも小片で、表面の磨滅が認められることから流れ込みによるものと考えられる。実測可能なものは3点のみであった。

9. まとめ

調査の結果、東保遺跡に関連する遺構は検出されなかった。北地区での畦畔の断ち割りでも、条里地割に伴う遺構は検出されなかった。

今回の調査地は粘質土が厚く堆積しており、一帯が湿地状を呈していたことが確認された。なお、今回の調査では検出されなかったが、今後の調査で水田址が検出される可能性がある。

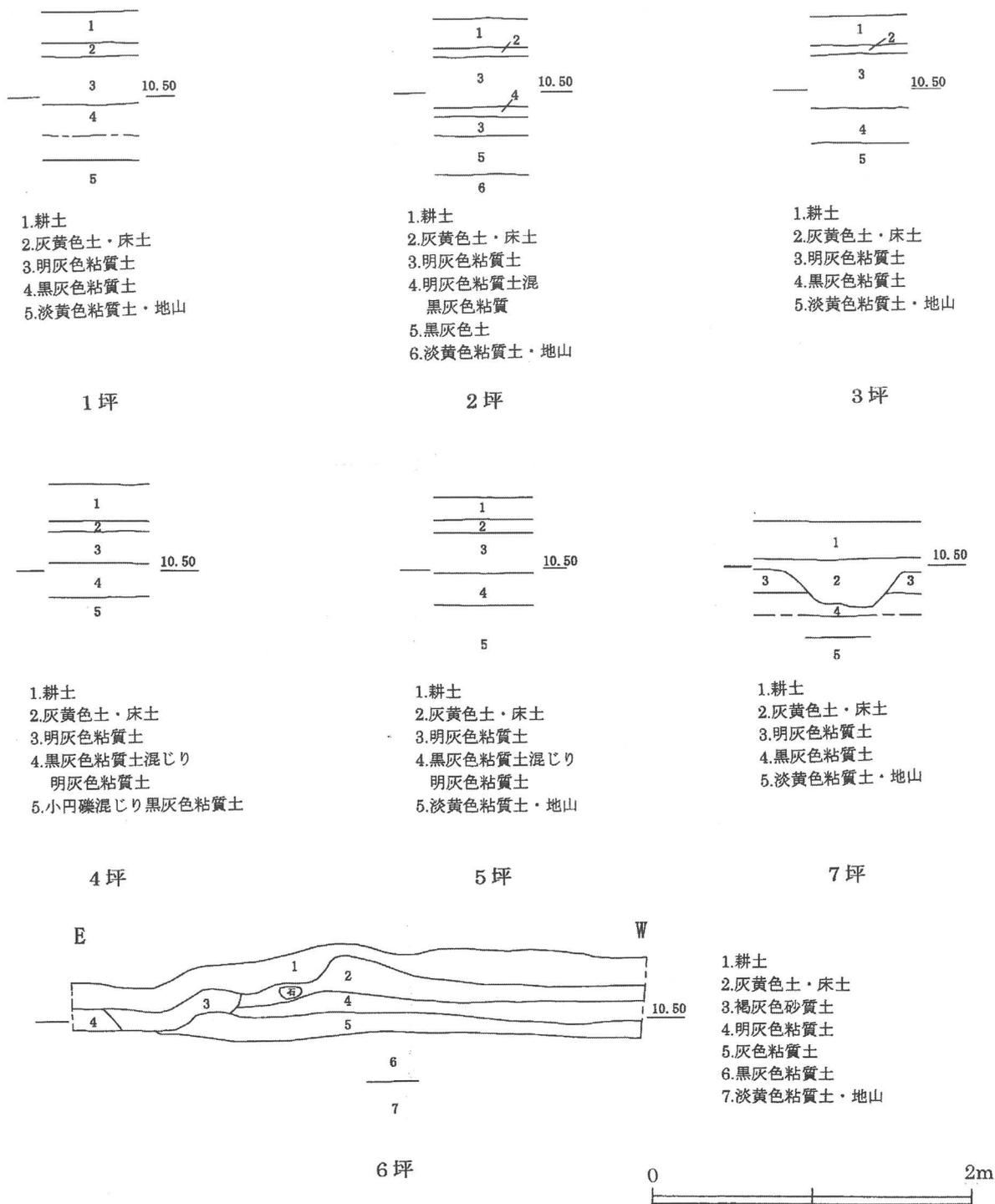
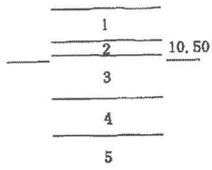
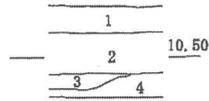


図71 土層断面図 (1)



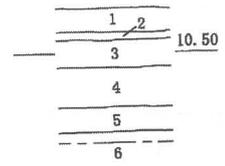
1. 耕土
2. 灰黄色土・床土
3. 明灰色粘質土
4. 黒灰色粘質土
5. 淡黄色粘質土・地山

8坪



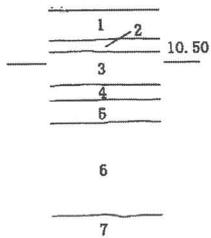
1. 耕土
2. 明灰色粘質土
3. 淡褐色砂
4. 円礫混じり黒灰色粘質土

9坪



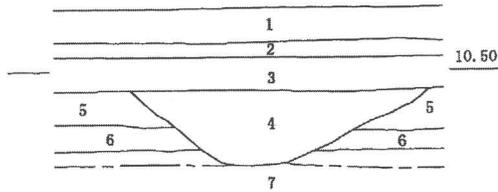
1. 耕土
2. 灰黄色土・床土
3. 明灰色粘質土
4. 灰色粘質土
5. 暗灰色粘質土
6. 淡黄色粘質土・地山

10坪



1. 耕土
2. 灰黄色土・床土
3. 明灰色粘質土
4. 灰色粘質土
5. 細砂混じり明灰色粘質土
6. 明灰色極細砂質土
7. 淡黄色粘質土・地山

11坪



1. 耕土
2. 灰黄色土・床土
3. 明灰色粘質土
4. 極細砂混じり暗灰色粘質土
5. 灰色粘質土
6. 灰色粘質土混じり暗灰色粘質土
7. 淡黄色粘質土・地山

12坪

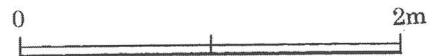
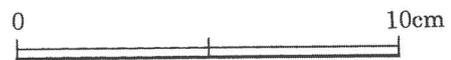
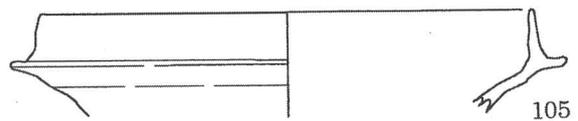
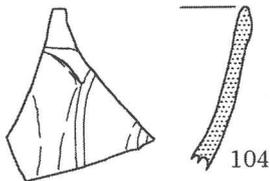


図72 土層断面図 (2)



1坪 (103)、10坪 (104)、11坪 (105)
(103・105. 須恵器、104. 輸入青磁)

図73 出土遺物

楯岩城跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町山田字大山664-10

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年8月5日～8月11日

5. 調査面積

30㎡

6. 記録作成

遺構実測図 (1/40)、土層実測図 (1/20)、遺物実測図 (1/1)、試掘坪配置図 (1/500)

写真記録 (カラーリバーサル35mm、デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度50分14秒)、東経 (134度36分53秒)

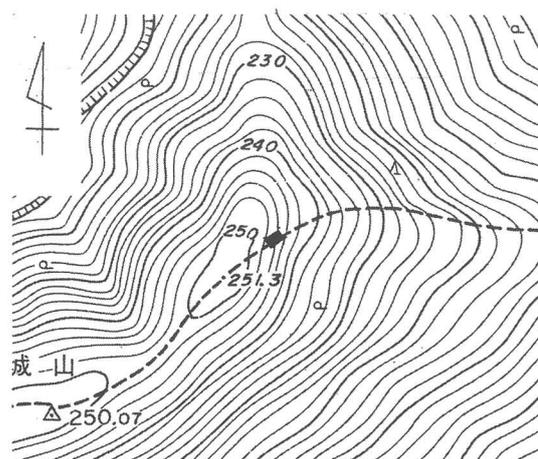


図74 調査区配置図 (1:2,500)

7. 調査に至る経過

太子町山田字大山664-10において兵庫県中播磨県民局県土整備部による、情報基盤整備事業に伴うテレメータ設備据付工事が計画された。据付工事予定個所は山頂部から北東約90mの尾根上で主要郭推定地からは離れているが、狭小な平坦面が認められることから遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。

楯岩城は、太子町の東端部に位置する標高250.1mを測る城山に所在した山城で、宝暦12年 (1762) に刊行された『播磨鑑』によると、赤松則弘によって築かれ、嫡子泰秀が継いだ加東郡に移った後、嘉吉の乱で幕府側に加わった赤松貞村の城となり5代続いたが、天正年中に羽柴秀吉の侵攻により廃城となったと伝えられる。

現状では、三角点のある頂上付近は巨岩が点在するのみであるが、西方のNHKテレビ塔の所在するところから北西と南方の尾根上に、城の遺構と考えられる複数の平坦面が認められる。

ちなみに据付工事予定個所は標高245～248mの間に位置し、周辺には巨岩が十数個点在する。

8. 調査の概要

調査は、テレメータ設備据付部分について5×6mの調査区を設定して実施した。

調査区の基本土層は、上層から表土(8～15cm)、流土(16～40cm)で、明赤褐色土・地山あるいは花崗岩の岩盤となっている。地山面は東側へ緩く傾斜している。遺構は、調査区西南端でピット2基を検出した。

ピットは、直径25～30cm、深さはそれぞれ30cmを測る。遺物は、流土層から土師器の灯明皿1個体と土師器の細片2点が出土した。



図75 調査区西半 (南東より)

9. まとめ

調査の結果、ピット2基を検出するに止まったが、調査地点からは東方に旧山陽道を見下ろすことができ、また、姫路城や妻鹿甲山城方面等への見通しも利くことから、見張台的な施設が存在した可能性が推測される。

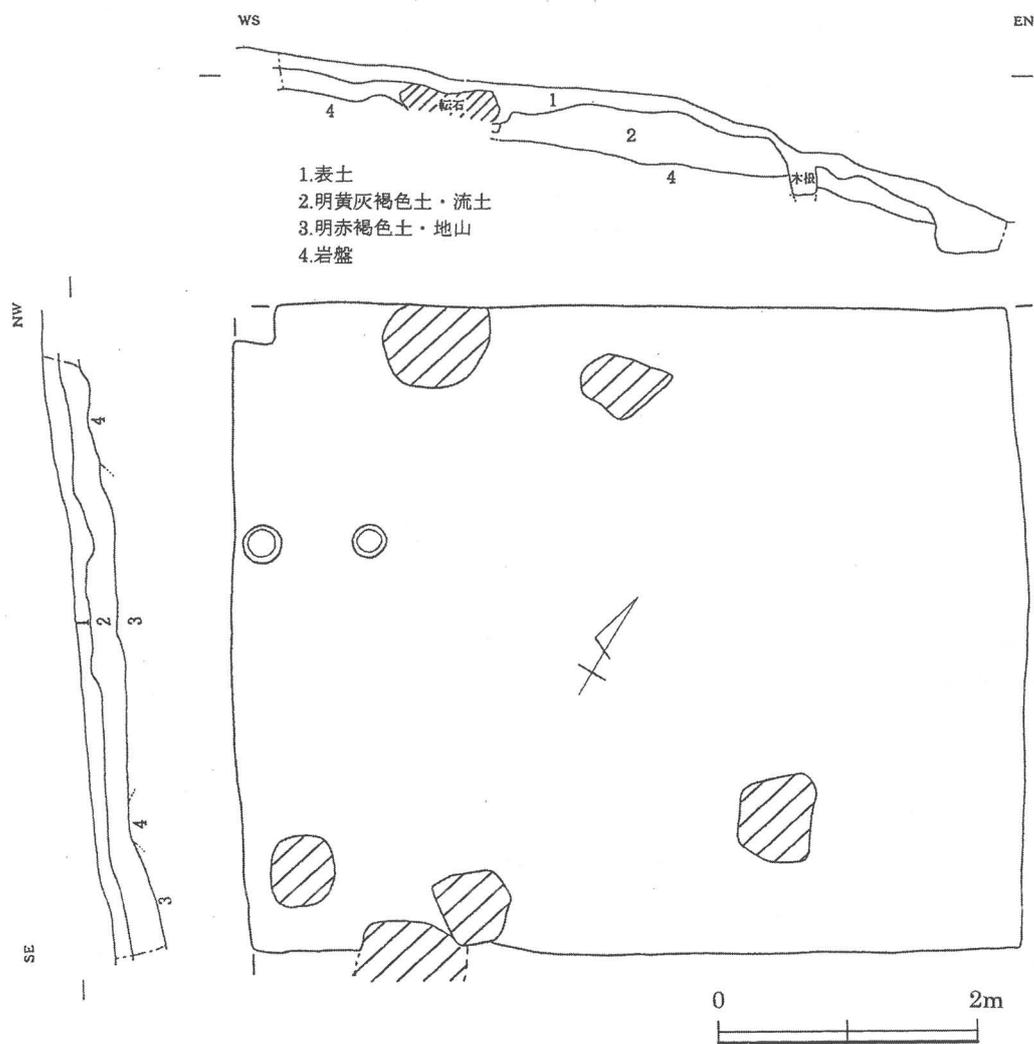


図76 遺構平面図・土層断面図

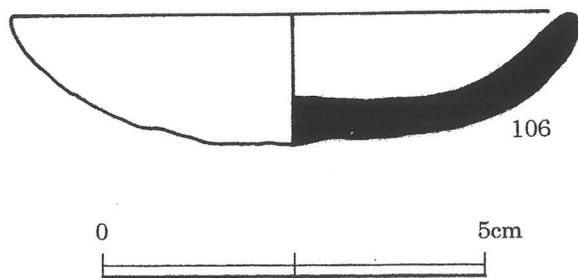


図77 出土遺物

山田大山 8 号墳（聖古墳）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町山田字大山664-17

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年9月1日～9月3日

5. 調査面積

34㎡

6. 記録作成

土層実測図（1/20）、トレンチ配置図（1/200）、写真記録（デジタルカメラ撮影）

北緯（34度50分10秒）、東経（134度37分10秒）

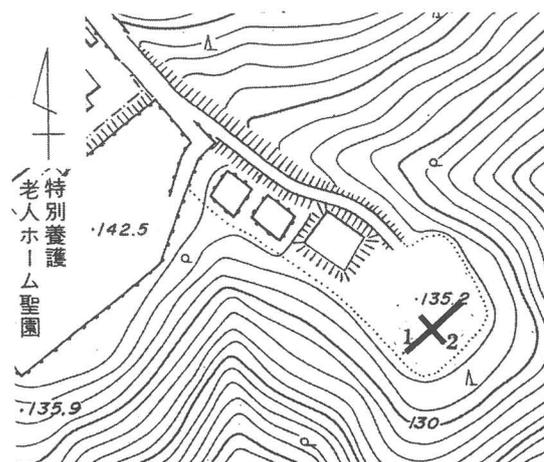


図78 トレンチ配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町山田字大山664-17において、エヌ・ティ・ティ・ドコモ関西による自動車電話・携帯電話無線中継基地局の建設が計画された。建設予定地は城山の頂上から東へ延びる尾根の突端で、かつて山田大山 8 号墳が所在したが、特別養護老人ホーム「聖園」建設に際して不注意から未調査のまま破壊されてしまい主体部が箱式石棺であったこと以外、墳形・規模等は不明のままであることから、今回、同古墳のデータを得るために確認調査を実施した。調査地は、標高135m前後を測り、現況は荒蕪地である。

8. 調査の概要

調査は、無線基地局建設予定地10×25mの範囲内に25×1mと10×1mのトレンチを設定して実施した。調査地の土層は上層から表土（6～12cm）、灰黄色土・真砂土（4～32cm）で花崗岩の風化岩盤層に達しており、岩盤は南西方向へ傾斜している。遺構、遺物は検出されなかった。

9. まとめ

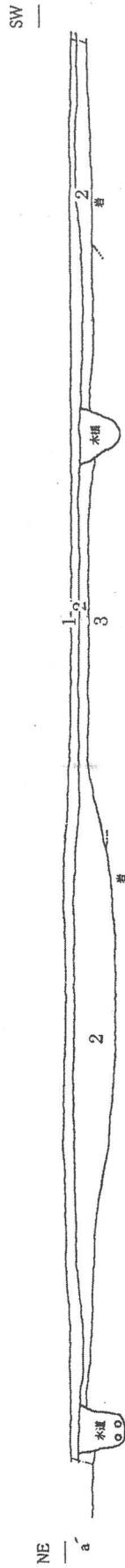
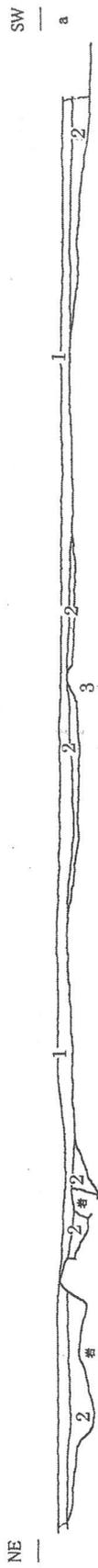
調査の結果、調査地は予想以上に削平を受けており、古墳の痕跡を検出することはできなかった。山田大山 8 号墳のデータを得られなかったことは残念である。



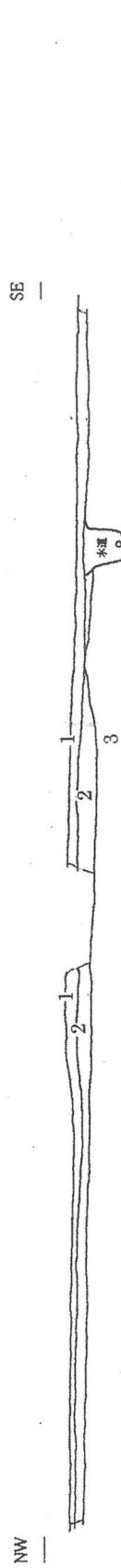
図79 1トレンチ全景（北東より）



図80 2トレンチ全景（北西より）



1 トレンチ



- 1.表土
- 2.灰黄色土・流土(真砂土)
- 3.岩盤(花コブ岩風化)

2 トレンチ



図81 土層断面図

川島遺跡（第14次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町太田字山ノ下1686-1 他3筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年9月4日

5. 調査面積

36.9㎡

6. 記録作成

土層実測図（1/20）、遺物実測図（1/1）、試掘坪配置図（1/200）、

写真記録（デジタルカメラ撮影）

北緯（34度49分33秒）、東経（134度36分22秒）

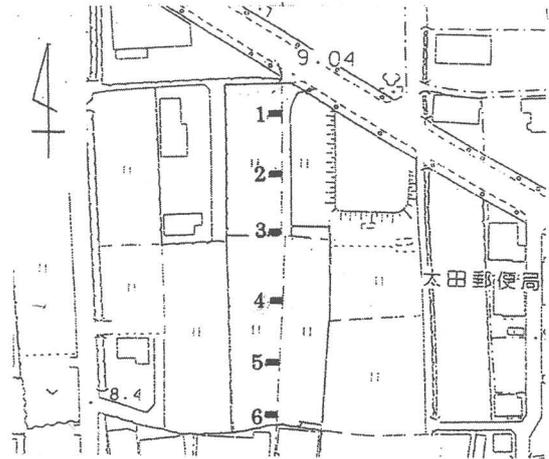


図82 試掘坪配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町太田字山ノ下1686-1他3筆において宅地造成の計画があがり、造成予定地は周知の埋蔵文化財である川島遺跡の包蔵地内であるため、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため、確認調査を実施した。調査地は町道改良工事に伴い実施し、弥生時代、古墳時代後期、中世の溝等が検出された第13次調査地点の東方50mの標高8.70m前後を測る水田に位置し、現況は休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内の街路部分に3×2mの試掘坪を6ヵ所設定して実施した。

調査地の基本土層は、上層から耕土（20～28cm）、明黄灰色土・床土（5～20cm）、明灰色粘質土（12～20cm）、灰色粘質土（5～20cm）で黄色粘質土・地山となっている。遺構は検出されなかったが、遺物は床土から明灰色粘質土層にかけてから1坪で輸入白磁片1点、2坪で土師器小片2点、5坪で須恵器小片3点が出土した。実測図化できたものは、1坪から出土した白磁片1点のみである。

9. まとめ

今回の調査地点では遺構は検出されず、また、遺物も小片が数点という状況から川島遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。

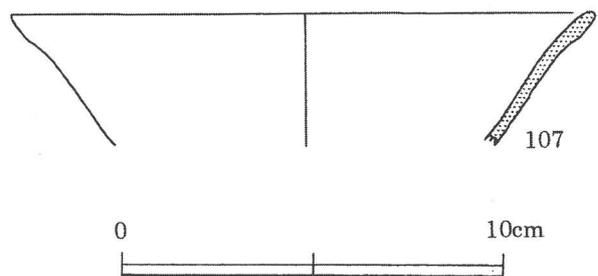
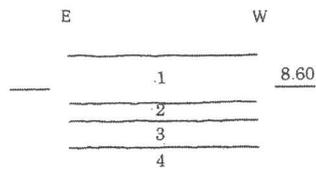
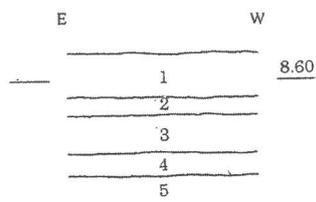


図83 1坪出土遺物



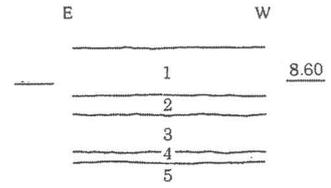
- 1. 耕土
- 2. 明黄灰色土・床土
- 3. 明灰色粘質土
- 4. 暗黄色粘質土・地山

1 坪



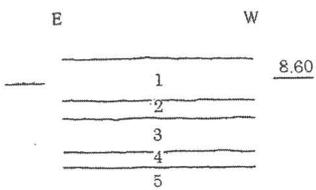
- 1. 耕土
- 2. 明黄灰色土・床土
- 3. 明灰色粘質土
- 4. 灰色粘質土
- 5. 黄色粘質土・地山

2 坪



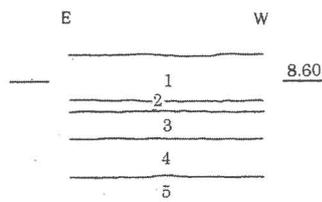
- 1. 耕土
- 2. 明黄灰色土・床土
- 3. 明灰色粘質土
- 4. 灰色粘質土
- 5. 黄色粘質土・地山

3 坪



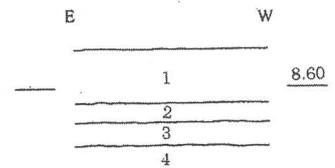
- 1. 耕土
- 2. 明黄灰色土・床土
- 3. 明灰色粘質土
- 4. 黄色粘質土混じり灰色粘質土
- 5. 黄色粘質土・地山

4 坪



- 1. 耕土
- 2. 明黄灰色土・床土
- 3. 明灰色粘質土
- 4. 暗灰色粘質土混じり灰色粘質土
- 5. 黄色粘質土・地山

5 坪



- 1. 耕土
- 2. 明黄灰色土・床土
- 3. 明灰色粘質土
- 4. 暗黄色粘質土・地山

6 坪

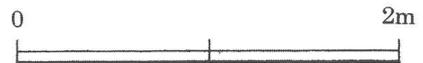


図84 土層断面図



図85 1坪

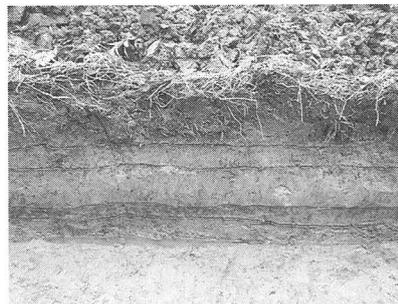


図86 3坪



図87 6坪

筑紫大道跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町佐用岡字桜ヶ坪725-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年9月16日～9月18日

5. 調査面積

29.7㎡

6. 記録作成

土層実測図 (1/20)、遺物実測図 (1/1)、試掘坪配置図 (1/200)、

写真記録 (デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度50分30秒)、東経 (134度34分48秒)

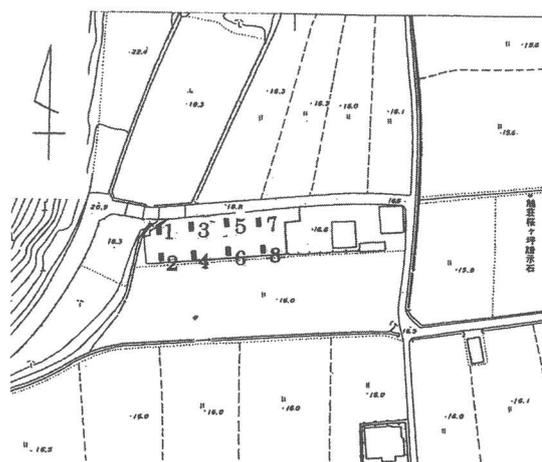


図88 試掘坪配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町佐用岡字桜ヶ坪725-1において集会所の建設が計画され、建設予定地は筑紫大道が西進し、坊主山を南に迂回する延長線上に位置することから遺構の有無を確認するため、確認調査を実施した。調査地は標高16m前後を測り、以前には木工所及び一戸建住宅が建っていたが、現況は更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、建物建設予定部分に1.5×2mの試掘坪8ヵ所を設定して実施した。

調査地の土層は、上層から造成盛土 (40～70cm)、耕土 (10～20cm)、旧耕土 (6～27cm)、床土 (14～24cm)、灰色粘質土 (14～30cm)、灰色砂質土 (4～34cm)、淡灰色砂質土 (約55cm) で黄色土・地山となっている。土層の観察から、地山は東南方向へ傾斜しており、粘質土が堆積する湿地状を呈している。

遺物は、灰色粘質土から流れ込みと見られる弥生式土器と須恵器の小片が少量出土したが、実測可能なものは3坪から出土した弥生式土器1点のみである。各試掘坪とも遺構は検出されなかった。

10. まとめ

今回の調査地点では、筑紫大道に関連する遺構は検出されなかった。調査地は、湿地状の地形を呈しており、当初想定された筑紫大道は、さらに南方を迂回して西進しているものと推測される。

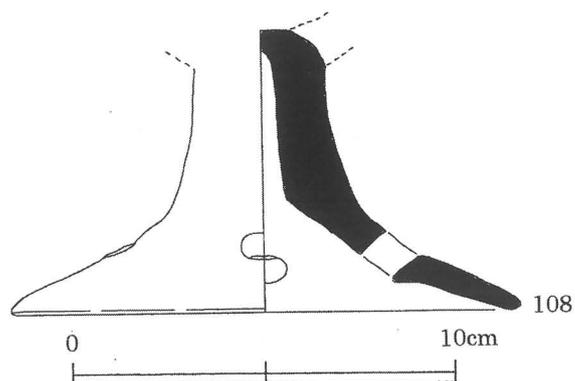


図89 3坪出土遺物

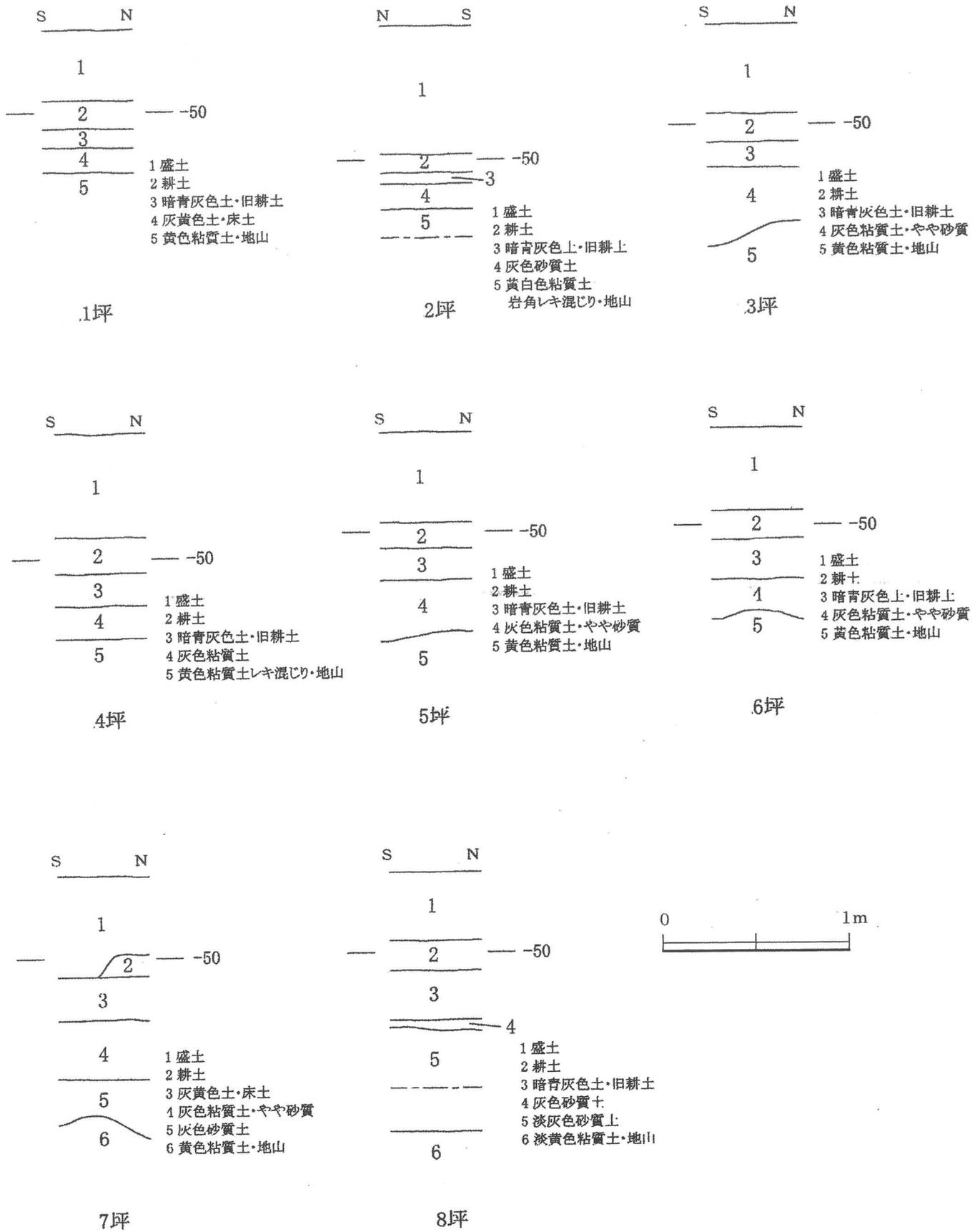


図90 土層断面図

竹広遺跡（第2次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町竹広字長金 114-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年12月1日～12月2日

5. 調査面積

19㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、調査区配置図（1/500）

写真記録（デジタルカメラ撮影）

北緯（34度48分49秒）、東経（134度34分50秒）

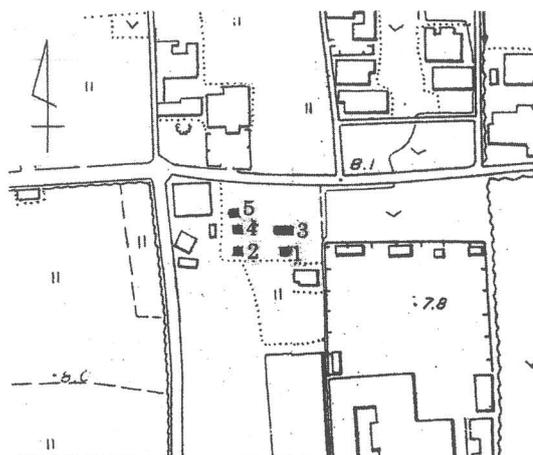


図91 試掘坪配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町竹広字長金114-1において公会堂の新築工事が計画され、建築予定地は、防火水槽設置に伴う試掘確認調査で掘立柱建物跡と溝が検出された箇所から西へ約20mの所に位置することから、遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。

8. 調査の概要

調査は、1.5×2mの試掘坪を公会堂本館部分に4箇所、倉庫部分に1箇所の計5箇所を設定して実施した。なお、3坪では遺構が検出されたため、西側への拡張を行った。

調査地の土層は上層から、造成盛土（約40cm）、耕土・旧耕土（4～20cm）、床土（2～6cm）で淡褐色砂質土の地山となっている。遺構は、3坪で北西から南東方向に走る溝1条を検出した。溝は、幅1.9m、深さ約40cmを測り、断面形は浅いU形を呈する。埋土は、褐色砂混じり灰色砂質土層である。

遺物は、1坪と3坪の床土から須恵器と土師器の小片が合わせてビニール袋1袋分が出土しただけである。遺構からの出土は無かった。



図92 3坪全景（西より）

9. まとめ

調査の結果、調査地北東部に設定した3坪から溝1条を検出した。今回の調査地点の東隣で実施した防火水槽設置に伴う第1次調査の成果とあわせると、遺跡は調査地点の東方へ広がるものと推測される。

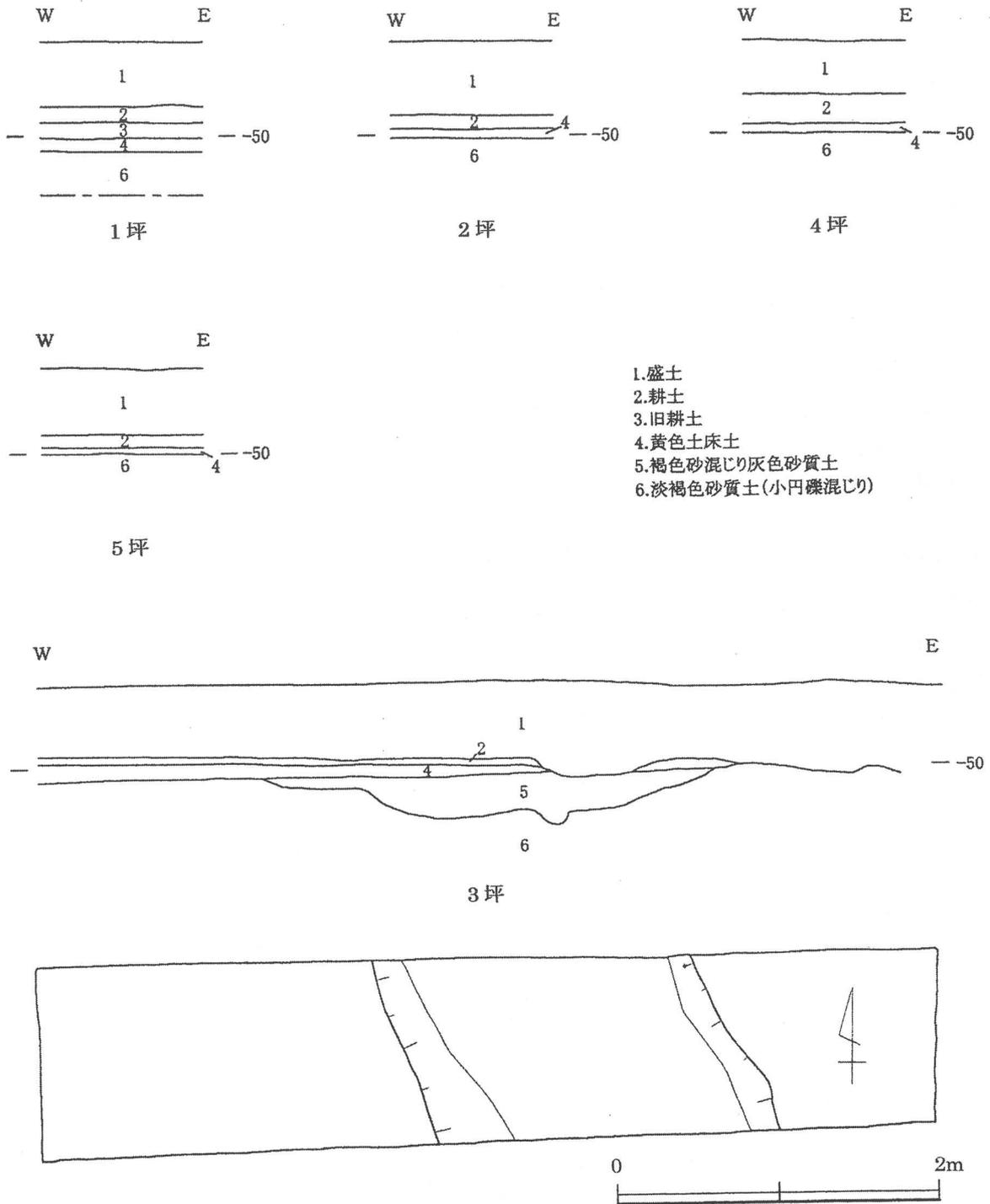


図93 遺構平面図・土層断面図

立岡南遺跡（第2次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町立岡字山崎287 他4筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年11月25日～11月27日

5. 調査面積

44.8㎡

6. 記録作成

遺構実測図（1/20）、土層実測図（1/20）、試掘坪配置図（1/500）

写真記録（デジタルカメラ撮影）

北緯（34度49分24秒）、東経（134度34分38秒）

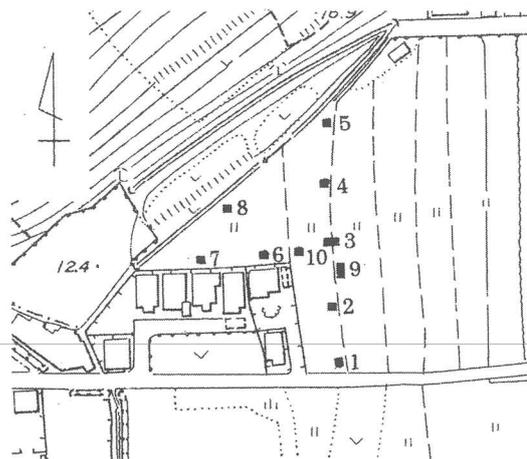


図94 試掘坪配置図（1/2,500）

7. 調査に至る経過

太子町立岡字山崎287他4筆において宅地造成が計画され、造成予定地は、周知の埋蔵文化財である立岡南遺跡の包蔵地内であるため、遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地の現況は、標高9.8m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内の街路設定部分に2×2mの試掘坪を8カ所設定して実施したが、No.3坪で遺構が検出されたため、同坪の東側を拡張するとともに南側と西側に試掘坪を追加したことにより、終了時には10カ所の調査となった。

調査地は土壤汚染改良工事に伴う確認調査の結果から、遺構面は床土下の茶褐色土上面と、地山面の2面存在することが確認されており、今回の調査でも茶褐色土上面での遺構の精査後に地山面までの掘り下げを行った。

調査地は土壤汚染改良工事により耕土・床土の入れ替えが行われており、確認された土層は現耕土（30～40cm）と部分的に残る黄色床土の下で、茶褐色土～砂質土（6～40cm）、淡黄褐色土～砂質土・地山となっている。4坪では灰色土、6坪では淡褐色土混じり茶褐色土がそれぞれ茶褐色土の上層で認められる。調査地中一番山側に位置する5坪では、現耕土直下で淡黄褐色土・地山となっている。地山面は、南方へ緩やかに傾斜している。遺構は、3坪の茶褐色砂質土上面で溝1条が検出されただけで、その他の試掘坪の茶褐色土上面及び地山面での遺構は検出されなかった。

検出された溝は東西方向に走り、坪西端付近で途切れる。幅45～60cm、深さ10cmを測り、断面形は浅いU字形を呈する。埋土は淡灰色砂質土である。

遺物は、2・3・4・9坪の茶褐色砂質土層から磨耗した弥生式土器と須恵器の細片が少量出土しただけで、3坪で検出された溝からの出土はなかった。

9. まとめ

調査の結果、3坪の茶褐色砂質土上面で溝1条を検出するに止まった。溝の時期については、遺物が出土しなかったが埋土の観察から中世以降のものと考えられる。平成7年度に実施した土壤汚染改良工事に伴う確認調査の成果とあわせると、調査地は遺跡の西側縁辺部にあたると思われる。わずかな量ではあるが遺物の出土も調査区東側の坪に偏っており、遺跡の本体はさらに東側に存在するものと考えられる。

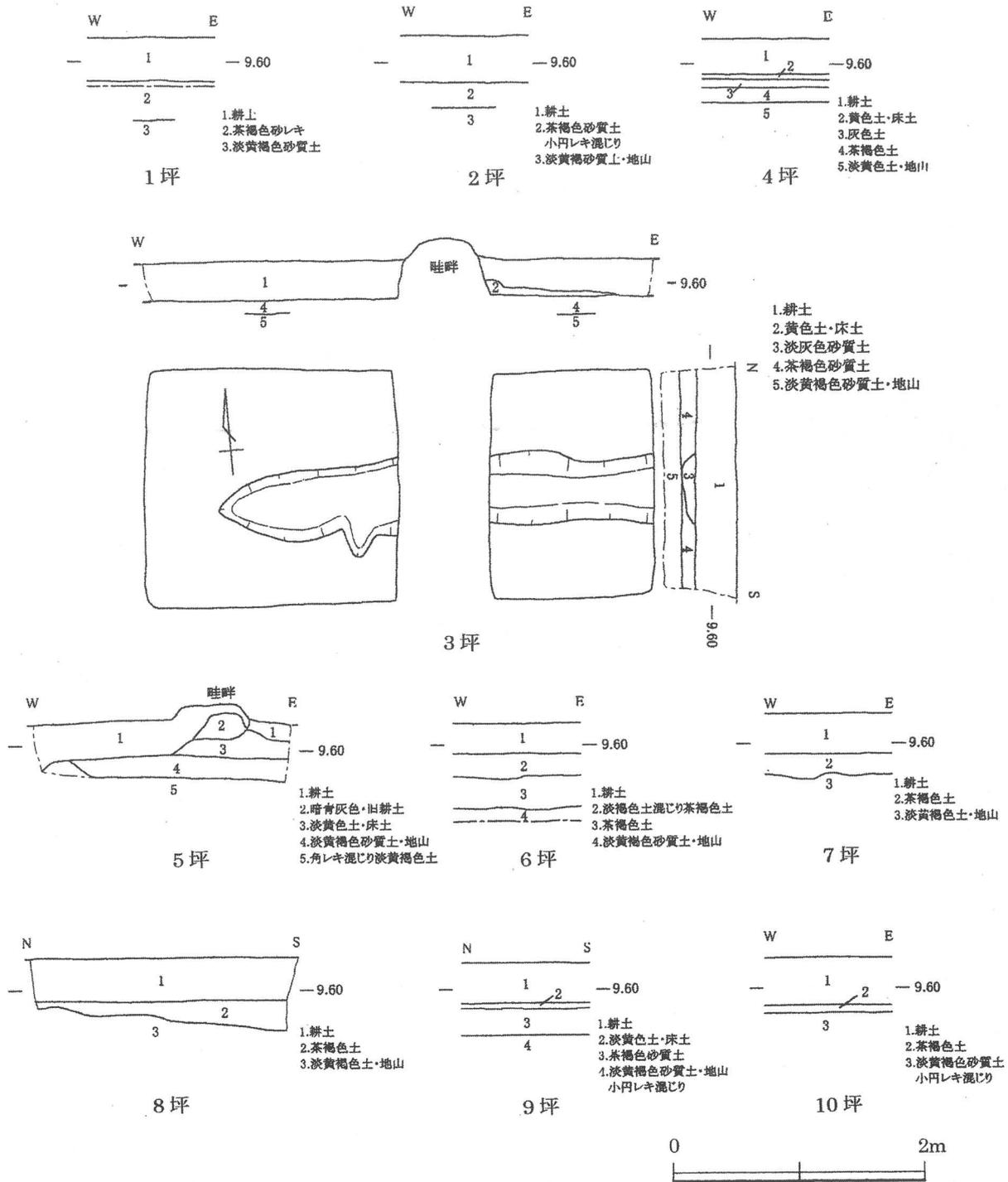


図95 遺構平面図・土層断面図

矢田部南遺跡

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町矢田部字書写田396-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年12月8日～12月11日

5. 調査面積

80.6㎡

6. 記録作成

遺構実測図 (1/20)、土層実測図 (1/20)、調査区配置図 (1/500)

写真記録 (デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度49分17秒)、東経 (134度35分18秒)

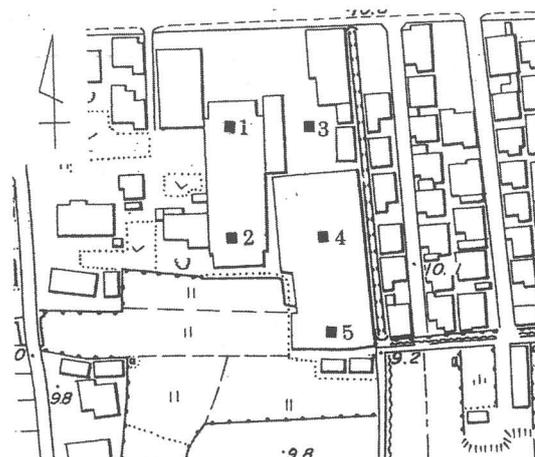


図96 トレンチ配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町矢田部字書写田396-1において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、石帯の一部である巡方が出土した矢田部遺跡の南約100mに位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を実施した。調査地は、標高10.70m前後を測り、以前は製材所の敷地であったが現在は更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、4×4mのトレンチを5箇所設定して実施した。調査地の基本土層は、西側に設定した1・2トレンチでは、造成盛土(約70cm)、耕土(約14cm)、明黄色土(14～20cm)、淡灰色粘質土(10～18cm)、淡黄色粘質土(約20cm)で茶褐色の粘質土ないし砂質土の地山となるが、東側に設定した3～5トレンチでは、造成盛土(約60cm)、耕土(10～14cm)、暗緑灰色粘質土(20～30cm)、暗灰色粘質土混じり灰色粘質土(約20cm)、淡灰色粘質土(10～30cm)、灰色粘質土(10～20cm)、暗灰色粘質土(10～20cm)で青灰色細砂ないし暗青灰色砂質土となっている。

遺構は、2トレンチでピット1基、土坑の一部、集石遺構を検出した。ピットは明灰色粘質土を埋土とし直径20cm、深さ40cmを測る。

土坑はトレンチ外に延びており全容は不明であるが、淡褐色灰色土を埋土とし、深さ20cmを測る。集石遺構は10～20cm大の川原石からなっている。遺物は、2トレンチの淡灰色粘質土層から磨耗した須恵器の小片2点が出ただけで、土坑を含む遺構からの出土は無かった。



図97 2トレンチ (西より)

9. まとめ

調査の結果、2トレンチでピット1基、土坑、集石遺構を検出することにより、遺跡が存在することが確認された。遺跡の時期及び性格については、遺構からの出土遺物が無く特定できなかった。また、調査地東側に設定したトレンチの土層堆積状況が低湿地状を呈していることから、調査地は微高地の東側縁辺部に位置していると考えられ、遺跡は西側に広がるものと推測される。遺跡の時期や性格等の詳細については、今後の周辺部の調査の成果を待ちたい。なお、今回の調査地北方に「矢田部遺跡」が存在することから、今回新たに発見された遺跡は「矢田部南遺跡」と呼称することにした。

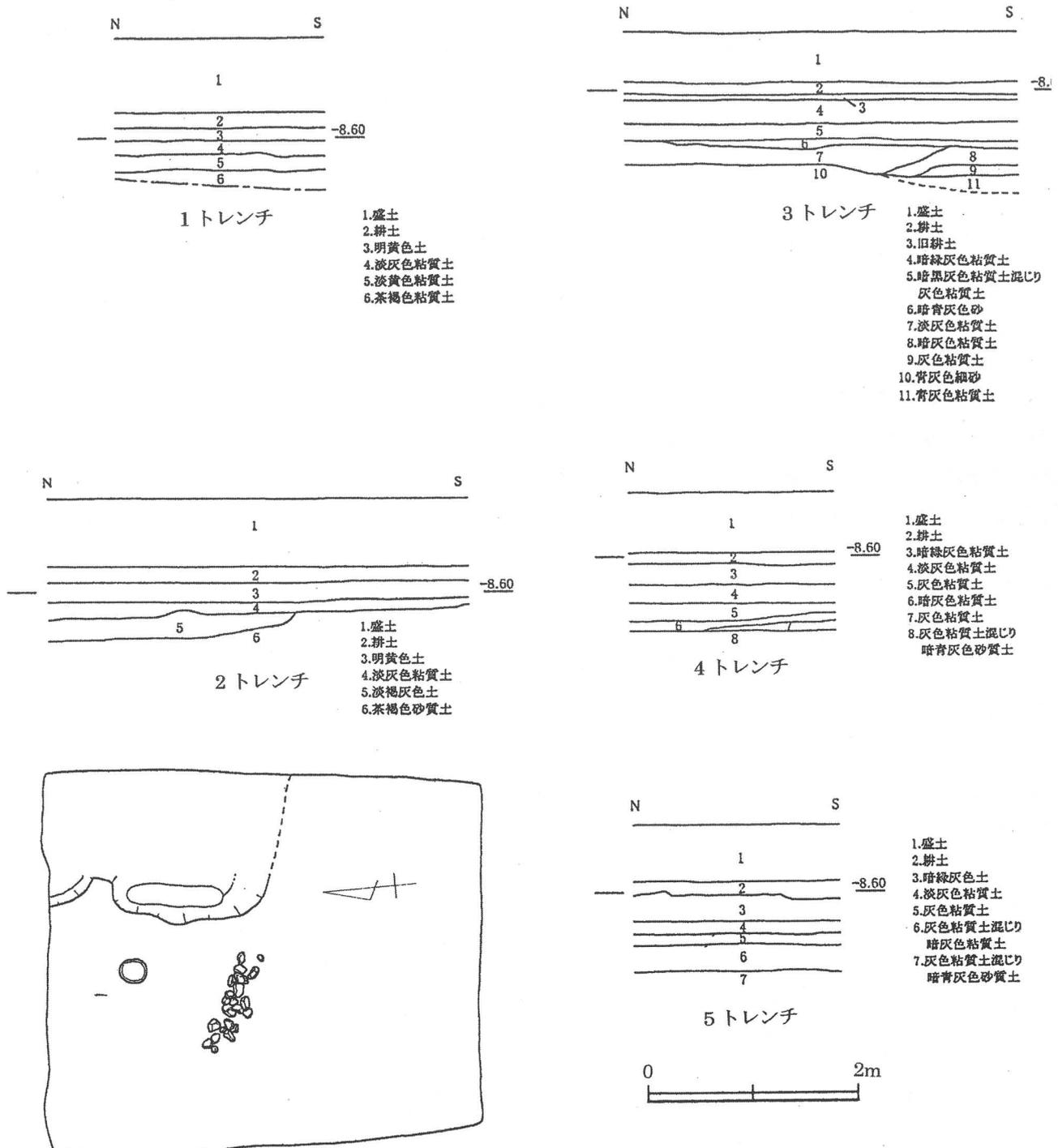


図98 遺構平面図・土層断面図

福井大池

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町原字福井大池538

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年12月17日～平成16年1月28日

5. 調査面積

180㎡

6. 記録作成

土層実測図 (1/20)、調査区配置図 (1/500)

写真記録 (カラーリバーサル35mm、デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度49分12秒)、東経 (134度36分43秒)



図99 トレンチ配置図 (1/10,000)

7. 調査に至る経過

太子町原字福井大池538において、兵庫県中播磨県民局地域振興部により決壊等災害の未然防止のための福井大池堤体改修工事が計画されたため、堤南半部で堤体を断ち割って施工される洪水吐工部分及び、取水施設工部分について確認調査を実施した。

福井大池は太子町東部の原地区に所在し、その名前のおこりである神護寺領福井荘の灌漑を担い、現在も姫路市勝原区・大津区にまたがる地域の用水池として活用されている。

大池の成立時期については、鎌倉時代に文覚上人によって築かれたという伝承を持つが、8世紀頃までさかのぼるものと考えられる。また、大池の規模については、江戸時代初期の慶長19年(1614)と、翌元和元年の2度の拡張が行われ、周囲1300間余、東西300間、南北420間、約171,000㎡の広さを有するようになるが、昭和43年(1968)に山陽新幹線建設に際し北側の一部が埋め立てられ、現在は約123,000㎡の広さとなっている。

8. 調査の概要

調査は、洪水吐施工部分と取水施設工部分の2箇所について前者を1トレンチ、後者を2トレンチとして工事の工程に合わせて土層の確認を実施した。洪水吐工部分では、工法上西側の現行水路底面レベル以下への掘削を行わないため基底部については部分的な観察に止まった。また、取水施設工部分については、既存の施設の改修のため、その掘削時に土層の観察を行った。1トレンチでの土層の観察では、堤は東西両端部が現代の水路改修等で攪乱を受けているが、外(西)側に褐色系の土で盛土を行い、その後灰色系の粘土を水平に積み上げて調査断面での基底幅約5m、高さ約1.7mの台形状に構築し、その内側に黄色系の粘土を大きくブロック状に積み上げて、内側へ拡張するように構築されている様子が観察された。版築工法は認められなかったが、灰色系、黄色系のいずれの粘土・土とも良く叩き締められている。また、基底部には根石・胴木等の施設は確認されず、青灰色粘土の地山の上に盛土されているようである。2トレンチの土層断面観察においても、根石・胴木等は確認されなかった。

9. まとめ

調査の結果、堤は基底部幅約12m、上場幅約8m、高さ約2.7mの規模を測り、断面形は台形状を呈している。構築方法については、版築工法は認められず、粘土と砂混じりの粘質土、あるいは砂質土等の性質の異なる土砂を用いて積み上げられ、外側から内側へ拡張するように構築されている様子が観察された。構築時期については、出土遺物がなく確認することは出来なかった。

今回限られた範囲内の調査であったため、堤全体の構造を解明することは出来なかったが、構造及び築造工程の一部を知ることが出来た。

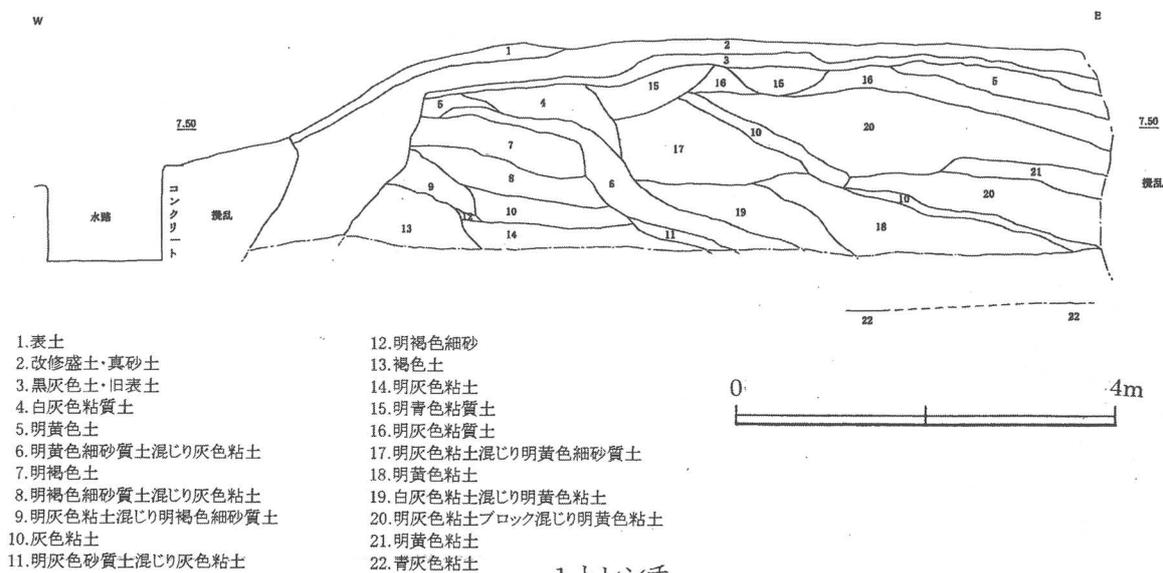


図100 土層断面図



図101 堤断面（南から）

Ⅲ 平成16年度調査概要

平成16年度では、12件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が10件、公共事業に伴う試掘確認調査が1件、民間の開発事業に伴う本発掘調査が1件である。そのうち、6箇所は民間開発事業の試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表3 平成16年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	調査期間	備考
1	東南遺跡	東南字佐田	宅地造成 国庫補助事業	587.4	28	平成16年5月11日 ～5月12日	文化財資料 第73集
2	東保高田遺跡	東保字宗田	宅地造成 国庫補助事業	1322.88	38	平成16年5月24日 ～5月27日	文化財資料 第73集
3	東保高田遺跡	東保字宗田	宅地造成	1322.88	102	平成16年7月22日 ～7月30日	本調査 受託事業 本書掲載
4	川島遺跡	太田字アンメ	宅地造成 国庫補助事業	2691.43	106	平成16年8月2日 ～8月5日	文化財資料 第73集
5	蓮常寺北遺跡	蓮常寺字一ノ宮	宅地造成 国庫補助事業	2958.13	93	平成16年10月1日 ～10月8日	文化財資料 第73集
6	立岡南遺跡	立岡字山崎	宅地造成 国庫補助事業	2687.19	82	平成16年11月25日 ～11月27日	文化財資料 第73集
7	東保遺跡	東保字中ノ坪	宅地造成 国庫補助事業	1889.29	37	平成16年12月9日 ～12月10日	文化財資料 第73集
8	矢田部遺跡	矢田部字才ノ上	防火水槽建設	42	42	平成16年12月20日 ～12月24日	公共事業 文化財資料 第72集
9	斑鳩寺南遺跡	鳩字中宮寺	宅地造成	8464.49	548.2	平成16年12月22日 ～平成17年1月31日	本書掲載
10	城山遺跡	鳩字植竹	個人住宅建設	259	8	平成17年1月20日	本書掲載
11	田中遺跡	太田字五反田	宅地造成	1246.06	12	平成17年2月4日	本書掲載
12	立岡東遺跡	立岡字小畑	宅地造成	2187	48	平成17年2月14日 ～2月18日	本書掲載

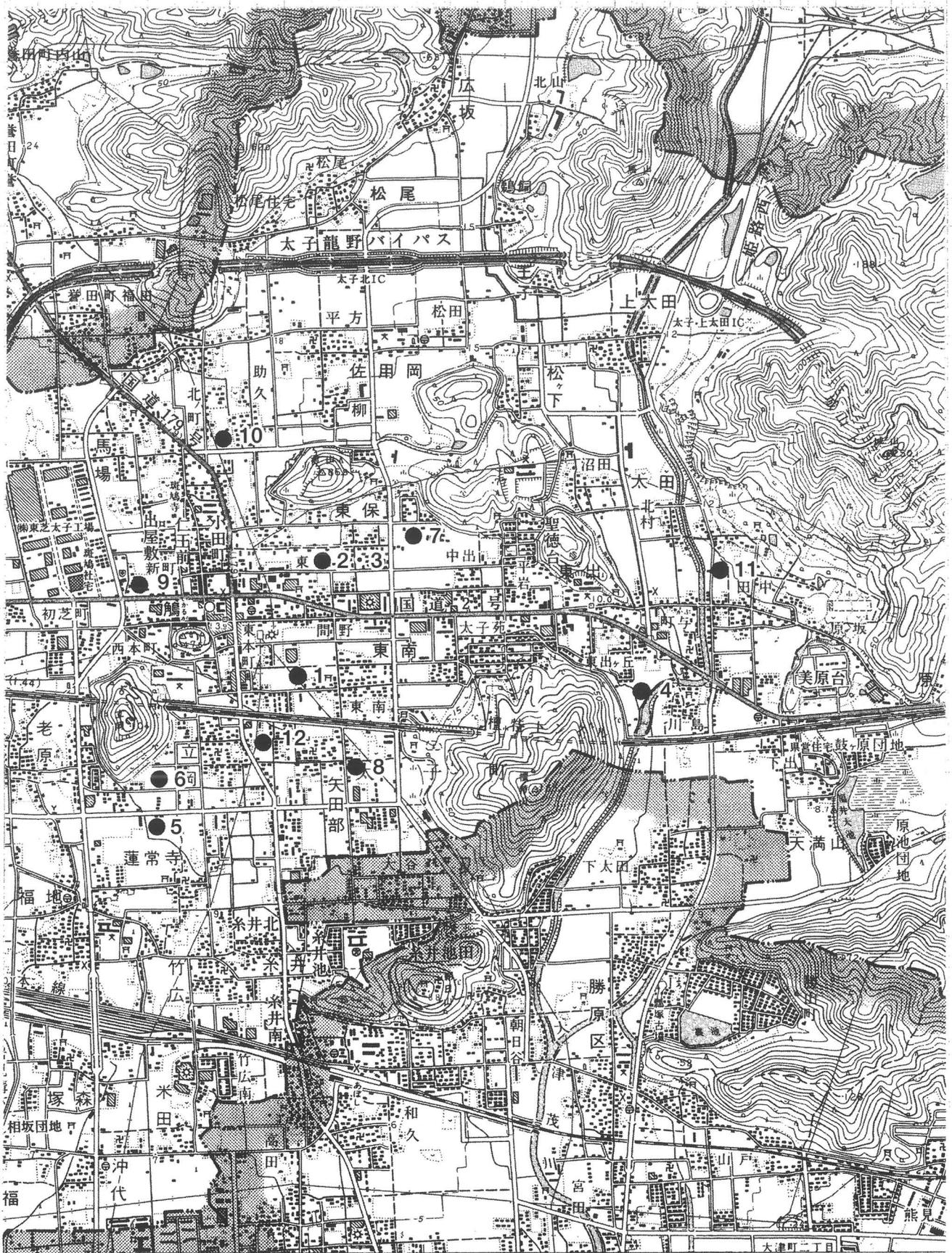


図102 平成16年度調査位置図

東保高田遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東保字宗田136-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年7月22日～7月30日

5. 調査面積

102㎡

6. 記録作成

遺構実測図 (1/20)、土層実測図 (1/20)、遺物実測図 (1/1)、調査区配置図 (1/200)

写真記録 (カラーリバーサル35mm、デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度49分54秒)、東経 (134度35分12秒)

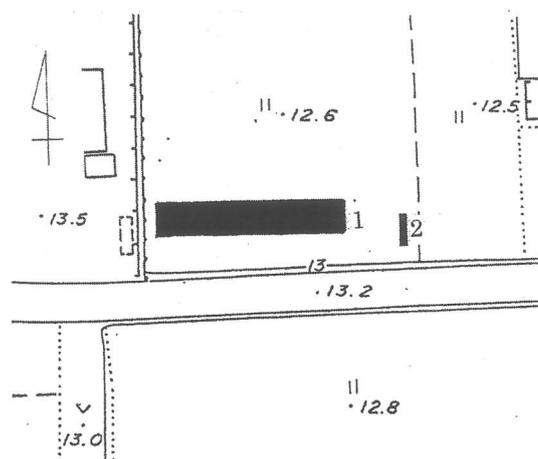


図103 調査区配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

東保高田遺跡の包蔵地内である太子町東保字宗田136-1において、集合住宅建築が計画されたため試掘確認調査を実施したところ、調査地南端部で東西方向の条里地割に添う溝が確認された。教育委員会では開発事業者側と協議し、地盤改良工事深度が遺構検出面以下まで及ぶ建物部分の遺構検出部について発掘調査を実施した。

8. 調査の概要

調査は、遺構の検出された試掘坪7～9間に調査区1を設定し、また東側擁壁施工部分で、溝の東側延長線上に位置する部分についても調査区2を設定して実施した。

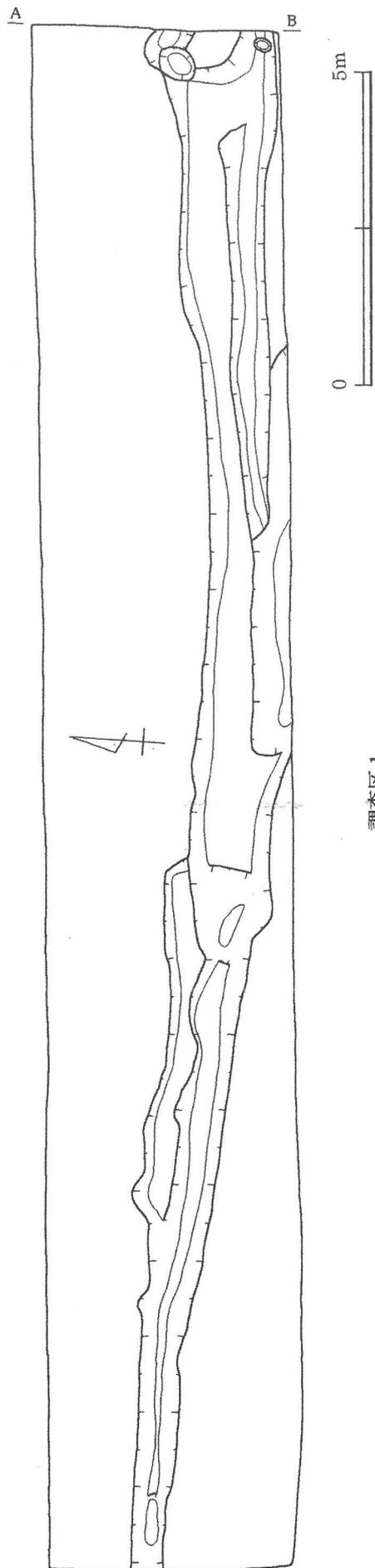
調査の結果、溝は試掘坪7～9で検出されたものが一連の物であることが確認された。規模は東端部では幅1.9m、深さ10～20cm、西端部では幅50cm、深さ30cmを測り、東側2/3では北側が一段浅く、二段掘り状になっている。埋土は灰色粘質土・褐色砂混じりの灰色砂、ないしは灰色土まじり淡褐色土である。

調査区2では、溝の東への続きが確認された。規模は幅約2.5m、深さ15～20cmを測る。

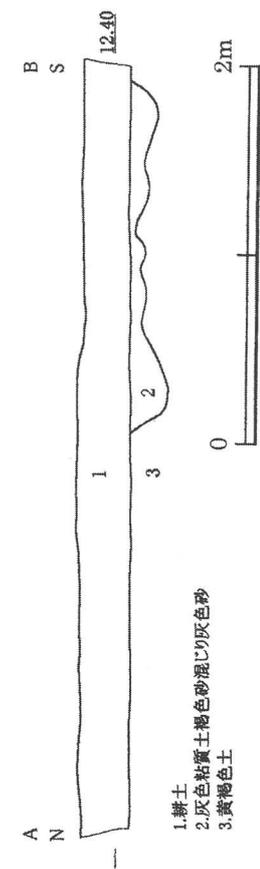
遺物は、調査区1の溝から弥生式土器・土師器・須恵器がコンテナに半分程度が出土したが、ほとんどが小片で実測図化できたものは数点を数えるだけである。

9. まとめ

調査の結果、試掘調査で検出された溝が条里地割に添った東西方向に走る一連の遺構であることがあらためて確認された。調査地の東方約300mの地点で実施した東保遺跡の調査では、低湿地状の地形である調査成果が得られており、試掘調査の成果とあわせて、今回の調査地点は東保高田遺跡の東縁辺部に位置するものと考えられる。

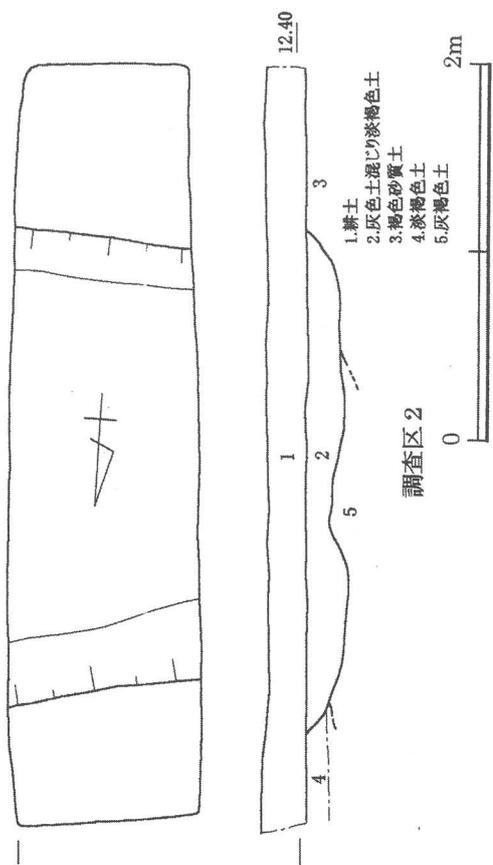


調査区 1



調査区 1 東壁土層断面

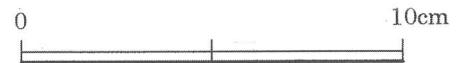
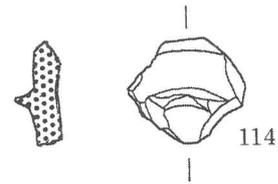
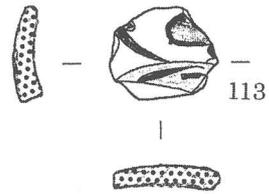
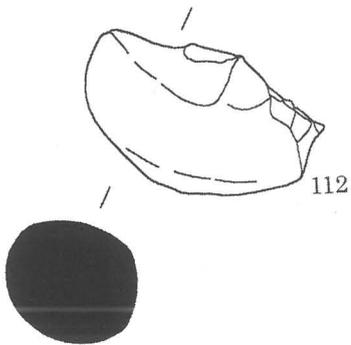
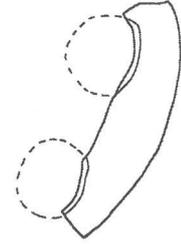
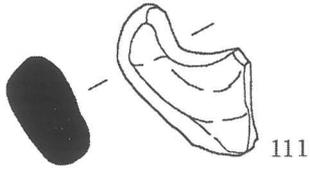
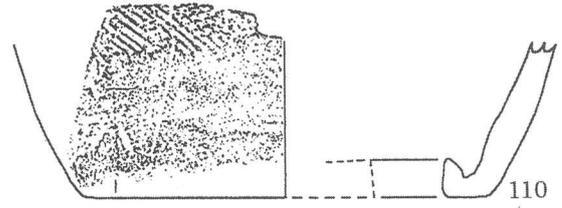
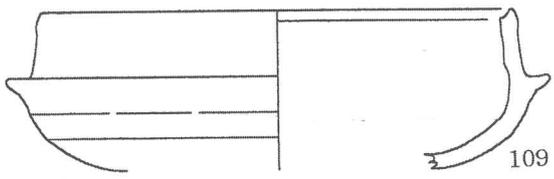
- 1. 耕土
- 2. 灰色粘質土褐色砂混じり灰色砂
- 3. 黄褐色土



調査区 2

- 1. 耕土
- 2. 灰色土混じり淡褐色土
- 3. 褐色砂質土
- 4. 淡褐色土
- 5. 灰褐色土

图104 遺構断面図・土層断面図



調査区1溝 (109~112)、調査区1表採 (113・114)
 (109・110. 須恵器、111・112. 土師器、113・114. 磁器転用面子)

図105 出土遺物



図106 調査区1全景 (西より)



図107 調査区2全景 (北より)

斑鳩寺南遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字中宮寺509-1、
字水走380-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年12月22日～平成17年1月31日

5. 調査面積

548.20㎡

6. 記録作成

遺構平面図(1/20)、土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/300)

写真記録(カラーネガ/リバーサル35mm、カラー/モノクロ120mm6×7版、デジタルカメラ撮影)
北緯(34度49分24秒)、東経(134度34分39秒)

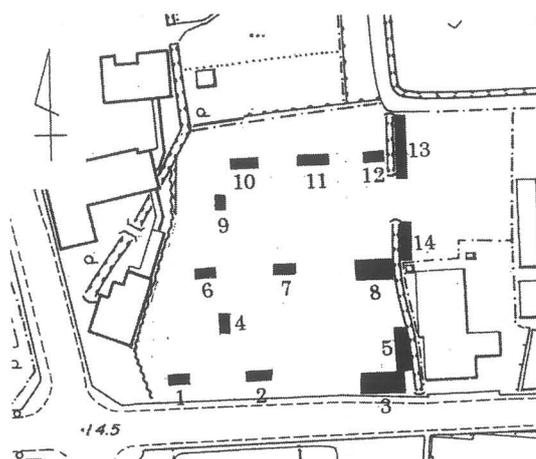


図108 トレンチ配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町鶴字中宮寺509-1及び380-1において、分譲宅地開発が計画され、開発予定地は周知の埋蔵文化財である斑鳩寺南遺跡の包蔵地内であるため、遺構の有無を確認するため確認を実施した。調査地は標高14.70m前後を測り、以前は運送会社の敷地であったが、現況は更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、開発予定地内に3×5mのトレンチ2箇所、3×8mのトレンチ10箇所を設定して実施したところ、3トレンチ及び5トレンチで竪穴住居址と考えられる遺構を、4・8・9トレンチで溝をそれぞれ検出したため、3・5・8トレンチを拡張するとともに8トレンチ北部に13トレンチ(2×14m)と、その南側に14トレンチ(2×8m)を追加設定して調査を実施した。

1トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1m)、耕土(16cm)、床土(4cm)、褐灰色土(4～14cm)で淡褐色砂質土・地山となる。遺構・遺物は検出されなかった。

2トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1m)、耕土(12～15cm)、床土(4cm)、で淡褐色土・地山となる。遺構・遺物は検出されなかった。

3トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1m)、耕土(20cm)、床土(4～6cm)、で黄褐色土あるいは褐色砂礫の地山となる。遺構が検出されたため拡張した結果、古墳時代後期の住居址3棟・土坑1基、時期不明の土坑1基・ピットを検出した。遺物は、住居址及び土坑から土師器・須恵器が出土した。

4トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1.5m)、耕土(16cm)、床土(2～4cm)、灰褐色土(8cm)で淡褐色土・地山となる。遺構は、古墳時代後期の南西方向に走る溝1条とピットを検出した。遺物は、溝から須恵器片が出土した。

5トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(80cm～1.1m)、耕土(20cm)、床土(4～8cm)、

で黄褐色土・地山となる。遺構が検出されたため拡張した結果、古墳時代後期の住居址4棟・土坑5基・ピット、近現代の溝1条、時期不明の土坑1基・ピットを検出した。遺物、住居址及び土坑から土師器・須恵器が、溝からは近世陶磁器・瓦片が出土した。また、トレンチ中央付近で、縄紋時代後期の淡褐色砂質土からなる遺物包含層を検出し、縄紋土器が出土した。

6トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1.4m)、耕土(18cm)、床土(15cm)、淡褐色砂質土(8cm)で礫層となる。遺構・遺物は検出されなかった。

7トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1.2m)、耕土(16~20cm)、床土(10~14cm)、明褐色砂質土(16cm)で淡褐色細砂質土・地山となる。遺構は検出されなかったが、遺物は明褐色砂質土から土師器・須恵器片が出土した。

8トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1m)、耕土(18cm)、床土(6cm)、灰褐色土(10cm)、灰色土(12cm)で淡黄色土・地山となる。遺構が検出されたため拡張した結果、古墳時代後期の南東方向に走る溝1条(溝1)、中世の東西方向に走る溝1条(溝2)を検出した。遺物は、溝1から土師器・須恵器が、溝2からは土師器・須恵器・白磁・砥石が出土した。

9トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1.5m)、耕土(16cm)、旧耕土(20cm)、淡褐色土(20cm)、淡褐色土(6cm)、灰褐色土(8cm)で淡黄褐色砂質土・地山となる。遺構は、古墳時代後期の溝1条を検出した。遺物は、溝から土師器の小片が出土した。

10トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1.3m)、耕土(14cm)、床土(10cm)で淡褐色砂質土・地山となる。遺構・遺物は検出されなかった。

11トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(1.2m)、耕土(16~20cm)、床土(8cm)、灰褐色土(10~14cm)で淡黄色土・地山となる。遺構・遺物は検出されなかった。

12トレンチ 確認した土層は、上層から造成盛土(70cm)、耕土(16cm)、床土(5cm)で黄褐色土・地山となる。遺構・遺物は検出されなかった。

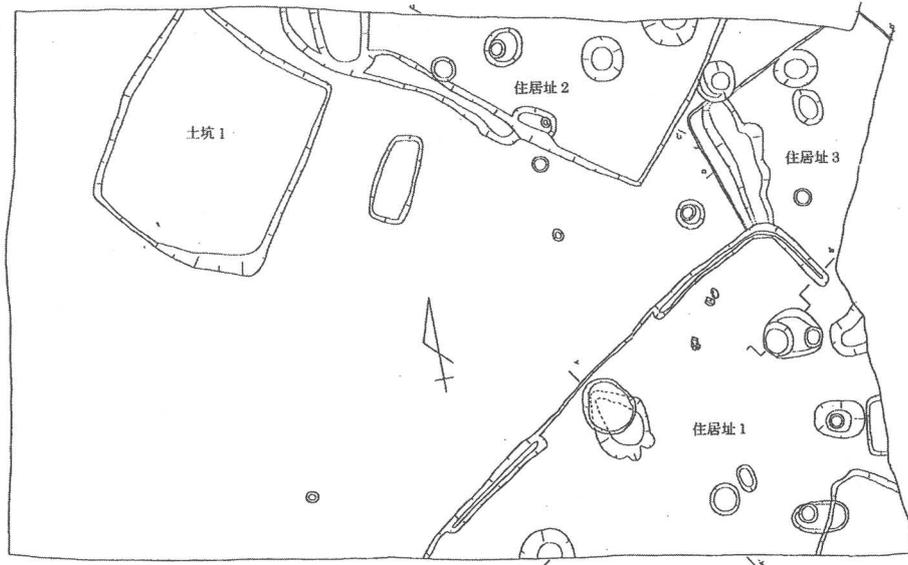
13トレンチ 調査地北東端に追加設定したトレンチである。確認した土層は、上層から造成盛土(80cm)、耕土(20cm)、床土(6cm)、淡灰褐色土(10cm)、灰色土(5~10cm)、灰褐色土(8~18cm)で黄色土・地山となる。

トレンチ南端部では、灰色土の下層で暗灰色粘質土が堆積する。遺構は、古墳時代後期の溝1条・ピットを検出した。遺物は、溝から須恵器が出土した。

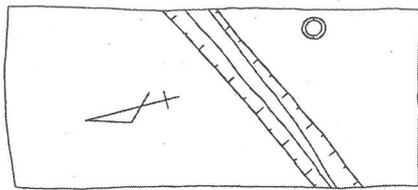
14トレンチ 13トレンチの南に増設したトレンチである。確認した土層は、上層から造成盛土(70cm)、耕土(18cm)、床土(4~6cm)、褐色土(10~18cm)、灰色土(8~20cm)、暗黄灰褐色土(12~20cm)、暗灰褐色粘質土(14~20cm)で淡褐色土・地山となる。低湿地上の土層の堆積状況をしている。遺構は、トレンチ南端部で時期不明の溝1条・ピットを検出した。遺物は、床土下層の褐色土から土師器・須恵器が出土した。

9. まとめ

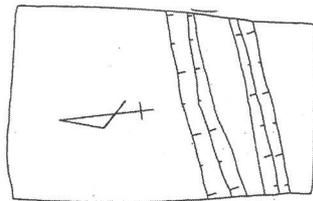
調査の結果、縄紋時代後期の遺物包含層、古墳時代後期と中世の遺構を検出することができた。遺構は、構成の耕作等に伴う削平を受けていることも判明した。8トレンチで検出された中世の溝は、東西方向に走り揖保郡条里地割に添うものである。今回の調査地では、遺構は調査地東半にあたる字中宮寺地域に集中しており、遺跡は南東方向に広がることが推測される。また、今回の調査では小規模であるが、5トレンチで縄紋時代後期の遺物包含層が検出されたことは、斑鳩寺南遺跡に新たな知見を加えるものであり、この時期の集落遺跡の存在が予測される。



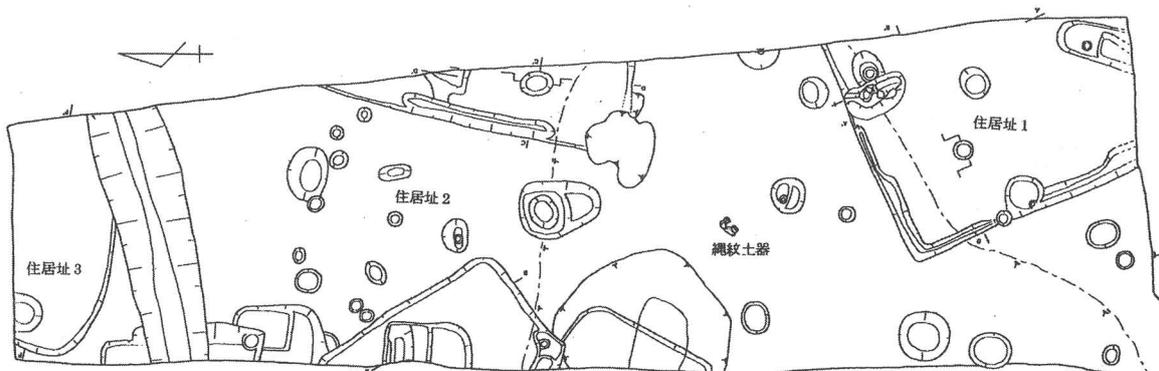
3トレンチ



4トレンチ



9トレンチ



5トレンチ

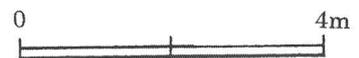
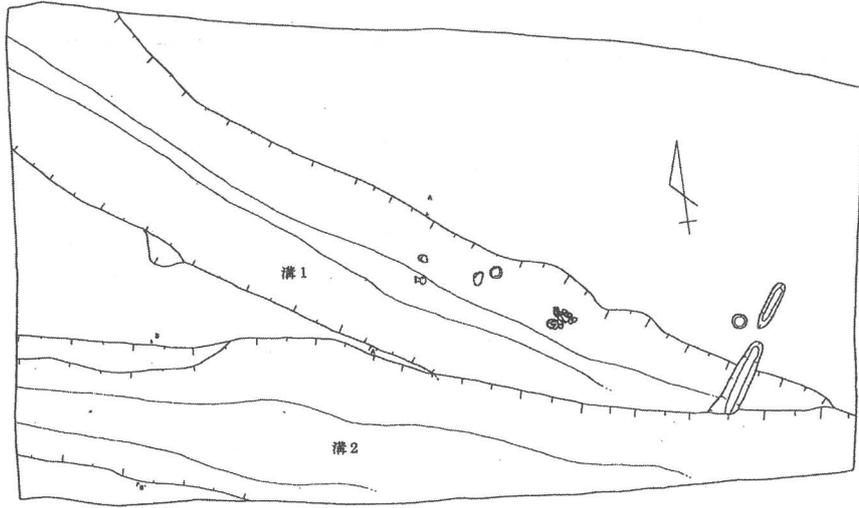
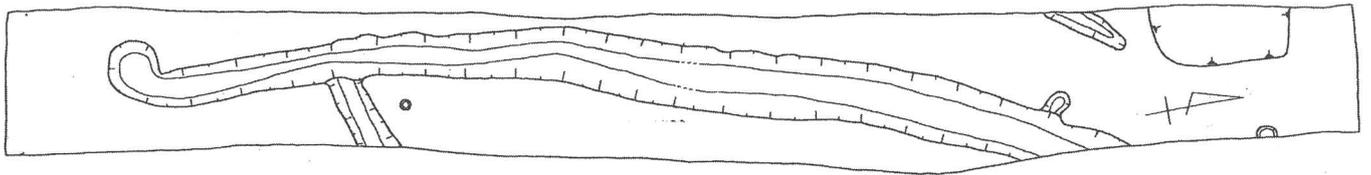


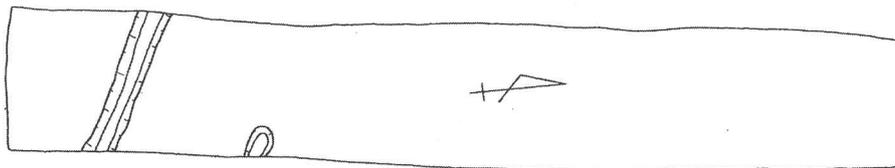
図109 遺構平面図 (1)



8トレンチ



13トレンチ



14トレンチ

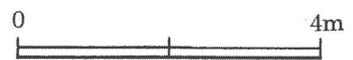
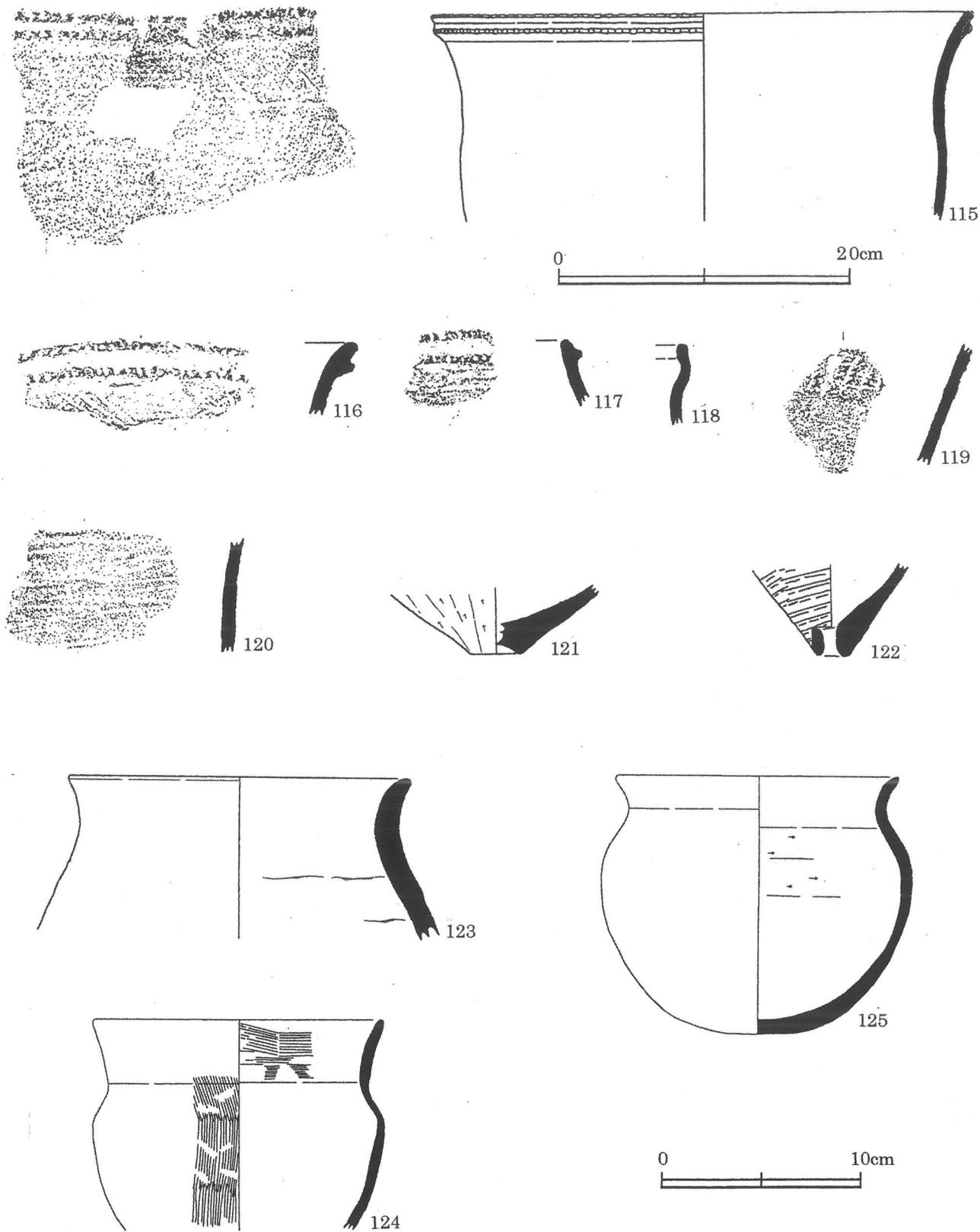
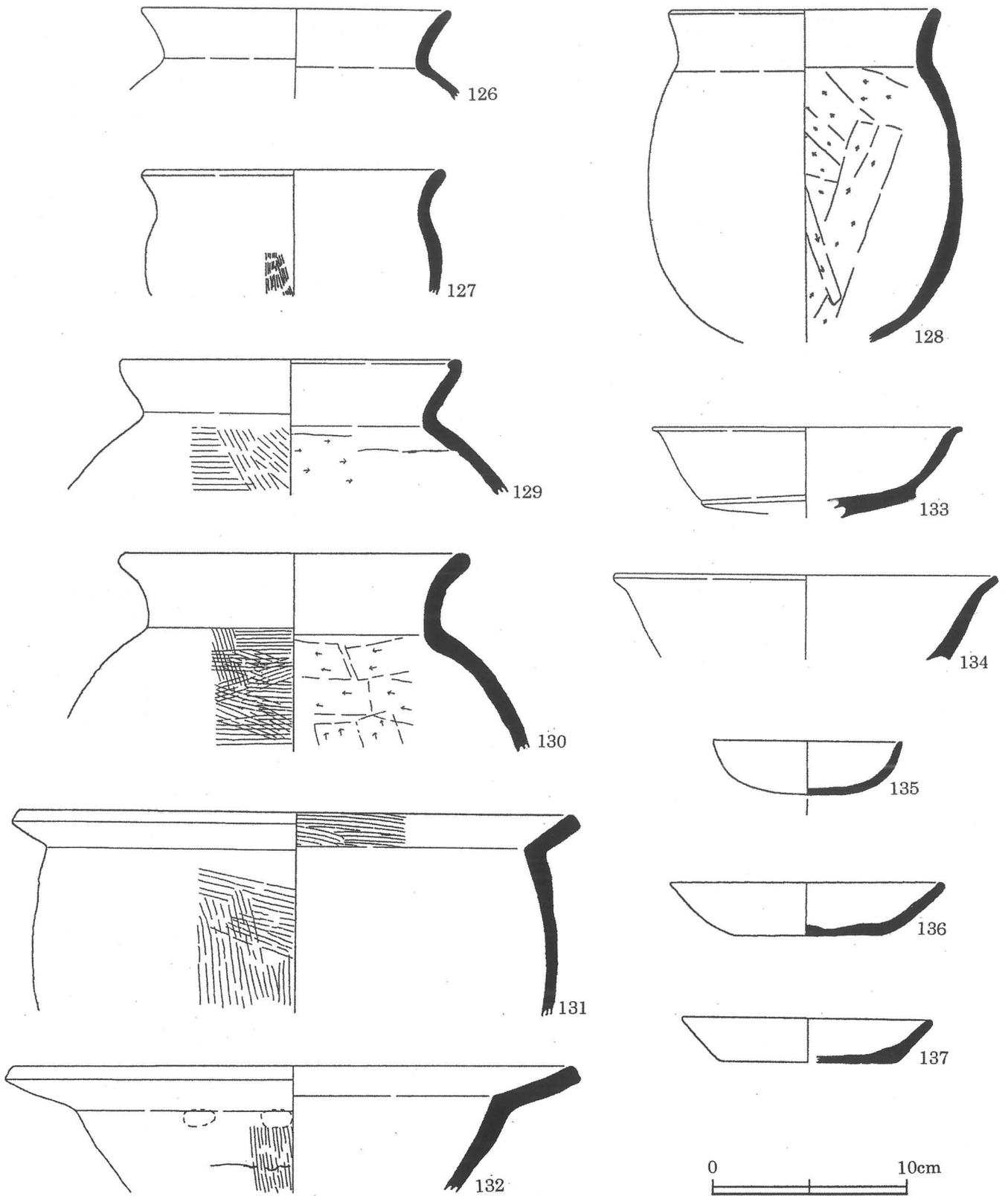


図110 遺構平面図 (2)



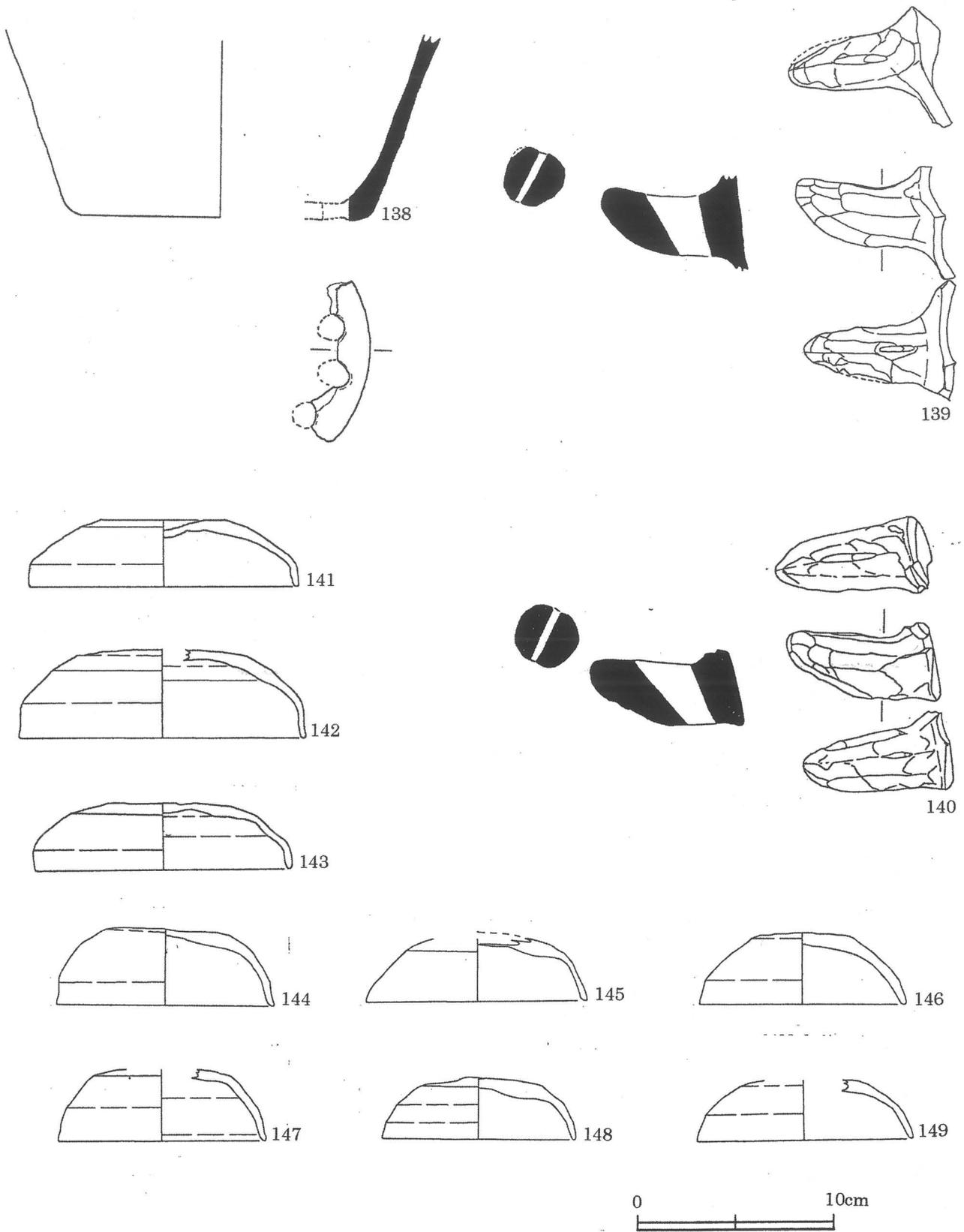
3トレンチ住居址2 (124・125)、3トレンチ遺構面 (123)、5トレンチ縄紋包含層 (115~120)、
 5トレンチ遺構面 (121)、8トレンチ溝1 (82)
 (115~120. 縄紋土器、121・122. 弥生土器、123~125. 土師器)

図111 出土遺物 (1)



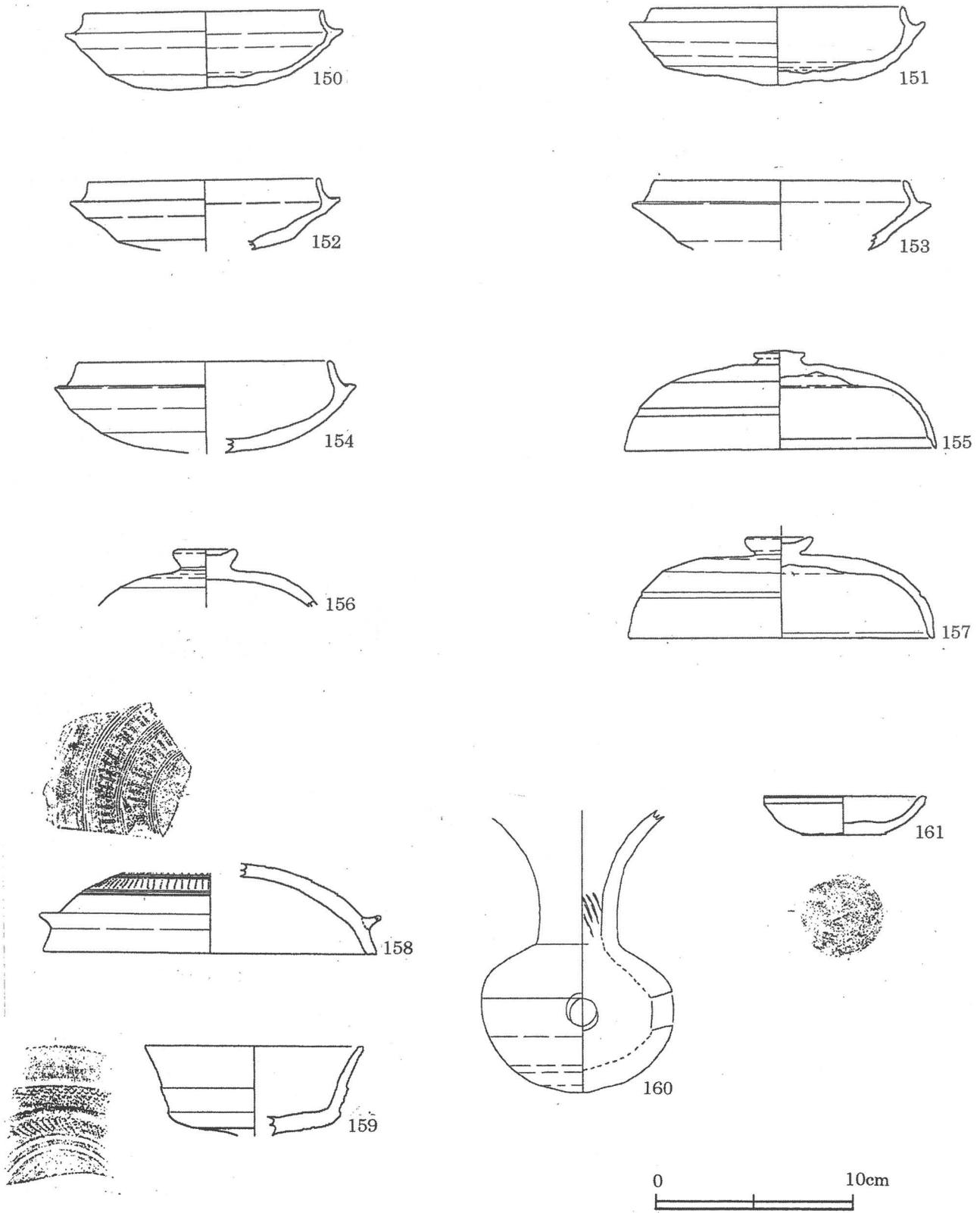
3トレンチ住居址2 (126)、3トレンチ遺構面 (135)、5トレンチ住居址1 (133・134)、
 5トレンチ住居址2 (127・128)、8トレンチ溝1 (129・130)、8トレンチ溝2 (131・132)
 (126~137. 土師器)

図112 出土遺物 (2)



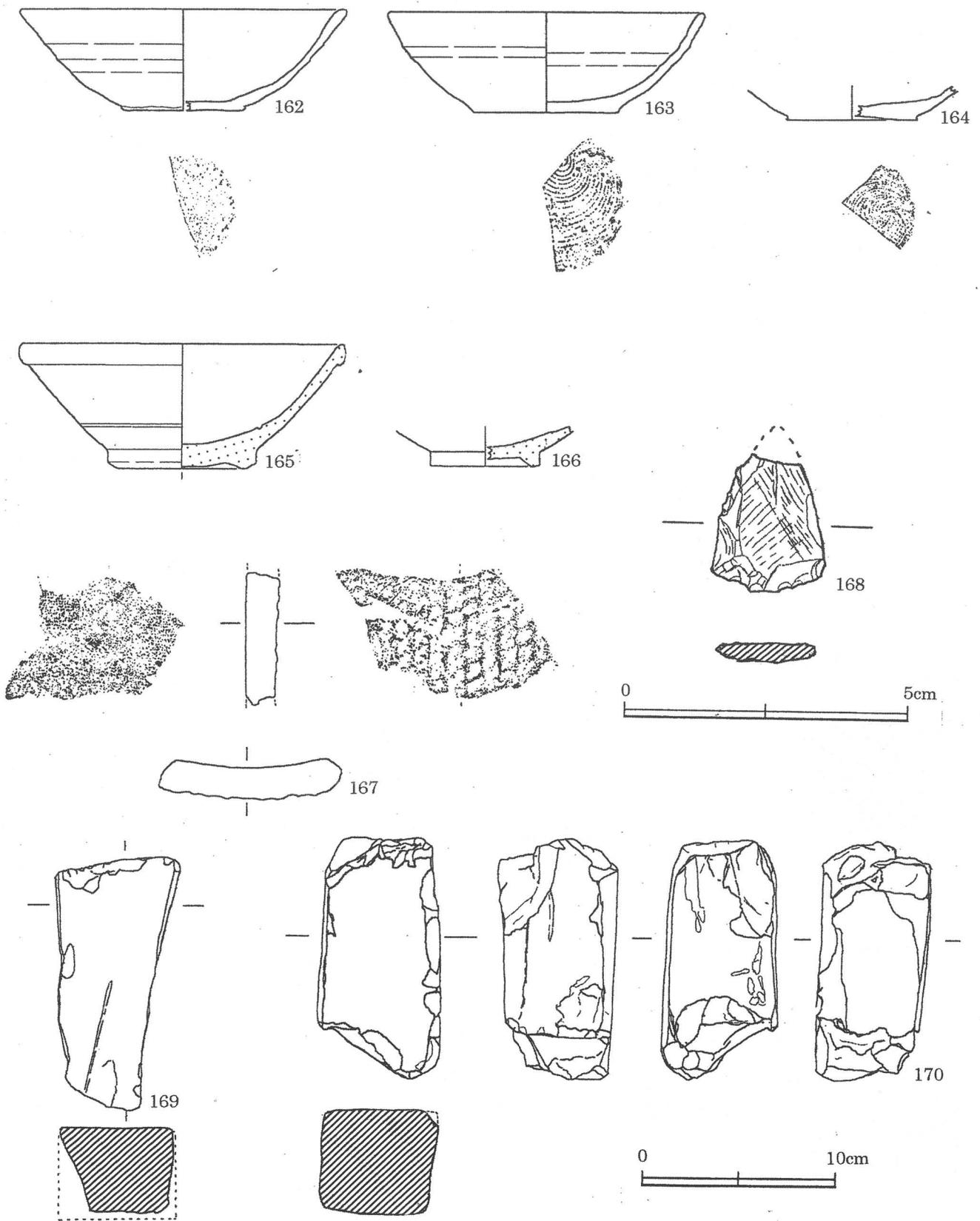
3トレンチ住居址1 (143)、3トレンチ住居址2 (144~149)、3トレンチ遺構面 (141・142)、8トレンチ溝1 (138~140)
 (138~140. 土師器、141~149. 須恵器)

図113 出土遺物 (3)



3トレンチ住居址1 (150・151)、3トレンチ遺構面 (151・155)、5トレンチ住居址2 (152)、7トレンチ灰褐色土 (153)、
 8トレンチ溝1 (157・160)、8トレンチ溝2 (167)、13トレンチ溝 (154)、14トレンチ褐灰色土 (158)
 (150~161. 須恵器)

図114 出土遺物 (4)



3トレンチ住居址1 (168)、8トレンチ溝2 (162~167・169・170)
 (162~164. 須恵器、165・166. 輸入磁器、167. 布目瓦、168. 石鏃、169・170. 砥石)
 図115 出土遺物 (5)



図116 3トレンチ全景 (東より)

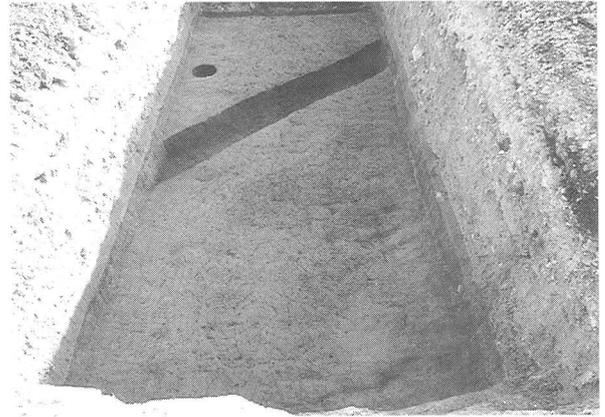


図117 4トレンチ全景 (北より)



図118 5トレンチ全景 (南より)

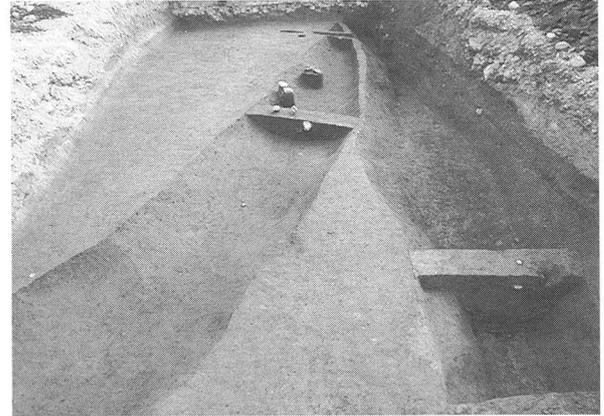


図119 8トレンチ全景 (西より)

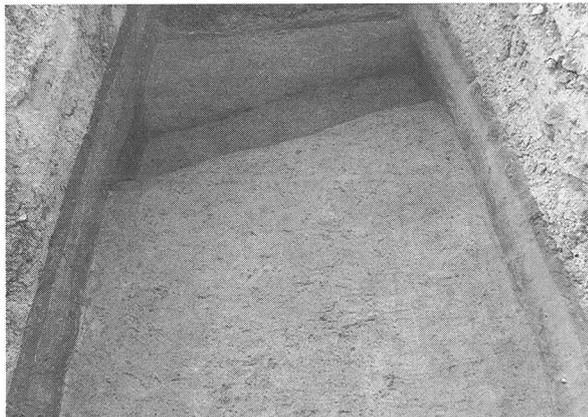


図120 9トレンチ全景 (西より)



図121 13トレンチ全景 (北より)

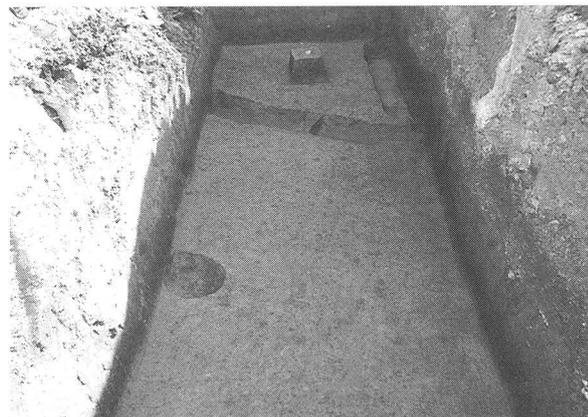


図122 14トレンチ南端 (北から)

城山遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字植竹1025-11

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成17年1月20日

5. 調査面積

8㎡

6. 記録作成

土層実測図 (1/20)、トレンチ配置図 (1/300)、写真記録 (デジタルカメラ撮影)

北緯 (34度50分14秒)、東経 (134度34分56秒)

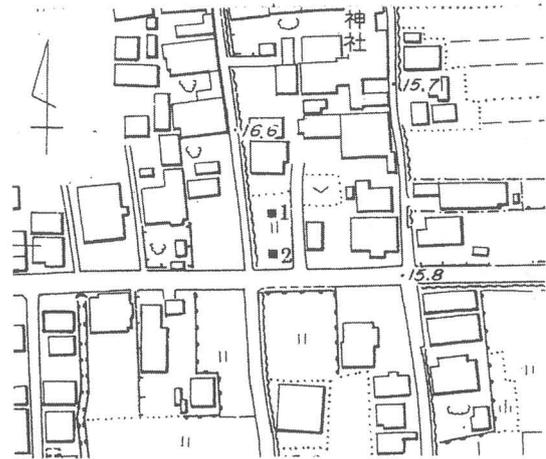


図123 試掘坪配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町鶴字植竹1025-11において個人住宅建築工事が計画され、建築予定地は周知の埋蔵文化財である城山遺跡の包蔵地内に位置し、今回の建設予定地の南東約50mの地点で実施した町道改良工事に伴う確認調査では、縄紋時代後期の遺物・遺構が検出されているため、遺物包含層及び遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は、標高16m前後を測る畑である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内に2×2mの試掘坪を2ヵ所設定して実施した。

調査地の基本土層は、上層から耕土 (約20cm)、明褐色土・床土 (9~12cm) で円礫混じりの黄褐色土・地山となっている。遺物・遺構は検出されなかった。

9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点までは縄紋時代の遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。

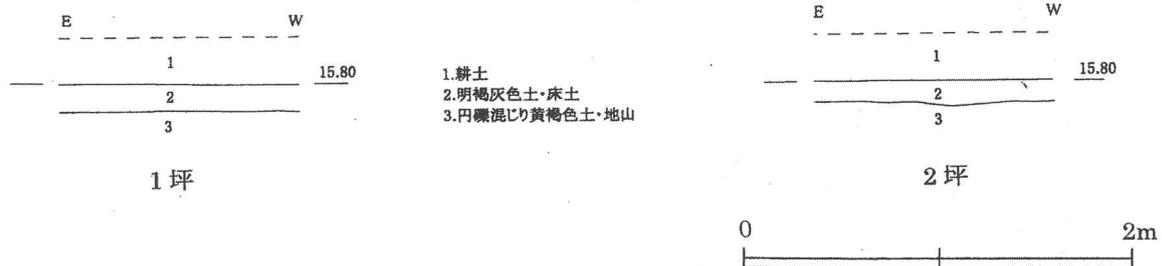


図124 土層断面図

田中遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町太田字五反田666番1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成17年2月4日～7日

5. 調査面積

12㎡

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/250)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯 (34度49分56秒)、東経 (134度36分20秒)



図125 試掘坪配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字五反田666番1において、住宅造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である田中遺跡の包蔵地内であるため、遺物包含層及び遺構有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地は、標高8.5m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内に2×3mの試掘坪を2箇所設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から耕土(約20cm)、灰褐色土あるいは褐色砂混じり灰色土の床土(4～6cm)で、1坪では床土下層で灰色砂質土(12cm)、暗灰色粘質土混じり淡灰色粗砂(5cm)で白黄色粘質土・地山、2坪では床土下層で暗灰色粘質土混じり灰色粗砂(4～14cm)で黄色粘質土・地山となっている。地山面は、南西方向へ緩やかに傾斜している。遺物は、灰色砂質土及び暗灰色粘質土混じり灰色粗砂から土師器・須恵器片が出土したが、遺構は検出されなかった。

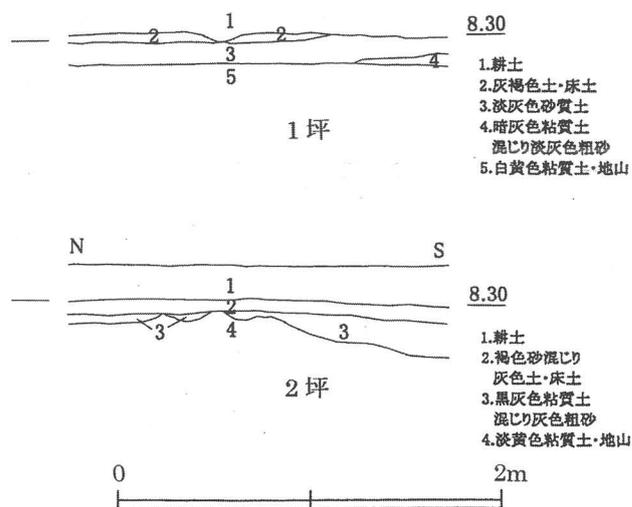


図126 土層断面図

9. まとめ

調査の結果遺構は検出されず、遺物も流れ込みと考えられる土師器・須恵器片が、各試掘坪からポリ袋に半分程度ずつ出土しただけである。確認された土層は、すぐ西側を南流する天津茂川の氾濫等に起因するものと考えられる。

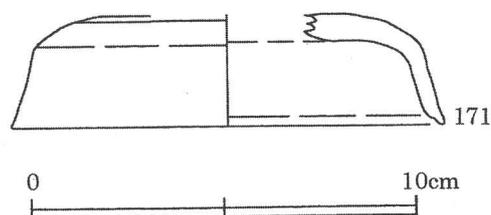


図127 1坪出土遺物

立岡東遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町立岡字小畑134番

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成17年2月14日～18日

5. 調査面積

48㎡

6. 記録作成

トレンチ平面図 (1/20)、土層断面図 (1/20)、遺物実測図 (1/1)、トレンチ配置図 (1/250)
写真記録 (デジタルカメラ撮影)、北緯 (34度49分40秒)、東経 (134度34分48秒)



図128 トレンチ配置図 (1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町立岡字小畑147番地において宅地造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である立岡東遺跡の包蔵地内であり、一帯は平成7年度に実施した土壤汚染改良工事に伴う確認調査において、柱穴・溝等の遺構が耕土直下の地山面で検出されているため、遺構の広がり把握するため確認調査を実施した。調査地は、標高11.00m前後を測る畑である。

8. 調査の概要

調査は、開発予定地内に1.5×4mのトレンチを5カ所設定して実施した。なお、南端に設定した5トレンチでは流路状の土層の堆積が確認されたため、流路の肩部を確認するため、南北に拡張を行った。

調査地の基本土層は、上層から耕土(20cm)、土壤改良土(30cm)、暗褐色土(10～20cm)で淡褐色土・地山となっている。暗褐色土の堆積は1トレンチと3トレンチ以南で確認され、地山面の起伏が認められる。5トレンチでは南東方向の自然流路を検出した。流路は幅8m以上を測り、最深部で70cmを測る。

上層の暗褐色砂層から土師器・須恵器片が出土したが、下層からの遺物の出土はなかった。

遺物は、5トレンチの流路上層遺物以外、他のトレンチからの出土はなかった。



図129 5トレンチ全景 (北より)

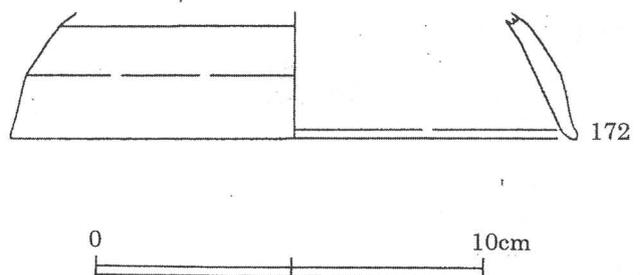


図130 5トレンチ出土遺物

9. まとめ

調査の結果、遺構は検出されなかったが、調査地南側では南東方向に走る自然流路が検出された。また、地山面は、比較的起伏に富んでいることが確認された。今回の調査地点は、立岡東遺跡の縁辺部に位置すると考えられる。

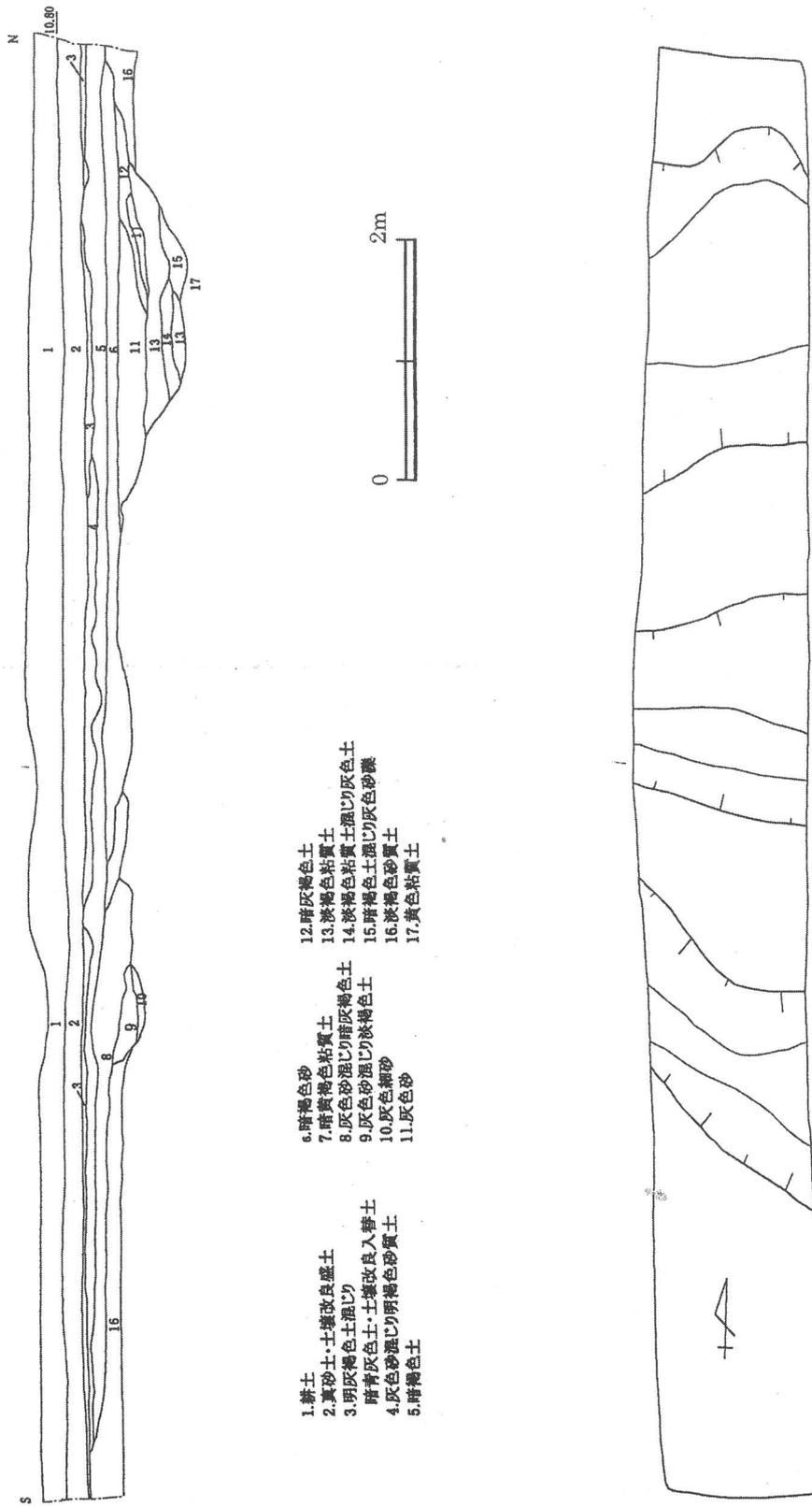


図131 5トレンチ平面図・土層断面図

表4 遺物観察表

番号	遺跡名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 量(cm)			焼 成	色 調	胎 土	調 整	
					口 径	器 高	底 径					
1	東南遺跡 (第15次調査)	暗褐色粘質土	縄紋 鉢口縁	0201-1-1				良好	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR7/2 鈍い黄橙	細砂粒多く含む	外 縄紋 内 磨耗のため不明	
2	"	"	縄紋 鉢口縁	0201-1-2				良好	外 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白	砂粒多く含む	外 縄紋、凸帯爪形文施行 内 磨耗のため不明	
3	"	淡褐色土	縄紋 鉢口縁	0201-1-3				良好	外 7.5YR5/3 鈍い褐 / 10YR4/1 褐灰 内 10YR4/1 褐灰	砂粒多く含む	外 縄紋、沈線文 内 磨耗のため不明	
4	"	"	縄紋 鉢口縁	0201-1-5				良好	外 10YR8/3 浅黄橙 内 7.5YR8/3 浅黄橙	細砂粒含む	外内 磨耗のため不明	
5	"	"	縄紋 鉢口縁	0201-1-6				良好	外 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白	細砂粒多く含む	外 沈線文 内 磨耗のため不明	
6	"	"	縄紋 鉢口縁	0201-1-7				良好	外 7.5YR4/1 褐灰 内 10YR7/2 鈍い黄橙	細砂粒多く含む	外内 磨耗のため不明	
7	"	"	縄紋 鉢口縁	0201-1-9				良好	外 10YR7/2 鈍い黄橙 / 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR7/2 鈍い黄橙	細砂粒多く含む	外 縄紋、沈線文 内 磨耗のため不明	
8	"	"	縄紋 鉢体部	0201-1-4				良好	外 7.5YR5/3 鈍い褐 内 7.5YR2/2 黒褐	砂粒少量含む	外 縄紋 内 ナデ	
9	"	"	縄紋 鉢体部	0201-1-8				良好	外 5YR4/2 鈍い赤褐 内 5YR4/2 灰褐	砂粒含む	外 縄紋、沈線文 内 ナデ	
10	鶴遺跡 (第18次調査)	1 トレンチ 灰黄色粘質土	石鏃	0202-1-1	長さ 2.9	幅 1.6	厚さ 0.4					サヌカイト
11	"	2 トレンチ 遺構面	弥生 甕口縁	0202-2-1	12.2			良好	外 5YR6/6 橙 内 5YR5/3 鈍い赤褐 / 5YR7/4 鈍い橙	細砂粒を含む	外 刷毛目、横ナデ 内 横ナデ、ナデ	
12	"	2 トレンチ P1	弥生 壺口縁	0202-2-3-1	20.0			良好	外 5YR4/3 鈍い赤褐 内 5YR4/3 鈍い赤褐	微砂粒含む	外 口縁端部、櫛描列点文後円形 浮文 内 横ナデ	
13	"	"	弥生 胴部	0202-2-3-2				良好	外 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白	微砂粒含む	外 上方刷毛目後櫛描波状文と直線 文、下方横方向磨き 内 刷毛目	
14	"	"	弥生 胴部	0202-2-3-2			9.0	良好	外 5YR6/8 橙 / 5YR5/2 灰褐 内 7.5YR8/2 灰白	微砂粒含む	外 上方立方向の磨き、下方削り 後横方向の磨き 内 磨耗のため不明	
15	"	2 トレンチ P7	弥生 台付鉢	0202-2-2	20.0	10.4	9.4	良好	外 10YR8/4 淡黄橙 / 10YR7/2 鈍い黄橙 内 10YR7/2 鈍い黄橙	1~2mm大の小石、 細砂粒を含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明	
16	鶴遺跡 (第19次調査)	1 トレンチ	砥石	0203-1-1								
17	鶴遺跡 (第20次調査)	溝	弥生 底部	0105-1-1			6.0	良好	外 7.5YR7/6 橙 内 7.5YR8/4 浅黄橙	1~2mmの小石・石 英粒、細砂粒を含 む	外 ナデ 内 ナデ	
18	"	"	弥生 底部	0105-1-2			3.8	良好	外 5YR7/4 鈍い橙 内 5YR6/6 橙 / 7.5YR4/2 灰褐	細砂粒を含む	外 刷毛目 内 ナデ	
19	蓮常寺東遺跡	4 坪	土師器 坏	0204-1-1	14.0	1.8	12.6	良好	外 7.5YR8/3 浅黄橙 内 5YR7/6 橙 / 7.5YR8/3 浅黄橙	精良	外 ナデ 内 横ナデ	
20	"	"	須恵器 坏身	0204-1-2				良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	密	外 回転ナデ 内 回転ナデ	
21	南柳遺跡 (第8次調査)	2 トレンチ	弥生 底部	0206-1-1			6.2	良好	外 7.5YR7/2 明褐灰 内 10YR8/2 灰白	微砂粒含む	外 磨耗著しいが縄紋、刺突文 内 磨耗のため不明	
22	"	7 トレンチ	須恵器 坏身	0206-3-1	13.7			良好	外 N8 灰白 内 5B7/1 明青灰	白色微砂粒含む	外内 磨耗のため不明	
23	"	9 トレンチ	須恵器 坏蓋	0206-4-1	8.0			良好	外 N4 灰 内 N4 灰	密	外内 磨耗のため不明	
24	"	10 トレンチ	土師器 脚	0206-5-1				良好	外 10YR7/3 鈍い黄褐 / 10YR3/1 黒褐	細砂粒含む	外内 磨耗のため不明	

番号	遺 跡 名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 量(cm)			焼 成	色 調	胎 土	調 整
					口 径	器 高	底 径				
25	蓮常寺北遺跡 (第4次調査)	4トレンチ	弥生 底部	0207-1-1			4.2	良好	外 7.5YR6/3 鈍い褐 内 10YR7/2 鈍い黄褐	細砂粒含む	外 叩き、底面葉脈痕 内 ナデ
26	"	"	須恵器 面子	0207-1-2	短径 2.7	長径 3.0	厚さ 0.4	良好	外 N6 灰 内 N6 灰	細砂粒、微砂粒 含む	
27	"	5トレンチ	弥生 甕口縁	0207-2-4	14.0			良好	外 10YR7/2 鈍い黄橙 内 10YR8/2 灰白	砂粒含む	外 横ナデ 内 指頭玉痕
28	"	"	弥生 甕口縁	0207-2-1	16.4			良好	外 5YR6/4 鈍い橙 内 7.5Y7/4 鈍い橙	細砂粒多く含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明、粘土継痕
29	"	"	弥生 脚柱部	0207-2-5				良好	外 2.5YR6/6 橙 / 5YR8/2 灰白 内 5YR8/2 灰白	細砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
30	"	"	弥生 底部	0207-2-3			4.3	良好	外 7.5YR8/2 灰白 内 7.5YR8/1 灰白	細砂粒含む	外 叩き、底面ナデ、初痕跡 内 ナデ
31	"	"	弥生 底部	0207-2-2				良好	外 10YR3/1 黒褐 / 10YR8/2 灰白 内 2.5YR4/1 黄灰	砂粒多く含む 石英粒含む	外 叩き 内 磨耗のため不明
32	"	8トレンチ	弥生 壺口縁	0207-3-2	12.4			良好	外 5YR7/4 鈍い橙 内 5YR7/4 鈍い橙	細砂粒含む	外 端部叩き後ナデ、頭部刷毛目後縦方向 磨き 内 端部横方向磨き、頭部縦方向磨き
33	"	"	弥生 高坏	0207-3-1	15.0			良好	外 7.5YR8/3 浅黄橙 内 10YR8/2 灰白	2~3 mmの小石、 細砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
34	"	"	弥生 脚柱部	0207-3-3				良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 内 5YR7/6 橙	砂粒含む	外 ナデ、縦方向の刷毛目 内 ナデ
35	"	"	弥生 底部	0207-3-4			3.1	やや甘い	外 10YR6/4 鈍い赤橙 / 5YR7/4 鈍い橙 内 5YR7/3 鈍い橙 / 5YR8/2 灰白	2~3 mmの小石、 砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
36	"	"	弥生 底部	0207-4-1			2.2	良好	外 7.5YR4/1 褐灰 内 7.5YR7/3 鈍い橙	白色砂粒、雲母 含む	外 磨き 内 ナデ
37	"	"	弥生 底部	0207-3-5			4.6	良好	外 5YR7/2 明褐灰 内 5YR6/2 灰褐	白色微砂粒含む	外 ナデ、端部指による摘み出し 内 磨削り
38	"	"	弥生 底部	0207-3-6			4.0	良好	外 7.5YR8/3 浅黄橙 内 N3 暗灰	細砂粒含む	外 ナデ、刷毛目 内 磨耗のため不明
39	"	9トレンチ	弥生 脚柱部	0207-5-1				良好	外 2.5YR6/6 橙 内 2.5YR6/6 橙	白色砂粒含む	外 ナデ、縦方向磨き 内 ナデ
40	"	12トレンチ	弥生 底部	0207-6-1			4.2	良好	外 10YR8/3 浅黄橙 / 2.5YR7/4 鈍い橙 内 2.5YR7/4 浅赤橙 / 5YR7/3 鈍い橙	細砂粒多く含む	外 叩き後ナデ 内 ナデ
41	蓮常寺北遺跡 (第5次調査)	1トレンチ 土坑2	弥生 底部	0301-1-1			6.0	良好	外 2.5YR7/6 橙 内 2.5YR7/6 橙	細砂粒含む	外 叩き後ナデ 内 磨耗のため不明
42	"	1トレンチ 土坑4	弥生 底部	0301-1-2			4.2	良好	外 2.5YR7/4 淡赤橙 / 7.5YR8/3 浅黄橙 内 10YR8/2 灰白	細砂粒多く含む	外 沈線文 内 磨耗のため不明
43	"	1トレンチ 遺構面	弥生 蓋	0301-1-3			4.5	良好	外 2.5YR7/4 淡赤橙 内 5YR8/1 灰白	砂粒含む	外 縦紋、沈線文 内 ナデ
44	"	1トレンチ 暗褐色土	弥生 甕口縁	03011-4	16.0			良好	外 2.5YR7/4 淡赤橙 内 2.5YR7/4 淡赤橙 / 5YR8/1 灰白	細砂粒多く含む	外内 磨耗のため不明
45	"	"	弥生 甕口縁	0301-1-10	10.6			良好	外 10YR6/4 鈍い赤橙 内 10R6/1 赤灰	2 mmの小石粒、 砂粒含む	外内 ナデ
46	"	"	弥生 甕口縁	0301-1-11	16.0			良好	外 5YR7/4 鈍い橙 内 7.5YR8/1 灰白	2 mm大の小石粒 多く含む	外 2条の沈線 内 磨耗のため不明
47	"	"	弥生 甕口縁	0301-1-12	15.4			良好	外 5YR7/4 鈍い橙 / 5YR4/1 褐灰 内 5YR7/4 鈍い橙	白色微砂粒含む	外 沈線文 内 ナデ
48	"	"	弥生 甕口縁	0301-1-15	16.4			良好	外 7.5YR8/4 浅黄橙 内 10YR8/2 灰白	細砂粒少量含む	外 磨耗のため不明、沈線 内 条痕
49	"	"	弥生 甕口縁	0301-1-16	12.8			良好	外 7.5YR6/3 鈍い褐 内 7.5YR6/3 鈍い褐	微砂粒多く含む	外 磨耗のため不明、刻み目 内 磨耗のため不明

番号	遺 跡 名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 量(cm)			焼 成	色 調	胎 土	調 整
					口 径	器 高	底 径				
50	蓮常北遺跡 (第5次調査)	1 トレンチ 暗褐色土	弥生 甕口縁	0301-1-24	15.6			良好	外 7.5YR8/4 浅黄橙 / 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙 / 7.5YR4/1 褐灰	細砂粒少量含む	外 叩き、口縁端部ナデ 内 ナデ、粘土継ぎ目
51	"	"	弥生 甕口縁	0301-1-23	13.0			良好	外 10R6/6 赤橙 / 7.5YR8/2 灰白 内 7.5YR7/4 鈍い橙	細砂粒含む	外 叩き後刷毛目とナデ、口縁部 横ナデ 内 横方向刷毛目、横ナデ
52	"	"	弥生 鉢口縁	0301-1-25	16.2			良好	外 7.5YR6/6 橙 / 5YR6/3 鈍い橙 内 5YR8/2 灰白	砂粒含む	外 叩き、ナデ 内 刷毛目
53	"	"	弥生 壺頸部	0301-1-8				良好	外 5Y5/3 鈍い赤褐 内 5Y5/3 鈍い赤褐	砂粒含む	外 ナデ、貼付凸帯に刺突文 内 削り後ナデ
54	"	"	弥生 鉢	0301-1-30	16.6	7.2		良好	外 7.5YR7/6 橙 / 10YR7/1 灰白 内 7.5YR7/6 橙	砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 ナデ
55	"	"	弥生 鉢口縁	0301-1-5	19.6			良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙	砂粒多く含む	外 叩き、ナデ 内 ナデ
56	"	"	弥生 鉢	0301-1-6	23.8			良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙	細砂粒含む	外 刷毛目 内 刷毛目
57	"	"	弥生 脚柱部	0301-1-17				良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 内 7.5YR7/4 鈍い橙	細砂粒含む	外 磨き 内 削り後ナデ
58	"	"	弥生 脚柱部	0301-1-18				良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 / 7.5YR8/2 灰白 内 5YR7/4 鈍い橙	細砂粒少量含む	外 磨き 内 絞り
59	"	"	弥生 甌	0301-1-7			3.5	良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 内 10YR6/2 灰黄褐	細砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 刷毛目
60	"	"	弥生 甌	0301-1-14			1.6	良好	外 7.5YR8/3 浅黄橙 内 10YR6/1 褐灰 / N4 灰	白色砂粒含む	外 叩き 内 ナデ
61	"	"	弥生 底部	0301-1-19			4.4	良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙	細砂粒含む	外 ナデ、底面葉形痕 内 工具痕
62	"	"	弥生 底部	0301-1-20			5.7	良好	外 10YR8/2 灰白 内 2.5YR7/2 灰黄	2~3mm の小 石、細砂粒含む	外 叩き、底面葉形痕 内 磨耗のため不明
63	"	"	弥生 底部	0301-1-31			3.6	良好	外 7.5YR6/3 鈍い褐 内 5YR7/4 鈍い橙	砂粒少量含む	外 ナデ 内 工具痕
64	"	"	弥生 底部	0301-1-13			3.3	良好	外 7.5YR3/1 黒褐 内 7.5YR4/1 褐灰	砂粒少量含む	外 磨耗のため不明 内 ナデ
65	"	"	弥生 底部	0301-1-32			5.0	良好	外 5YR7/4 鈍い橙 内 5YR7/6 橙	微砂粒少量含む	外 ナデ、磨き 内 ナデ
66	"	"	弥生 底部	0301-1-22			丸底	良好	外 10R6/3 鈍い赤橙 / 10R4/1 暗赤灰 内 7.5YR8/3 浅黄橙 / 7.5YR6/2 灰褐	細砂粒多く含む	外 刷毛目 内 削り後ナデ
67	"	"	弥生 底部	0301-1-21			2.2	良好	外 7.5YR7/2 明褐灰 内 10YR6/1 褐灰	細砂粒含む	外 叩き 内 ナデ
68	"	"	弥生 底部	0301-1-9			丸底	良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙 / 10YR8/2 灰白	砂粒わずかに含 む	外 ナデ 内 ナデ
69	"	2 トレンチ 住居址	弥生 ミニチュ ア土器	0301-2-2	4.4	3.7	3.0	良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 10YR3/1 黒褐	細砂粒含む	外 ナデ 内 ナデ
70	"	"	弥生 底部	0301-2-1			2.3	良好	外 5YR7/4 鈍い橙 内 5YR6/2 灰褐	砂粒含む	外 磨き 内 削り後ナデ
71	"	3 トレンチ 住居址	須恵器 坏身	0301-3-2	12.5	4.2		良好	外 N7 灰白 内 10Y7/1 灰白	細砂粒含む	外 回転ナデ、底部回転削り 内 ナデ
72	"	"	須恵器 坏身	0301-3-1	13.5	3.6		良好	外 10YR7/2 鈍い橙 内 10YR7/2 鈍い黄橙	微砂粒少量含む	外 回転ナデ、底部回転削り 内 ナデ
73	"	"	土師器 甕	0301-3-3	20.8			良好	外 2.5YR6/4 鈍い橙 / 7.5YR8/3 浅黄橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙	細砂粒多く含む	外 刷毛目、横ナデ 内 磨削り、刷毛目
74	"	3 トレンチ 土坑 1	弥生 甕	0301-2-1	13.6			良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 内 7.5YR5/2 灰褐	微砂粒少量、雲 母少量含む	外 ナデ 内 磨耗のため不明
75	"	3 トレンチ 土坑 2	弥生 高坏	0301-3-8			14.4	良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 内 5YR7/4 鈍い橙	細砂粒少量と微 砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨削り後ナデ

番号	遺跡名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 量(cm)			焼 成	色 調	胎 土	調 整
					口 径	器 高	底 径				
76	蓮常北遺跡 (第5次調査)	3トレンチ 土坑2	弥生 壺口縁	0301-3-9	8.6			良好	外 10YR8/3 灰白 内 10YR8/3 灰白	砂粒含む	外 ナデ 内 ナデ、粘土継目痕
77	"	3トレンチ 溝4	弥生 甕	0301-3-5	19.0			良好	外 5YR7/6 橙 内 7.5YR4/1 褐灰	細砂粒含む	外 叩き 内 ナデ
78	"	"	弥生 高坏	0301-3-4			15.8	良好	外 7.5YR8/2 灰白 / 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR4/1 褐灰 / 7.5YR7/3 鈍い橙	砂粒少量含む	外 工具ナデ 内 刷毛目、多方向の工具ナデ
79	"	3トレンチ 遺構面	弥生 鉢	0301-3-6	21.4			良好	外 10Y8/1 灰白 内 7.5Y7/3 鈍い橙	細砂粒多く含む	外 叩き、ナデ 内 刷毛目
80	"	4トレンチ 住居址	弥生 脚柱部	0301-4-1				良好	外 10YR7/3 鈍い黄橙 / 10YR6/2 灰黄褐 内 10YR7/3 鈍い橙 / 10YR6/2 灰黄褐	微砂粒わずかと 雲母含む	外 篋磨き 内 ナデ
81	"	"	弥生 ミニチュ ア土器	0301-4-2			3.4	良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 / 5YR8/4 浅橙 内 5YR7/6 橙	細砂粒含む	外 ナデ 内 ナデ
82	"	4トレンチ 淡褐色砂質土	弥生 底部	0301-4-3			3.4	良好	外 10YR6/8 褐灰 内 5YR5/2 灰褐	砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
83	"	"	弥生 底部	0301-4-4			2.8	良好	外 2.5YR6/8 橙 内 2.5YR6/8 橙	白色砂粒含む	外 叩き 内 工具痕
84	"	"	弥生 底部	0301-4-5			6.7	良好	外 10YR7/2 鈍い黄橙 内 10YR7/2 鈍い黄橙	砂粒含む	外 叩き 内 工具痕
85	"	5トレンチ 土坑2	弥生 底部	0301-5-1			8.4	良好	外 2.5YR7/4 淡黄橙 内 2.5YR7/4 淡黄橙	細砂粒含む	外 ナデ 内 ナデ
86	"	5トレンチ 土坑4	弥生 壺口縁	0301-5-2	18.4			良好	外 2.5YR7/6 橙 / 2.5YR4/1 赤灰 内 10YR8/1 灰白 / N5 灰	白色微砂粒少量 含む	外 篋磨き、刷毛目 内 篋磨き、ナデ
87	"	5トレンチ 土坑5	弥生 甕	0301-5-3	13.6			良好	外 5YR7/4 鈍い橙 内 5YR7/4 鈍い橙	細砂粒含む	外 叩き、ナデ 内 ナデ
88	"	5トレンチ 大溝	弥生 甕口縁	0301-5-5	16.2			良好	外 10YR 灰白 内 10YR 灰白	砂粒多く含む	外 ナデ 内 ナデ
89	"	"	弥生 壺口縁	0301-5-4	16.9			やや甘い	外 10YR8/2 灰白 / 10YR7/1 灰白 内 10YR7/4 鈍い橙	砂粒多く含む	外 ナデ 内 篋削り
90	"	"	弥生 壺口縁	0301-5-6	16.6			良好	外 5YR7/4 鈍い橙 / 7.5YR7/2 明褐灰 内 5YR7/4 鈍い橙 / 7.5YR7/2 明褐灰	砂粒少量含む	外 刷毛目、横ナデ 内 ナデ
91	"	"	弥生 底部	0301-5-7			3.7	良好	外 5YR5/3 鈍い赤褐 内 7.5YR6/3 鈍い褐	細砂粒少量含む	外 ナデ、篋磨き 内 刷毛目、篋磨き
92	"	7トレンチ 土坑	土師器 甕口縁	0301-6-2	17.6			良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/2 明褐灰	細砂粒含む	外 叩き、横ナデ 内 ナデ
93	"	"	土師器 高坏	0301-6-1	20.8			良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/4 鈍い橙	細砂粒含む	外 篋磨き後ナデ 内 篋磨き後ナデ
94	"	8トレンチ 暗褐色土	弥生 甕口縁	0301-7-7	15.6			やや甘い	外 10YR8/4 浅黄橙 / 10YR3/1 黒褐 内 10YR8/4 浅黄橙 / 10YR3/1 黒褐	微砂粒多く含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
95	"	"	弥生 甕口縁	0301-7-2	17.4			良好	外 2.5YR6/6 橙 / 7.5YR8/1 灰白 内 7.5YR8/1 灰白	砂粒含む	外 刷毛目、ナデ 内 篋削り後ナデ
96	"	"	弥生 壺口縁	0301-7-1	16.8			良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙 / 7.5YR4/1 褐灰	細砂粒含む	外 刷毛目、横ナデ 内 篋削り後ナデ、指頭玉痕
97	"	"	弥生 高坏	0301-7-3	17.0			良好	外 10R6/6 赤橙 内 10R6/6 赤橙	細砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
98	"	"	弥生 甕	0301-7-4			5.5	良好	外 10YR8/1 灰白 内 7.5YR7/2 明褐灰	砂粒少量と雲母 含む	外 叩き、刷毛目 内 刷毛目、ナデ
99	"	"	弥生 底部	0301-7-5			4.3	良好	外 7.5YR7/3 鈍い橙 内 7.5YR7/4 鈍い橙	砂粒少量と白色 微砂粒含む	外 ナデ 内 工具痕
100	"	8トレンチ 灰褐色砂質土	土師器 甕	0301-7-8	14.0			良好	外 5YR6/6 橙 内 5YR6/1 褐灰	白色砂粒含む	外 刷毛目、横ナデ 内 篋削り、横ナデ

番号	遺跡名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整
					口径	器高	底径				
101	蓮常北遺跡 (第5次調査)	8トレンチ 灰褐色砂質土	土師器 甕	0301-7-9	13.8			やや甘い	外 5YR7/6 橙 / 7.5YR8/3 浅黄橙 内 10YR6/1 褐灰 / 7.5YR8/3 浅黄橙	細砂粒多く含む	外 磨耗のため不明 内 横方向の筥削り
102	立岡笹山遺跡	1坪	須恵器 坏蓋	0302-1-1	18.8			良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	密	外 回転ナデ 内 回転ナデ
103	東保遺跡	1坪	須恵器 碗	0303-3-1				良好	外 N6 灰 内 N7 灰白	微砂粒少量含む	外 糸切底 内 ナデ
104	"	10坪	青磁 碗	0303-1-1				良好	外 5BG6/1 青灰 内 5BG6/1 青灰	密	外 施釉、蓮弁文 内 施釉
105	"	11坪	須恵器 坏身	0303-2-1	12.8			良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	微砂粒多く含む	外 回転ナデ 内 回転ナデ
106	楯岩城跡		土師器 皿	0304-1-1	7.4	1.7	2.8	良好	外 10YR7/2 鈍い黄橙 内 10YR7/2 鈍い黄橙	微砂粒少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
107	川島遺跡 (第14次調査)	1坪	白磁 碗	0305-1-1	15.2			良好	外 7.5GY8/1 明緑灰 内 7.5GY8/1 明緑灰	密	外 施釉、口縁端部露胎 内 施釉、口縁端部露胎
108	筑紫大道跡	3坪	弥生 高坏	0306-1-1			13.2	良好	外 10R6/6 赤橙 内 10R6/6 赤橙	砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
109	東保高田遺跡	調査区1 溝	須恵器 坏身	0401-2-1	12.4			良好	外 N6 灰 内 N6 灰	密	外 回転ナデ、底部回転削り 内 回転ナデ
110	"	"	須恵器 甌	0401-2-2			10.6	良好	外 5Y5/1 灰白 内 5Y5/1 灰白	密	外 叩き、ナデ 内 ナデ
111	"	"	土師器 把手	0401-2-3				良好	外 2.5YR7/4 淡赤橙 / 7.5YR8/3 浅黄橙	微砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
112	"	"	土師器 把手	0401-2-4				良好	外 10YR8/1 灰白	精良	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
113	"	調査区1 表採	磁器 面子	0401-1-1	短径 2.5	長径 2.8	厚さ 0.5	良好	外 N8 灰白 内 N8 灰白	密	外 施釉、染付け 内 施釉
114	"	"	磁器 面子	0401-1-2	短径 2.8	長径 3.0	厚さ 0.7	良好	外 10Y7/1 灰白 内 10Y7/1 灰白	密	外 施釉 内 施釉
115	斑鳩寺南遺跡	5トレンチ 縄紋包含層	縄紋 深鉢	0406-2-6	37.6			良好	外 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白	砂粒多く含む	外 条痕、貼付凸帯に刻み目文 内 ナデ
116	"	"	縄紋 鉢口縁	0406-2-7				良好	外 N3 暗灰 内 N3 暗灰	細砂粒少量と 微砂粒含む	外 沈線文、貼付凸帯に刻み目文 内 ナデ
117	"	"	縄紋 鉢口縁	0406-2-9				良好	外 10YR3 黒褐 / 7.5YR4/3 褐 内 10YR3 黒褐	砂粒含む	外 条痕、貼付凸帯に刻み目文 内 ナデ
118	"	"	縄紋 鉢口縁	0406-2-11				良好	外 5YR4/4 鈍い赤褐 内 5YR4/4 鈍い赤褐 / 5YR4/3 鈍い赤褐	微砂粒少量含む	外 磨き 内 磨き
119	"	"	縄紋 鉢体部	0406-2-8				良好	外 7.5YR6/3 鈍い褐 内 10YR6/1 褐灰	微砂粒と砂粒含 む	外 横方向条痕、縄紋 内 ナデ
120	"	"	縄紋 鉢体部	0406-2-10				良好	外 7.5YR8/4 浅黄橙 内 10YR8/2 灰白	細砂粒多く含む	外 条痕 内 磨耗のため不明
121	"	5トレンチ 遺構面	弥生 底部	0406-2-12			2.4	良好	外 7.5YR6/3 鈍い褐 / 7.5YR7/4 鈍い橙 内 7.5YR5/2 灰褐	細砂粒含む	外 筥削り 内 筥削り後ナデ
122	"	8トレンチ 溝1	弥生 甌	0406-4-8			4.4	良好	外 10YR7/2 鈍い黄橙 内 10YR8/1 灰白	細砂粒含む	外 叩き 内 磨耗のため不明
123	"	3トレンチ 遺構面	土師器 甕	0406-1-5	16.8			良好	外 7.5YR6/6 橙 内 10YR7/2 鈍い黄橙	微砂粒と雲母多 く含む	外 横ナデ 内 磨耗のため不明
124	"	3トレンチ 住居址2	土師器 甕	0406-1-11	14.2			良好	外 2.5YR7/2 橙 内 7.5YR7/2 明褐灰	微砂粒含む	外 刷毛目 内 横方向の刷毛目、ナデ
125	"	"	土師器 甕	0406-1-13	14.7	14.0	丸底	やや甘い	外 10YR8/2 灰白 内 10YR8/3 浅黄橙	微砂粒少量と砂 粒含む	外 横ナデ 内 筥削り
126	"	3トレンチ 住居址2	土師器 甕口縁	0406-1-19	16.6			良好	外 5YR8/3 淡橙 / 7.5YR8/1 灰白 内 7.5YR8/1 灰白	砂粒多く含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明

番号	遺跡名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 量(cm)			焼 成	色 調	胎 土	調 整
					口 径	器 高	底 径				
127	斑鳩寺南遺跡	5トレンチ 住居址2	土師器 甕	0406-2-3	6.5			やや甘い	外 7.5YR6/4 鈍い橙 内 7.5YR5/3 鈍い橙	細砂粒少量と、 微砂粒含む	外 刷毛目 内 磨耗のため不明
128	"	"	土師器 甕	0406-2-4	13.4			良好	外 2.5YR6/6 橙 / 5YR4/3 鈍い赤褐 内 5YR5/2 灰褐 / 2.5YR6/6 橙	2mm大の小石、細 砂粒、微砂粒含む	外 ナデ 内 筥削り
129	"	8トレンチ 溝1	土師器 甕	0406-4-6	17.2			良好	外 7.5YR8/3 浅黄橙 内 7.5YR3 浅黄橙	2mm大の小石、 砂粒多く含む	外 刷毛目、横ナデ 内 筥削り、横ナデ
130	"	"	土師器 甕	0406-4-3	17.2			良好	外 7.5YR7/4 鈍い橙 / 7.5YR5/2 灰褐 内 7.5YR7/2 明褐灰	微砂粒含む	外 刷毛目、横ナデ 内 筥削り、横ナデ
131	"	8トレンチ 溝2	土師器 甕	0406-4-22	32.6			良好	外 7.5YR6/6 橙 内 7.5YR7/3 鈍い橙	微砂粒含む	外 刷毛目、ナデ 内 横方向刷毛目、ナデ
132	"	"	土師器 鉢	0404-4-11	28.4			良好	外 5YR8/2 灰白 / 5YR5/2 灰褐 内 5YR7/6 橙 / 5YR4/2 灰褐	細砂粒含む	外 刷毛目、ナデ 内 ナデ
133	"	5トレンチ 住居址1	土師器 高坏	0406-2-1	16.0			良好	外 5YR8/4 淡橙 内 5YR8/4 淡橙	砂粒少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
134	"	"	土師器 高坏	0406-2-2	19.6			良好	外 5YR7/4 鈍い橙 内 5YR7/4 鈍い橙	砂粒含む	外 横ナデ 内 横ナデ
135	"	3トレンチ 遺構面	土師器 坏	0406-1-2	9.6	2.3	3.6	良好	外 5YR6/6 橙 内 5YR6/6 橙	密	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
136	"	8トレンチ 溝2	土師器 坏	0406-4-17	13.7	3.0	7.2	良好	外 5YR7/6 橙 内 5YR7/6 橙	微砂粒含む	外 底面筥削り後ナデ 内 磨耗のため不明
137	"	"	土師器 坏	0406-4-18	12.6	2.25	9.2	良好	外 5YR7/6 橙 内 5YR7/6 橙 / 7.5YR8/4 浅黄橙	微砂粒含む	外 底面筥削り 内 磨耗のため不明
138	"	8トレンチ 溝1	土師器 瓶	0406-4-7			14.0	良好	外 7.5YR8/4 浅黄橙 内 7.5YR8/6 浅黄橙	細砂粒含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
139	"	"	土師器 把手	0406-4-9				やや甘い	外 7.5YR8/3 浅黄橙	砂粒少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
140	"	"	土師器 把手	0406-4-10				やや甘い	外 7.5YR8/3 浅黄橙	砂粒少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
141	"	3トレンチ 遺構面	須恵器 坏蓋	0406-1-1	13.4	3.5		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	白色微砂粒含む	外 回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
142	"	"	須恵器 坏蓋	0406-1-6	14.6	4.6		良好	外 N6 灰 / N4 灰 内 N6 灰	微砂粒少量含む	外 回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
143	"	3トレンチ 住居址1	須恵器 坏蓋	0406-1-10	12.9	3.6		良好	外 N6.5 灰 内 N6.5 灰	微砂粒含む	外 回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
144	"	3トレンチ 住居址2	須恵器 坏蓋	0406-1-12	11.0	3.9		甘い	外 10YR8/1 灰白 内 10YR8/1 灰白	砂粒少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
145	"	"	須恵器 坏蓋	0406-1-14	11.0	3.2		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	密	外 底面回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
146	"	"	須恵器 坏蓋	0406-1-15	10.4	3.6		良好	外 N6 灰 内 N7 灰	白色微砂粒少量 含む	外 回転ナデ 内 回転ナデ
147	"	"	須恵器 坏蓋	0406-1-16	10.6	3.7		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	白色微砂粒少量 含む	外 筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
148	"	"	須恵器 坏蓋	0406-1-17	9.8	3.2		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	微砂粒少量含む	外 回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
149	"	"	須恵器 坏蓋	0604-4-18	11.0	3.0		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	白色微砂粒少量 含む	外 底面筥削り 内 磨耗のため不明
150	"	3トレンチ 住居址1	須恵器 坏身	0406-1-7	12.2	4.0	6.1	良好	外 N6 灰 内 N7 灰白	密	外 底面回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
151	"	"	須恵器 坏身	0406-1-3	14.2	4.0		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	微砂粒含む	外 底面回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
152	"	5トレンチ 住居址2	須恵器 坏身	0406-2-5	11.4			良好	外 N6 灰 内 N6 灰	微砂粒少量含む	外 底面回転筥削り、回転ナデ 内 回転ナデ
153	"	7トレンチ 灰褐色土	須恵器 坏身	0406-3-1	12.2			良好	外 N6 灰白 内 N6 灰白	微砂粒少量含む	外 回転ナデ、自然剥付着 内 回転ナデ

番号	遺跡名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整
					口径	器高	底径				
154	斑鳩寺南遺跡	13 トレンチ溝	須恵器 坏身	0406-5-1	12.4	4.8		良好	外 N6 灰 内 N6 灰	白色微砂粒含む	外 底面回転鏡削り、回転ナデ 内 回転ナデ
155	"	3 トレンチ住居址1	須恵器 高坏蓋	0406-1-9	15.5	4.9		良好	外 N6 灰 内 N7 灰白	白色微砂粒含む	外 回転鏡削り、回転ナデ 内 回転ナデ
156	"	8 トレンチ溝1	須恵器 高坏蓋	0406-4-1				良好	外 N6 灰 内 N6 灰	微砂粒少量含む	外 回転鏡削り、回転ナデ 内 ナデ
157	"	"	須恵器 高坏蓋	0406-4-4	15.1	5.2		良好	外 N7 灰白 / N6 灰 内 N7 灰白	白色微砂粒含む	外 回転鏡削り、回転ナデ 内 回転ナデ
158	"	14 トレンチ褐灰色土	須恵器 高坏蓋	0404-6-1	15.8			良好	外 N6 灰 / N7 灰白 内 N6 灰	白色微砂粒少量含む	外 回転ナデ、カキ目、列点文 内 回転ナデ
159	"	3 トレンチ遺構面	須恵器 高坏	0406-1-4	10.6			良好	外 N6 灰 内 N6 灰	微砂粒含む	外 回転ナデ、列点文 内 回転ナデ
160	"	8 トレンチ溝1	須恵器 ハソウ	0406-4-5				良好	外 5R6/1 赤灰 / N5 灰 / N6 灰白 内 5P4/1 暗紫灰	微砂粒少量含む	外 回転ナデ、底部回転鏡削り 内 ナデ
161	"	8 トレンチ溝2	須恵器 皿	0406-4-14	8.0	2.0	7.4	良好	外 N6 灰 内 N6 灰	微砂粒少量含む	外 ナデ、糸切底 内 ナデ
162	"	8 トレンチ溝2	須恵器 碗	0406-4-12	16.2	5.3	6.2	良好	外 N7 灰白 / N5 灰 内 N7 灰白	微砂粒少量含む	外 回転ナデ、糸切底 内 回転ナデ
163	"	"	須恵器 碗	0406-4-13	16.0	5.3	7.4	良好	外 N7 灰白 / N6 灰 内 N7 灰白	微砂粒少量含む	外 回転ナデ、糸切底 内 回転ナデ
164	"	"	須恵器 碗底部	0406-4-15			6.8	良好	外 N6 灰 内 N6 灰 / N7 灰白	微砂粒少量含む	外 回転ナデ、糸切底 内 回転ナデ
165	"	"	白磁 碗	0406-4-2	16.4	6.5	6.0	堅緻	外 5Y7/1 灰白(軸) / 7.5Y7/1 灰白(露胎部) 内 5Y7/1 灰白	密	外 施釉、底部露胎 内 施釉
166	"	"	白磁 碗底部	0406-4-16			4.8	堅緻	外 2.5Y 灰白(露胎部) 内 2.5Y7/2 灰黄(軸)	密	外 露胎 内 施釉
167	"	"	布目瓦	0406-4-19			厚さ 1.6	良好	外 7.5YR8/3 浅黄橙	密	凹 布目痕 凸 格子叩き
168	"	3 トレンチ住居址1	石鏃	0406-1-8							
169	"	8 トレンチ溝2	砥石	0406-4-20							
170	"	"	砥石	0406-4-21							
171	田中遺跡	1 坪	須恵器 高坏蓋	0405-1-1	11.2	2.9		良好	外 N6 灰 内 N6 灰	微砂粒少量含む	外 回転削り、回転ナデ 内 回転ナデ
172	立岡東遺跡	5 トレンチ	須恵器 高坏蓋	0407-1-1	14.5			良好	外 10Y7/1 灰白 内 10Y7/1 灰白	微砂粒少量含む	外 回転削り、回転ナデ 内 削り後回転ナデ

報告書抄録

ふりがな	へいせい14・15・16ねんど まいぞうぶんかざいちょうさねんぼう
書名	平成14・15・16年度 埋蔵文化財調査年報
副書名	一町単費事業及び受託事業対象分一
巻次	
シリーズ名	太子町文化財資料
シリーズ番号	第75集
編著者名	三村修次 海野浩幸
編集機関	太子町教育委員会
所在地	〒671-1561 揖保郡太子町鵜 1369-1 TEL.079-277-1017
発行年月日	西暦 2009年3月31日

平成14年度

遺跡名	いかるがいしだいせき 鵜石田遺跡					
所在地	いぼぐんたいしちょういかるがあざいしだ 揖保郡太子町鵜字石田					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 50"	134° 34' 07"	2002・4・22	70	店舗建設
450010	450016			~4・23		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鵜石田遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	溝・土坑・ピット	土師器・須恵器・白磁・土錘		

遺跡名	とうなんいせき だい15じちようき 東南遺跡(第15次調査)					
所在地	いぼぐんたいしちょういかるがあざかまののうち 揖保郡太子町鵜字構ノ内					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 48"	134° 35' 00"	2002・7・8	150.8	公共下水道埋設
450010	450081			~8・2		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東南遺跡	集落跡	縄紋時代 ~中世	土坑・溝・ピット	縄紋土器	公共事業	

遺跡名	いかるがいせき だい18じちようき 鵜遺跡(第18次調査)					
所在地	いぼぐんたいしちょうとうぼあざたかだ 揖保郡太子町東保字高田					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 56"	134° 35' 04"	2002・9・26	36.5	駐車場整備
450010	450017			~10・4		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鵜遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	土坑・ピット	石鏃・弥生土器	公共事業	

遺跡名		鶮遺跡 (第19次調査)				
所在地		揖保郡太子町東保字高田				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 54"	134° 35' 04"	2002・9・30	19	交番庁舎建設
450010	450017			～10・3		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鶮遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世	溝	砥石・土師器	公共事業	

遺跡名		鶮遺跡 (第20次調査)				
所在地		揖保郡太子町鶮字小栗田				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 59"	134° 35' 04"	2002・9・30	37.5	宅地造成
450010	450017			～10・11		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鶮遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世	溝	弥生土器		

遺跡名		蓮常寺東遺跡				
所在地		揖保郡太子町蓮常寺字大道				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 18"	134° 34' 58"	2002・10・22	48	宅地造成
450010	450211					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
蓮常寺東遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世		石鏃・土師器 須恵器		

遺跡名		糸井字前田				
所在地		揖保郡太子町糸井字前田				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 48' 55"	134° 35' 01"	2002・10・30	48	共同住宅建設
450010				～10・31		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
				土師器・須恵器		

遺跡名	鵜遺跡 (第21次調査)					
所在地	揖保郡太子町東保字高田					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 59"	134° 35' 04"	2002・11・5	44	交番庁舎建設
450010	450017			~11・12		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
鵜遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	土坑・溝	弥生土器・土師器	公共事業 本発掘調査	

遺跡名	南柳遺跡 (第8次調査)					
所在地	揖保郡太子町佐用岡字南柳					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 16"	134° 35' 20"	2003・1・16	65.8	駐車場整備
450010	450026			~1・20		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
南柳遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	土坑・溝・ピット	弥生土器・土師器 須恵器	公共事業	

遺跡名	蓮常寺北遺跡 (第4次調査)					
所在地	揖保郡太子町蓮常寺字一ノ宮					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 18"	134° 34' 38"	2003・3・17	80.34	店舗建設
450010	450212			~3・19		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
蓮常北遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	土坑・ピット	弥生土器・須恵器		

平成15年度

遺跡名	蓮常寺北遺跡 (第5次調査)					
所在地	揖保郡太子町蓮常寺字一ノ宮					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 18"	134° 34' 38"	2003・4・7	289	店舗建設
450010	450212			~5・2		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
蓮常北遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	住居址・土坑・溝 ピット	弥生土器・土師器 須恵器	受託事業 本発掘調査	

遺跡名		立岡笹山遺跡				
所在地		揖保郡太子町立岡字笹山				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 18"	134° 34' 58"	2003・5・27	12	個人住宅建設
450010	450224					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
立岡笹山遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世		須恵器		

遺跡名		田中遺跡				
所在地		揖保郡太子町太田字ヨフカ				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 31"	134° 36' 29"	2003・5・30	16	宅地造成
450010	450107					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
田中遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世				

遺跡名		東保遺跡				
所在地		揖保郡太子町東保字中ノ壺、字木森				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 55"	134° 35' 32"	2003・7・17	72.2	宅地造成
450010	4500078			～7・25		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東保遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世	溝	弥生土器・土師器 須恵器・輸入磁器		

遺跡名		楯岩城跡				
所在地		揖保郡太子町山田字大山				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 14"	134° 36' 53"	2003・8・5	30	情報基盤整備
450010	450109			～8・11		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
楯岩城跡	城跡	中世	ピット	土師器	公共事業	

遺跡名	やまだだいやま8ごうふん ひじりこふん 山田大山8号墳 (聖古墳)					
所在地	いぼぐんたいしちょうやまだあざだいやま 揖保郡太子町山田字大山					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 10"	134° 37' 10"	2003・9・1	34	無線基地局建設
450010	450151			~9・3		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
山田大山8号墳	古墳	古墳				

遺跡名	かわしまいせき だい14じちょうさ 川島遺跡 (第14次調査)					
所在地	いぼぐんたいしちょうおおだあざやまのした 揖保郡太子町太田字山ノ下					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 33"	134° 36' 22"	2003・9・4	36.9	宅地造成
450010	450092					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
川島遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世		輸入磁器		

遺跡名	つくしだいどうあと 筑紫大道跡					
所在地	いぼぐんたいしちょうさよおかあざさくらがつぼ 揖保郡太子町佐用岡字桜ヶ坪					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 30"	134° 34' 48"	2003・9・16	29.7	集会所建設
450010	450222			~9・18		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
筑紫大道跡	道跡	中世		弥生土器・須恵器		

遺跡名	たけひろいせき だい2じちょうさ 竹広遺跡 (第2次調査)					
所在地	いぼぐんたいしちょうたけひろあざちようきん 揖保郡太子町竹広字長金					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 48' 49"	134° 34' 50"	2003・12・1	19	公会堂建設
450010	450245			~12・2		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
竹広遺跡	集落跡	中世	溝	土師器・須恵器		

遺 跡 名	立岡南遺跡 (第2次調査)					
所 在 地	揖保郡太子町立岡字山崎					
コ ー ド	北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 24"	134° 34' 38"	2003・11・25	44.8	宅地造成
450010	450205			~11・27		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
立岡南遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	溝	弥生土器・須恵器・		

遺 跡 名	矢田部南遺跡					
所 在 地	揖保郡太子町矢田部字書写田					
コ ー ド	北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 17"	134° 35' 18"	2003・12・8	80.6	宅地造成
450010	450244			~12・11		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
矢田部南遺跡	集落跡	弥生時代	土坑・ピット 集石遺構	弥生土器・須恵器・		

遺 跡 名	福井大池					
所 在 地	揖保郡太子町原字福井大池					
コ ー ド	北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 12"	134° 36' 43"	2003・12・17	180	堤防改修
450010				~2004・1・28		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
					公共事業	

平成 16 年度

遺 跡 名	東保高田遺跡					
所 在 地	揖保郡太子町東保字宗田					
コ ー ド	北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 54"	134° 35' 12"	2004・7・22	102	集合住宅建設
450010	450079			~7・30		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
東保高田遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世	溝	弥生土器・土師器 須恵器	受託事業 本発掘調査	

遺跡名		斑鳩寺南遺跡				
所在地		揖保郡太子町 鷗字中宮寺、字水走				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 24"	134° 34' 39"	2004・12・22	548.20	宅地造成
450010	450013			~2005・1・31		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
斑鳩寺南遺跡	集落跡	縄文時代 ~中世	住居址・土坑・溝 ピット	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・輸入磁器・布目瓦 石鏃・石製品		

遺跡名		城山遺跡				
所在地		揖保郡太子町 鷗字植竹				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 14"	134° 34' 56"	2005・1・20	8	個人住宅建設
450010	450005					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
城山遺跡	集落跡	縄文時代 ~中世				

遺跡名		田中遺跡				
所在地		揖保郡太子町 太田字五反田				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 56"	134° 36' 20"	2005・2・4	12	宅地造成
450010	450107			~2・7		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
田中遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世		土師器・須恵器		

遺跡名		立岡東遺跡				
所在地		揖保郡太子町 立岡字小畑				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 40"	134° 34' 48"	2005・2・14	48	宅地造成
450010	450206			~2・18		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
立岡東遺跡	集落跡	弥生時代 ~中世		土師器・須恵器		

平成 14・15・16 年度
埋蔵文化財調査報

発行日 平成 21 年 3 月 31 日
発 行 太子町教育委員会
〒671-1592
兵庫県揖保郡太子町鶴 1369-1
電話 079-277-1017
印 刷 富士高速印刷株式会社

